

岩手県立釜石祥雲支援学校

<研究テーマ>

「主体的・対話的で深い学び」による生活に活用できる力の育成

～ 教科等横断的な視点による合わせた指導の内容整理と指導の充実をととして ～

2年次研究（令和3～4年度）

<研究のまとめ>



旧定内校舎

新平田校舎



目次

I	研究主題	2
II	研究の目的と内容	2
	1 研究の目的	
	2 研究の内容（方法）	
	3 研究の目標	
III	推進計画	4
	1 1年次（令和3年度） ～課題の確認と内容の見直し～	
	2 2年次（令和4年度） ～新内容による授業実践と検証～	
IV	研究の構想図	6
V	研究体制	7
	1 研究の基本的な進め方	
	2 研究体制図	
VI	推進計画	8
	1 1年次目（令和3年度の推進計画）	
	2 2年次目（令和4年度の推進計画）	
VII	研究実践	9
	1 全校研修会の実施	9
	（1）R3年度全校研修会	
	（2）R4年度全校研修会	
	2 チェックシートの改善と活用	11
	（1）授業のチェックシートの作成と活用	11
	ア 「主体的・対話的で深い学び」を進めるためのチェックシート（教師側）	
	イ 「主体的・対話的で深い学び」観察チェックシート（児童生徒の姿）	
	3 各グループの研究実践	19
	（1）グループの構成と各グループにおける取り組みの内容について	
	（2）「学習指導要領目標・段階内容表」の作成と年間指導計画の新様式の作成について	
	ア 「学習指導要領目標・段階内容表」の作成と活用	
	イ 教務部との連携	
	ウ 「年間指導計画」の新様式の改定について	
	（3）各グループ（学部）の実践報告	
	ア 小学部	24
	小学部低学団	25
	小学部高学団	34
	イ 中学部	43
	ウ 高等部	53
	エ 分教室	62
	（4）各研究グループ（学部）の実践のまとめ	
	4 授業見学期間の取り組み	71
	（1）実施概要	
	（2）まとめ	
	5 全校授業検討会	76
	（1）実施概要	
	（2）まとめ	
VIII	研究のまとめ	77
	1 研究の目標について	
	2 研究の成果	
	3 おわりに	

I 研究主題

「主体的・対話的で深い学び」による生活に活用できる力の育成

～ 教科等横断的な視点による合わせた指導の内容整理と指導の充実をととして ～

新学習指導要領の今回の改訂の趣旨が教育課程の編成や実施に生かされるようにする観点から、①資質・能力の育成を目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める、②カリキュラム・マネジメントの充実、③児童生徒の発達の支援、家庭や地域との連携・協働を重視するなどの改善について総則で示されている。

本校では令和2年度までの研究で、特に①について取り組み、本校の各学部等で求められる「主体的・対話的で深い学び」の姿の共通理解、3観点による評価規準を導入した学習指導案による授業実践、「いわての授業づくり3つの視点」によるチェックシートの活用について行い、さらなる充実と改善を図るために継続して取り組むこととしている。

本校の知的障がいを対象とした教育課程では「各教科等を合わせた指導」（以下、「合わせた指導」）の比重が多くなっているが、その内容について新学習指導要領にそった見直しが必要ではないかという意見が前研究の課題としてあげられた。

そこで、「合わせた指導」で育てたい資質・能力や各教科等との関連や学部等間の系統性を明らかにし、教科等横断的な視点で内容を整理することで、生活で活用できる確かな力を育てたいと考える。

II 研究の目的と内容

1 研究の目的

- 「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を推進する。
- 「合わせた指導」の学習内容やねらいを整理し指導の充実を図る。
- カリキュラム・マネジメントの推進を図る。

2 研究の内容（方法）

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」の授業のさらなる充実と改善
(チェックシートの見直しと活用→授業のPDCAサイクルの確立へ)
- (2) 「合わせた指導」に関する共通理解と各教科等の内容理解の推進
(全校研修会、各グループ研究会)
- (3) 「合わせた指導」の学習内容の見直し
(本校における「合わせた指導」の位置づけや内容の確認、年間指導計画様式の見直し、各教科内容表との関連の確認、学部間の系統性の確認〈コンテンツとコンピテンシー〉)
- (4) 学部間の実態共有や授業改善のヒントを得るための授業見学の実施
(授業見学期間)
- (5) 「合わせた指導」の授業研究会の実施
(指導法の充実、改善)

3 研究の目標

- (1) 各教科との関連を意識した学習指導案の作成と授業研究会を行い、各教科等の内容に関する理解を深める。
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」を推進するためにチェックシート等の実施により、意識の改善を図る。
- (3) 「合わせた指導」と各教科等の内容に関する理解を推進し、新学習指導要領に示された内容やねらいを実現できるような授業づくりを行う。
- (4) 現在の学習内容の確認と年間指導計画の改善に向けた方向性を探る(課題や改善点の確認)。
- (5) 学習の教科間のつながりと系統性を明らかにし、児童生徒の学習の深い学びを推進する。(カリキュラム・マネジメント)

Ⅲ 推進計画（2年次研究）

1 1年次（令和3年度） ～課題の確認と内容の見直し～

(1) 全校研修会（5月）

- 「合わせた指導」の定義と指導上の留意点（研究授業のポイント）、新学習指導要領で求められる各教科の内容、教科等横断的な視点による資質・能力の育成、3観点での評価（個別の指導計画・通知表・指導要録）

(2) チェックシートの改善と活用

- ア 授業づくりの観点チェックシート（昨年度のをベースに改善）
 - 「いわての授業づくり3つの視点」を参考に本校版に作成したチェックリスト。教職員がより良い授業づくりのために心がけることをリストアップし、意識して行っているかどうかを確認する。（意識調査、6月・12月）
- イ 求める児童生徒の姿チェックシート（昨年度のをベースに改善）
 - どんな「～している姿」が見られれば、「主体的・対話的で深い学び」の姿が見られたと判断できるかどうかを客観的に評価するための手だて。子どもの具体的な行動で判断するのがポイント。（例：「主体的」→「教材に注目している」「『これ、なあに』と質問する」など、一人一人の実態に合った教師が期待する行動を記述）
実態把握や児童生徒理解、3観点による具体的な目標設定や評価に活用。

(3) 各グループ研究会（研究日）

- 児童生徒理解（4月）
研究推進計画立案（5月）
合わせた指導の題材（目標）と各教科の内容表との関連チェック（6～7月）
年間題材配列表の作成によるコンテンツの配置の確認（6～7月）
授業参観シート（授業見学期間）の他学部からの質問回答（7月）
現在の合わせた指導の課題の確認と対応（8～11月）
「合わせた指導」の授業実践と授業研究会（7～12月）*1回以上
令和3年度年間指導計画新様式の検討と題材の検討（10月～1月）

(4) 授業見学期間（6月）

- 各学部の実態の共有、学部間の理解の促進
授業参観シートに学んだことや感じたことを書き意見交換を行う。

(5) 授業研究会（7～11月）

- 令和2年版学習指導案の様式で「合わせた指導」の指導案を作成し、授業研究会を行う。授業研究会は基本的には全職員を対象とし、自分のグループ以外の授業研究会に2回以上参加することを努力目標とする。「主体的・対話的で深い学び」に関することと「合わせた指導」に関することの二つを協議の柱とする。事前に参加希望をとり、人数に応じてグループワークを取り入れるなど、できるだけ多くの意見が出るようにする。

2 2年次目（令和4年度） ～新内容による授業実践と検証～

(1) チェックシートの活用と授業の改善

ア 授業づくりの観点チェックシート（6月、12月）

→「いわての授業づくり3つの視点」を参考に本校版作成した、教職員がより良い授業づくりのために心がけることを項目にしたチェックリスト。今年度も2回実施し、職員の意識向上を図りたい

イ 求める児童生徒の姿チェックシート（11月）

→どんな「～している姿」が見られれば、「主体的・対話的で深い学び」の姿が見られたと判断できるかを客観的に評価するための手立て。また、授業づくりの際もそのような児童生徒から引き出したい姿を意識する。授業見学期間に活用し、見学者がチェックした内容や意見を授業者へフィードバックし授業改善に活用してもらう。

(2) 各グループ研究会（研究日）

→年間推進計画の確認、年間指導計画の新様式について（4月）

年間題材配列表の作成及び学びのつながりについての検討（5月）

合わせた指導の内容のまとめについて（6月）

グループ内実践検討会（指導案検討など）（8月）

合わせた指導の実践授業検討（12月）

グループ内研究まとめ（1月）

(3) 年間題材配列表の作成と活用（5月）

→令和3年度に提案した年間指導計画の様式での年間指導計画の作成。また、「合わせた指導」を軸として全ての教科・領域の年間指導計画を1枚の年間題材配列表にまとめ、教科のつながり、単元のつながり、1年間のつながり、次年度へのつながりなど様々な「つながり」を見やすくし、児童生徒の「深い学び」の実現を図る。

(4) 合わせた指導の各単元と各教科等との内容関連一覧表の作成と活用

→「合わせた指導」の教科等との関連一覧表を作成し、偏りや学び残しなどがいないかを確認し、内容のまとめや目標などを意識した単元設定や授業づくりを行う。

(5) 授業見学期間（11月～12月）

→新校舎への移転後に実施。各学部の実態の共有、学部間の理解の促進。

チェックシートを活用して意見交換を行う。分教室については今年度もビデオ公開で行う。

(6) 全校授業検討会の実施（12月）

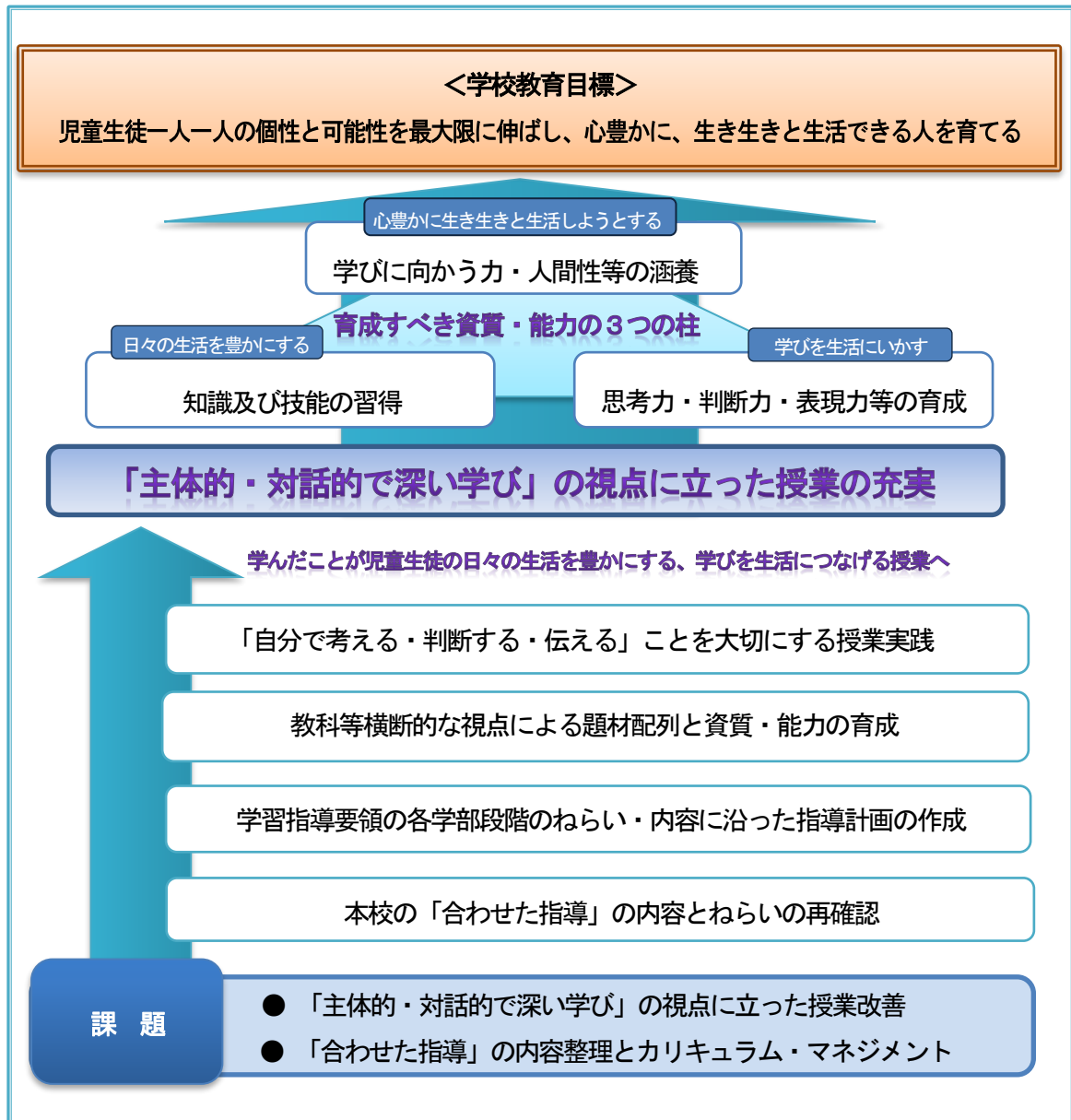
→今年度は、単元全体の目標の設定、計画のたてかた、児童生徒の変容（写真や動画などの記録による）、評価のしかたなどについてグループ毎に実践報告をし、意見交換を行う。また、その際には生活とのつながりについても紹介し、今後の授業計画や授業実践に役立つようにしたい。

(7) まとめ

→2年間の研究の成果や教育実践についてまとめ、令和3年度に提案した年間指導計画の様式について改定案を提案する。

IV 研究の構想図 【図1】

下図は本研究の構想図である。前年度の研究であげられた課題をもとに今回の研究で取り組む主な内容（手だて）によって、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業の充実を図ることで、育成すべき資質能力の3つの柱をバランス良く育て、本校の学校教育目標の達成に資することを表現している。



V 研究体制

1 研究の基本的な進め方

令和3年度から令和4年度の2年次計画で取り組む。

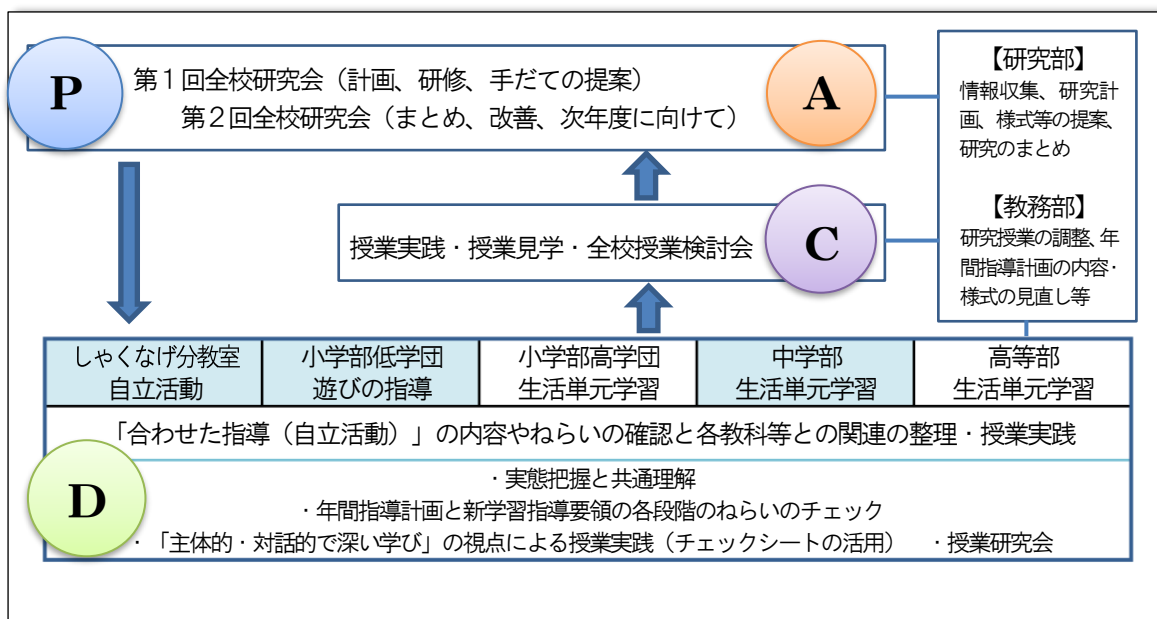
今回の研究は、学部別に研究テーマを分けることなく同一のテーマで進める。これは、今回の研究内容が本校の教育課程全体にかかわるものであり、学部間のつながりや系統性を確認しながら進める必要があるためである。「合わせた指導」を授業実践の中心のテーマとしているが、「合わせた指導」を中心として各教科等との関連を整理し、新学習指導要領の各学部の各段階のねらいや内容とのすり合わせを行うことは実際にはすべての教科等の学習内容の見直しにも関わるものである。そのため、研究の推進にあたっては、教務部と連携することで、次年度以降の指導計画等に反映できるように進めたいと考える。

「合わせた指導」が教育課程にない病弱肢体不自由通常学級や自立活動中心の重複学級にとっても「『主体的・対話的で深い学び』による生活に活用できる力の育成」というテーマは共通であることから、授業実践においては同様の手だて（チェックシート等）を活用できるように工夫したいと考える。

2 研究体制図（全体）

下の図は研究体制を図に表したものである。今回の研究では、教務部との連携が必要になることから教務部を体制図に入れた。研究のPDCAサイクルが構築できるよう、学部等と連携を密にして進めていきたい。

* 【図2】研究体制図



VI 推進計画

1 1年次（令和3年度）の推進計画

月	主な取り組み	内 容
4	研究日	研究テーマ、テーマ設定の理由等の検討
5	第1回全校研究会・全校研修会	研究主題、進め方、前年度研究の確認、新学習指導要領の学習内容と評価に関する研修
6	授業見学期間 研究日	児童生徒の実態情報交換 指導案の検討、新学習指導要領の各段階のねらいのチェック
7	研究授業、授業研究会 研究日 高教研講演会	分教室、小高学団、中学部、生活単元学習の課題の確認 年間題材配列表の作成による題材同士のつながりの確認 正しい発声や発語で「伝える力を高める」研修
8		
9	研究日、研究授業、授業研究会	指導案の検討、教科等横断的な視点による題材の見直し
10	研究授業、授業研究会	生活単元学習の改善の視点検討
11	研究授業、授業研究会	年間指導計画の改善の視点検討
12	研究日	年間指導計画改善の視点を生かした様式の検討
1	研究日	各学部としての1年次目のまとめ、成果と課題
2	第2回全校研究会（まとめ）	
3	令和4年度年間指導計画の作成	学習指導要領の内容やねらいに対応した年間指導計画の作成

2 2年次（令和4年度）の推進計画

月	主な取り組み	内 容
4	研究日	テーマ・メンバー確認、年間指導計画新様式について
5	第1回全校研究会・全校研修会 研究日	研究テーマの確認、今年度の進め方について 年間題材配列表の作成及び学びのつながりについて
6	研究日 職員アンケート	合わせた指導の内容のまとまりについて 「いわての授業づくり3つの視点」を意識した授業づくり
7		
8	グループ内実践検討会 研究日	教科や生活とのつながりを意識した授業づくり
9		
10		ミニ研修会
11	授業見学期間	チェックシートを活用した児童生徒の実態情報交換
12	研究日 職員アンケート	遊び及び生活単元学習の検討・改善
1	研究日	グループごと今回の研究のまとめ 成果と課題
2	第2回全校研究会（まとめ）	令和4年度の年間指導計画様式の改善案
3	研究紀要の発行	

VII 研究実践

1 全校研修会の実施

(1) R3年度の実施について

R3年度は次の3点についての全校研修会を実施し、本研究を進めるにあたって必要な事項について確認を行った。

- ① 本校における「主体的・対話的で深い学びをめざす姿」の確認
- ② 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善
- ③ 新学習指導要領の理解とカリキュラム・マネジメント

<本校における「主体的・対話的で深い学び」のめざす姿>

<主体的な姿>

見通しをもって自分で行動しようとし、生活を楽しもうとしている姿

<対話的な姿>

人・もの・こととの関わりで課題を解決したり、自分の考えを広げたりしている姿

<深い学びの姿>

学んだことが身につけ、生活に生かしている姿

学校教育目標と各研究グループのテーマの関係及び各段階の「主体的・対話的で深い学び」のめざす姿【図3】

学校教育目標	児童生徒一人一人の個性と可能性を最大限に伸ばし、心豊かに生き生きと生活できる人を育てる			
	各学部等	小学部	中学部	高等部
キャリア発達段階	〇〇と認知能力の向上	身辺自立の確立と人間関係の基盤形成	社会生活能力と自己表現力の育成	社会生活能力の確立と自己選択・自己決定力の育成
学部目標	(所属する各学部の目標)	・規則正しく生活し、健やかな心と体をつくる子 ・身のまわりのことに進んで取り組む子 ・物を大切にし、友だちと仲良くする子 ・遊びや勉強に一生懸命取り組む子	・思いやりの心をもち、仲間を大切にできる生徒 ・健康な体づくりに励む生徒 ・自分のことに進んで取り組む生徒 ・みんなの力を合わせ、最後までやり抜く生徒 ・生活に必要な力を高め、生き生き活動する生徒	・思いやりの心をもち、周囲のことを考えて行動する生徒 ・心身の調和を図り、健康や安全について考えて生活する生徒 ・自分の目標をもち、自己実現、進路実現に向けて進んで学ぶ生徒 ・自分の立場や役割を理解し、仲間と協力して活動する生徒 ・社会生活について考え、明るく豊かに生活する生徒
キャリア発達課題	・生活リズムを整える ・自他への関心を高める ・認知能力を高める ・身辺処理に関心をもつ	・身の回りのことが自分でできる。 ・学習や遊びに取り組む ・他者とのやりとりができる ・友だちと一緒に作業ができる。	・基本的な生活習慣を身につける。 ・自主性や主体性を育てる。 ・楽しい人とコミュニケーションがとれる。 ・友だちと協力して作業ができる	・マナーやルールを守って行動する。 ・自己選択・自己決定ができる。 ・自己表現とメタ認知(相手がどう思うか)ができる。 ・協働して作業にあたることができる。

各学部の目標、発達段階・発達課題に応じた研究テーマの設定と取り組み



各学部の発達段階や発達課題を学校全体で見直し、つながりを意識した指導支援を行うことで、学校教育目標の実現をめざす

研究グループ	重度重複(自立活動)	小学部低学段	小学部高学段	中学部	高等部(福祉的就労)	高等部一般就労
グループの研究テーマ	児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」とは ～個から集団へ学びをつなげる授業づくり～	児童の「人・物・こと」の関わり に焦点をあてた授業づくり ～遊びの指導をとおして～	自分の思いを表現するための 授業づくり ～教科間のつながりを意識 した授業実践をとおして～	「わかる!できた!やってみよう!」 学んだことを生かせる授業づくり ～生徒の実態に合わせた「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業実践をとおして～	作業学習における「主体的・対話的で深い学び」の視点を 取り入れた個々の意思 表示を広げる支援方法	作業学習における「主体的・対話的で深い学び」の視点を 取り入れた表現力を高める支援 方法
研究対象領域等	自立活動	遊びの指導	生活単元学習	各教科と行事等との関連	作業学習(校内実習)	
支援のポイント	〇生活リズムと情緒の 安定を図る支援 〇認知能力を高め、自 他への関心を高める支 援	〇様々な遊びの経験を通 して興味関心を広げる支 援 〇コミュニケーションの 基礎を身につける支援	〇基本的な生活動作や生 活習慣を確かにする支援 〇生き生きとした活動の 中で人間関係の基盤を形 成する支援	〇基本的な社会生活能力を身につける支援 〇それぞれの自己表現力を高める支援 〇経験を広げ、自己有用感や自主性を育てる支 援	〇今ある力を高める(活用できるようにする)支援 〇現実的で実際のな場面に役立つ支援 〇長く続けるための支援(マナー、コミュニケーション能 力、体力、相談する力、生活を楽しむ力)	
主体的・対話的で深い学びのめざす姿	主体的な姿	安定した環境の中で、 自他への関心を示し て、自ら働きかけよう としている姿	「やってみよう」「何だ だろう」と興味関心をも って取り組もうとして いる姿	見通しをもって安心して 参加し「やってみよう」 「できた」と喜びを感じ ている姿	見通しをもって、自ら学習 に取り組もうとして いる姿	自分が今取り組むことを理 解し、意欲的に取り組もう とする姿
	対話的な姿	人・もの・こととの関 わりによって、因果関 係に気づいたり、刺激 を楽しんだりしている 姿	言葉だけでなく、表情や 身振り、指さしなどで伝 え合おうとする姿、教師 や教材と向き合う姿	子ども同士や身近な人と かわかることで楽しさに 気づき興味関心を広げよ うとする姿	一人一人のもつ表現方法で周 りの人・ものとの関 わりをもち、わかたり、で きたりする姿	必要に応じて、それぞれの 方法で、報告・要求・相談 しようとする姿
	深い学びの姿	体験したことで自分な りの気づきを生きて、よ りよい生活につながり ようとしている姿	遊びの場面で学んだこと を生活に生かそうとして いる姿	学習した内容を普段の生 活場面や他の教科の学習 に活用しようとしている 姿	授業をとおして学んだこと を日常生活や他の場 面で活用し、生活を生きて 楽しむ姿	どんな場面でも、自分の すべき行動がわかり、落ち ついて自分らしく生活する 姿

各学部間のつながりや系統性の明確化、学部をこえて授業を見合うための視点、12年間を見通した指導・支援で子どもの力を最大限に伸ばす

全校での研修会を行ったことで、新学習指導要領への理解が深まり、研究の流れや取り組みについてイメージをもつことができたが、カリキュラム・マネジメントに関しては具体的な取り組みや、取り入れ方へのイメージが難しかった。

(2) R4年度の実施について

今年度はカリキュラム・マネジメントについて、より具体的にイメージをできるように、カリキュラム・マネジメントについての研修を行うことにした。

1 ねらい

令和3～4年度に行う研究に関係し、「カリキュラム・マネジメント」について全員で研修を行うことにより共通理解を図る。

2 日時

令和4年5月26日(木) 16:15～16:40

3 講師

校長 外館 悌

4 内容

(1) カリキュラム・マネジメントとは

- ・社会に開かれた教育課程の実現のために
「主体的・対話的で深い学びの実現をめざす授業改善」
「カリキュラム・マネジメントの確立」
これらを両輪として、ともに機能させていくことが大切である。
- ・各学校が児童生徒や地域のニーズや社会的背景に応じて設定した「学校教育目標」を実現するために、学校が主体となって編成した教育課程を実施・評価し改善していくことで、教育の質を高めていくことである。
- ・つまり、カリキュラム・マネジメントの主体も各学校である。
- ・カリキュラム・マネジメントにはいくつかの側面があるが、その中で特別支援学校の学習指導要領にのみ示されているのは次のことである。

個別の指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげていくこと。

- ・教科等横断的な視点に立った育成すべき資質・能力について。
学習の基礎となる資質・能力には次の3点がある。
 - (ア) 言語能力
 - (イ) 情報活用能力
 - (ウ) 問題発見・解決能力
 現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力には「健康・安全・食に関する力」「主権者として求められる力」など、多岐にわたる力が求められている。

(2) カリキュラム・マネジメントの具体的取組

- ・単元計画の改善や年間指導計画の改善などがあげられる。
- ・単元計画では各教科との関連についても意識して計画を立てる。
- ・年間指導計画の改善として生活単元学習と国語や算数などの教科の内容とのつながりを意識して計画をしてみる。

2 チェックシートの改善と活用

(1) 授業のチェックシートの作成と活用

昨年度の研究で作成した「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業づくりの観点を共有し指導を行うことを目的とした「『主体的・対話的で深い学び』を進めるためのチェックシート（教師用）」と、児童生徒の「主体的な姿」「対話的な姿」「深い学びの姿」の実態把握をするための「観察チェックシート（児童生徒の姿）」を今年度も継続して活用することとした。

ア 「主体的・対話的で深い学び」を進めるためのチェックシート（教師側）

(ア) 作成の方法

チェックシートの項目の作成にあたっては、「いわての授業づくり3つの視点」を参考に本校の児童生徒の実態と指導形態に合わせて再構成し作成をおこなった。つまり、あたたかい人間関係と学習規律を基盤とした学習集団をつくるための「環境」「かかわり」、視点1の「見通し」、視点2の「課題解決」、視点3の「振り返り」の5つの項目を設定し、項目毎に知的障がいや発達障がいのある児童生徒への指導・支援の手だてとして必要な内容を質問項目とした。

(イ) ねらい

- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりで必要なことの共通理解を進める。
- ・ 職員の実践を促すと共にその課題を分析し、授業改善につなげる。

(ウ) 実施方法

- ・ 6月と12月にアンケート方式で意識調査を行う。

(エ) 質問項目及び調査用紙

チェックシートの質問項目は下の表のとおりである。毎回同じ項目で実施することによって、より職員への共通理解を図り、意識の変化が分かりやすいようにした。

環 境 ＜主体的＞	① 児童生徒が安心して（安定して）過ごせるような環境になるようにしている
	② トラブルが起こったときの対応をわかっている（例：パニック、問題行動）
	③ 児童生徒と教師の間に信頼関係ができています
	④ 児童生徒の一人一人の行動や表現の特徴を把握している
見通し （視点1） ＜主体的＞	① 今日のこの時間のねらいや目標を児童生徒にわかる言葉で伝えている
	② 今日のこの時間の評価規準（どの場面で何を見取るか）を伝えている
	③ T1, T2の役割が明確で、いつ誰が何をどうやればよいかお互いわかっている
	④ この題材の指導計画（何時間でどんなことをどうするか）を把握している
課題解決 （視点2） ＜対話的＞	① 児童生徒の実態にあった題材や課題の設定ができています（質・量）
	② 児童生徒が自分で考えたり、試行錯誤したりする場面を設定している
	③ 児童生徒が自分で気づいたり、発見・解決したりするよう支援している
	④ 友だちの様子や資料（もの・こと）から、自分の考えを広げられるよう支援している
振り返り （視点3） ＜主体的・深い学び＞	① 次の時間の内容などを伝えている
	② 達成感や満足感、学習内容の有用感などを感じられるようにしている
	③ 学んだことが、今の生活やこれからの生活にどう生かされるのかを伝えている
	④ 児童生徒一人一人の変容を把握し、記録している
かかわり ＜その他＞	① 児童生徒が理解できる言葉や方法で、シンプルに伝えている（たくさん話さない）
	② 児童生徒を呼ぶときには、「～さん」「～くん」と呼んでいる
	③ 児童生徒の成長や可能性を信じ、個々の能力を最大限に伸ばそうとしている（限界を決めない）
	④ 保護者や支援者にできるようになったことを伝えている（または担任に伝えている）

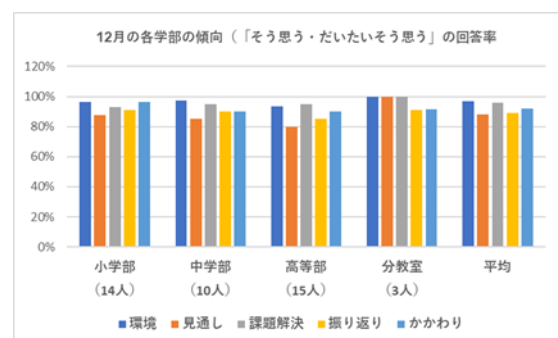
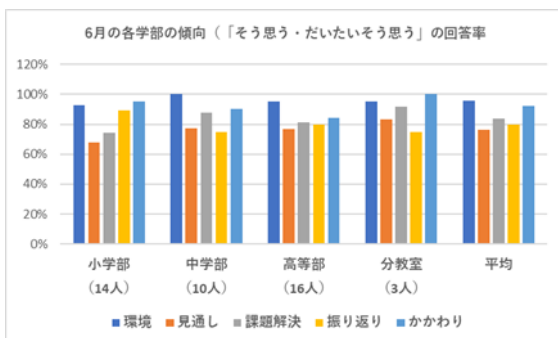
* ()はいわての授業づくり3つの視点との関連、<>は「主体的・対話的で深い学び」との関連

(オ) 結果概要

a R3年度の結果（網掛けは80%以下の項目）

教師側（意識調査） 6月		そう思う、だいたいそう思うの合計				
		小 (14人)	中 (10人)	高 (16人)	分 (3人)	全体
環境	①児童生徒が安心して(安定して)過ごせるような環境になるようにしている	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	②トラブルが起こったときの対応をわかっている(例:パニック、問題行動)	85.7%	100.0%	93.8%	100.0%	94.9%
	③児童生徒と教師の間に信頼関係ができています	92.9%	100.0%	93.8%	100.0%	96.7%
	④児童生徒の一人一人の行動や表現の特徴を把握している	92.8%	100.0%	93.8%	100.0%	96.7%
	平均	92.9%	100.0%	95.4%	100.0%	97.1%
見通し	①今日のこの時間のねらいや目標を児童生徒にわかる言葉で伝えている	78.5%	90.0%	87.6%	100.0%	89.0%
	②今日のこの時間の評価規準(どの場面で見取るか)を伝えている	64.2%	20.0%	56.3%	33.3%	43.5%
	③T1,T2の役割が明確で、いつ誰が何をどうやればよいかお互いわかっている	57.1%	100.0%	75.1%	100.0%	83.1%
	④この題材の指導計画(何時間でどんなことをどうするか)を把握している	72.2%	100.0%	87.5%	100.0%	89.9%
	平均	68.0%	77.5%	76.6%	83.3%	76.4%
課題解決	①児童生徒の実態にあった題材や課題の設定ができています(質・量)	78.6%	90.0%	87.6%	100.0%	89.1%
	②児童生徒が自分で考えたり、試行錯誤する場面を設定している	85.7%	90.0%	81.3%	100.0%	89.3%
	③児童生徒が自分で気づいたり、発見・解決したりするよう支援している	71.4%	90.0%	75.1%	100.0%	84.1%
	④友だちの様子や資料(もの・こと)から、自分の考えを広げられるよう支援している	61.1%	80.0%	81.3%	66.7%	72.3%
	平均	74.2%	87.5%	81.3%	91.7%	83.7%
振り返り	①次の時間の内容などを伝えている	100.0%	90.0%	93.8%	33.3%	79.3%
	②達成感や満足感、学習内容の有用感などを感じられるようにしている	100.0%	90.0%	87.5%	100.0%	94.4%
	③学んだことが、今の生活やこれからの生活にどう生かされるのかを伝えている	64.3%	70.0%	87.6%	66.7%	72.1%
	④児童生徒一人一人の変容を把握し、記録している	92.9%	50.0%	50.1%	100.0%	73.3%
	平均	89.3%	75.0%	79.8%	75.0%	79.8%
かかわり	①児童生徒が理解できる言葉や方法で、シンプルに伝えている(たくさん話さない)	95.8%	90.0%	87.5%	100.0%	93.3%
	②児童生徒を呼ぶときには、「～さん」「～くん」と呼んでいる(呼び捨て、ニックネームで呼ばない)	92.8%	70.0%	68.8%	100.0%	82.9%
	③児童生徒の成長や可能性を信じ、個々の能力を最大限に伸ばそうとしている(限界を決めない)	100.0%	100.0%	87.6%	100.0%	96.9%
	④保護者や支援者にできるようになったことを伝えている(または担任に伝えている)	92.8%	100.0%	93.8%	100.0%	96.7%
	平均	95.4%	90.0%	84.4%	100.0%	92.4%

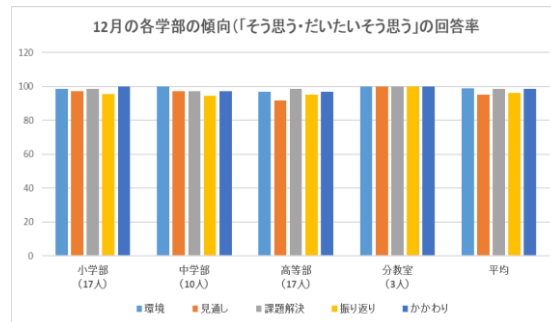
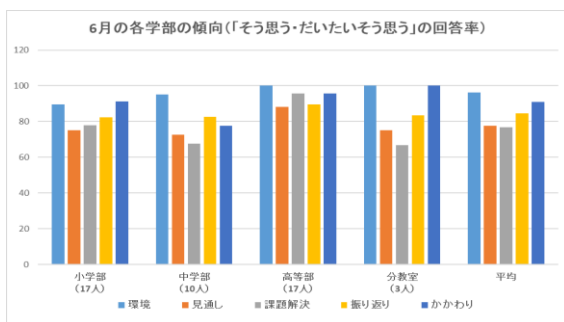
教師側（意識調査） 12月		そう思う、だいたいそう思うの合計				
		小 (14人)	中 (10人)	高 (15人)	分 (3人)	全体
環境	①児童生徒が安心して(安定して)過ごせるような環境になるようにしている	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	②トラブルが起こったときの対応をわかっている(例:パニック、問題行動)	100.0%	90.0%	93.3%	100.0%	95.2%
	③児童生徒と教師の間に信頼関係ができています	85.7%	100.0%	93.3%	100.0%	92.9%
	④児童生徒の一人一人の行動や表現の特徴を把握している	100.0%	100.0%	86.7%	100.0%	95.2%
	平均	96.4%	97.5%	93.3%	100.0%	95.8%
見通し	①今日のこの時間のねらいや目標を児童生徒にわかる言葉で伝えている	92.9%	90.0%	100.0%	100.0%	95.2%
	②今日のこの時間の評価規準(どの場面で見取るか)を伝えている	71.4%	60.0%	60.0%	100.0%	66.7%
	③T1,T2の役割が明確で、いつ誰が何をどうやればよいかお互いわかっている	92.9%	100.0%	73.3%	100.0%	88.1%
	④この題材の指導計画(何時間でどんなことをどうするか)を把握している	92.9%	90.0%	86.7%	100.0%	90.5%
	平均	87.5%	85.0%	80.0%	100.0%	85.1%
課題解決	①児童生徒の実態にあった題材や課題の設定ができています(質・量)	100.0%	100.0%	93.3%	100.0%	97.6%
	②児童生徒が自分で考えたり、試行錯誤する場面を設定している	100.0%	100.0%	93.3%	100.0%	97.6%
	③児童生徒が自分で気づいたり、発見・解決したりするよう支援している	92.9%	90.0%	93.3%	100.0%	92.9%
	④友だちの様子や資料(もの・こと)から、自分の考えを広げられるよう支援している	78.6%	90.0%	100.0%	100.0%	90.5%
	平均	92.9%	95.0%	95.0%	100.0%	94.6%
振り返り	①次の時間の内容などを伝えている	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	②達成感や満足感、学習内容の有用感などを感じられるようにしている	100.0%	100.0%	93.3%	100.0%	97.6%
	③学んだことが、今の生活やこれからの生活にどう生かされるのかを伝えている	64.3%	90.0%	86.7%	66.7%	78.6%
	④児童生徒一人一人の変容を把握し、記録している	100.0%	70.0%	60.0%	100.0%	78.6%
	平均	91.1%	90.0%	85.0%	91.7%	88.7%
かかわり	①児童生徒が理解できる言葉や方法で、シンプルに伝えている(たくさん話さない)	92.9%	90.0%	93.3%	66.7%	90.5%
	②児童生徒を呼ぶときには、「～さん」「～くん」と呼んでいる(呼び捨て、ニックネームで呼ばない)	100.0%	80.0%	80.0%	100.0%	88.1%
	③児童生徒の成長や可能性を信じ、個々の能力を最大限に伸ばそうとしている(限界を決めない)	100.0%	90.0%	93.3%	100.0%	95.2%
	④保護者や支援者にできるようになったことを伝えている(または担任に伝えている)	92.9%	100.0%	93.3%	100.0%	95.2%
	平均	96.4%	90.0%	90.0%	91.7%	92.3%



b R4年度の結果（網掛けは80%以下の項目）

教師側（意識調査） 6月		そう思う、だいたいそう思うの合計				
		小 (17人)	中 (10人)	高 (17人)	分 (3人)	全体
環境	①児童生徒が安心して(安定して)過ごせるような環境になるようにしている	94.1%	100.0%	100.0%	100.0%	98.5%
	②トラブルが起こったときの対応をわかっている(例:パニック、問題行動)	82.3%	100.0%	100.0%	100.0%	95.8%
	③児童生徒と教師の間に信頼関係ができています	94.1%	100.0%	100.0%	100.0%	98.5%
	④児童生徒の一人一人の行動や表現の特徴を把握している	88.2%	80.0%	100.0%	100.0%	92.1%
	平均	89.7%	95.0%	100.0%	100.0%	96.2%
見通し	①今日のこの時間のねらいや目標を児童生徒にわかる言葉で伝えている	76.5%	80.0%	88.2%	100.0%	86.2%
	②今日のこの時間の評価規準(どの場面で見取るか)を把握している	70.6%	70.0%	76.5%	100.0%	79.3%
	③T1,T2の役割が明確で、いつ誰が何をどうやればよいかお互いわかっている	70.6%	70.0%	88.2%	33.3%	65.5%
	④この題材の指導計画(何時間でどんなことをどうするか)を把握している	82.4%	70.0%	100.0%	66.7%	79.8%
	平均	75.0%	72.5%	88.2%	75.0%	77.7%
課題解決	①児童生徒の実態にあった題材や課題の設定ができています(質・量)	94.1%	80.0%	100.0%	66.7%	85.2%
	②児童生徒が自分で考えたり、試行錯誤する場面を設定している	82.4%	80.0%	100.0%	66.7%	82.3%
	③児童生徒が自分で気づいたり、発見・解決したりするよう支援している	76.5%	60.0%	94.1%	66.7%	74.3%
	④友だちの様子や資料(もの・こと)から、自分の考えを広げられるよう支援している	58.8%	50.0%	88.2%	66.7%	65.9%
	平均	78.0%	67.5%	95.6%	66.7%	76.9%
振り返り	①次の時間の内容などを伝えている	82.4%	100.0%	100.0%	66.7%	87.3%
	②達成感や満足感、学習内容の有用感などを感じられるようにしている	88.2%	90.0%	94.1%	100.0%	93.1%
	③学んだことが、次の活動や生活にどう生かされるのかを伝えている	58.8%	50.0%	76.4%	66.7%	63.0%
	④児童生徒一人一人の変容を把握し、次時の指導に生かしている	100.0%	90.0%	88.2%	100.0%	94.6%
	平均	82.4%	82.5%	89.7%	83.4%	84.5%
かかわり	①児童生徒が理解できる言葉や方法で、シンプルに伝えている(たくさん話さない)	82.4%	60.0%	100.0%	100.0%	85.6%
	②児童生徒を呼ぶときには、「～さん」「～くん」と呼んでいる(呼び捨て、ニックネームで呼ばない)	94.1%	80.0%	88.2%	100.0%	90.6%
	③児童生徒の成長や可能性を信じ、個々の能力を最大限に伸ばそうとしている(限界を決めない)	94.1%	80.0%	94.1%	100.0%	92.1%
	④保護者や支援者にできるようになったことを伝えている(または担任に伝えている)	94.1%	90.0%	100.0%	100.0%	96.0%
	平均	91.2%	77.5%	95.6%	100.0%	91.1%

教師側（意識調査） 12月		そう思う、だいたいそう思うの合計				
		小 (17人)	中 (9人)	高 (16人)	分 (3人)	全体
環境	①児童生徒が安心して(安定して)過ごせるような環境になるようにしている	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	②トラブルが起こったときの対応をわかっている(例:パニック、問題行動)	94.1%	100.0%	93.8%	100.0%	97.0%
	③児童生徒と教師の間に信頼関係ができています	100.0%	100.0%	93.8%	100.0%	98.5%
	④児童生徒の一人一人の行動や表現の特徴を把握している	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	平均	98.5%	100.0%	96.9%	100.0%	98.9%
見通し	①今日のこの時間のねらいや目標を児童生徒にわかる言葉で伝えている	100.0%	88.9%	87.5%	100.0%	94.1%
	②今日のこの時間の評価規準(どの場面で見取るか)を把握している	100.0%	88.9%	86.7%	100.0%	93.9%
	③T1,T2の役割が明確で、いつ誰が何をどうやればよいかお互いわかっている	88.3%	88.9%	100.0%	100.0%	94.3%
	④この題材の指導計画(何時間でどんなことをどうするか)を把握している	100.0%	100.0%	93.4%	100.0%	98.4%
	平均	97.1%	91.7%	91.9%	100.0%	95.2%
課題解決	①児童生徒の実態にあった題材や課題の設定ができています(質・量)	100.0%	100.0%	93.8%	100.0%	98.5%
	②児童生徒が自分で考えたり、試行錯誤する場面を設定している	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	③児童生徒が自分で気づいたり、発見・解決したりするよう支援している	100.0%	88.9%	100.0%	100.0%	97.2%
	④友だちの様子や資料(もの・こと)から、自分の考えを広げられるよう支援している	94.1%	100.0%	100.0%	100.0%	98.5%
	平均	98.5%	97.2%	98.5%	100.0%	98.6%
振り返り	①次の時間の内容などを伝えている	100.0%	88.9%	87.5%	100.0%	94.1%
	②達成感や満足感、学習内容の有用感などを感じられるようにしている	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	③学んだことが、次の活動や生活にどう生かされるのかを伝えている	82.3%	88.9%	93.8%	100.0%	91.3%
	④児童生徒一人一人の変容を把握し、次時の指導に生かしている	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	平均	95.6%	94.5%	95.3%	100.0%	96.3%
かかわり	①児童生徒が理解できる言葉や方法で、シンプルに伝えている(たくさん話さない)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	②児童生徒を呼ぶときには、「～さん」「～くん」と呼んでいる(呼び捨て、ニックネームで呼ばない)	100.0%	88.9%	87.5%	100.0%	94.1%
	③児童生徒の成長や可能性を信じ、個々の能力を最大限に伸ばそうとしている(限界を決めない)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	④保護者や支援者にできるようになったことを伝えている(または担任に伝えている)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	平均	100.0%	97.2%	96.9%	100.0%	98.5%



c R3、R4年度を通しての考察

- 年度が変わり職員の異動もあったことから、R3の6月から12月の結果で向上した「見通し」や「課題解決」の項目についてはR4の6月の結果で再度課題となっている。
- R3年度からR4年度で大きく数値が下がっている項目として「振り返り③」が挙げられる。(平均63%) これは、昨年度からの研究テーマとして「生活に活用できる力の育成」を掲げたことで、児童生徒の生活に「つなげる」ことを意識しながら指導を行い、また、今年度から年間指導計画を新様式で作成することになったため、指導者一人一人が改めてそのことを意識したことの表れだと考える。そして、12月の結果(平均91.3%)では大きく数値が上がっていることから、今年度、指導者一人一人が児童生徒の「生活」を意識しながら指導に取り組むことができたということの表れと考えられる。
- 2年間を通じて、安定して数値が高い項目として「かかわり」が挙げられる。このことは、日々児童生徒とかかわる指導者の最も基本的かつ重要な事柄について、一人一人が意識して行っていることの表れと考えることができる。
- R2年度から3年間にわたって行ってきた「主体的・対話的で深い学び」を進めるための職員のチェックシートであるが、令和4年度12月の結果では80%以下の項目はなかった。全体平均でも90%を割った項目はなかった。新学習指導要領で「主体的・対話的で深い学び」を掲げられてから、校内研究でも推し進めてきたことにより、職員の意識も変わってきたと言える。また、定期人事異動により職員の入れ替わりがあっても、安定して高数値に表れるようになってきていることから、個々の意識だけでなく学校全体の意識が高まっていることの表れと考えることができる。

d R4年度各学部の結果と考察

〈小学部〉

- 6月12月どちらも100%だったのは「振り返り④」だった。これは、児童の変化をしっかりと見取り、その変化を踏まえたうえで、次の授業に生かしていることの表れであり、変容の大きい児童期の子供たちの指導で重要な部分である。
- 「課題解決④」の項目では6月に58.8%だったが、12月には94.1%に上昇している。これは自分が中心である児童期には難しい項目ではあるが、指導者が声がけなどを行って、友達の様子を意識させ、児童がわかりやすい教材(資料)の準備を意識的に行うようになったことの表れと考えられる。
- 12月には数値が上昇しているが、「見通し③」と「振り返り③」の項目については課題が残る。
- 「見通し③」の項目について、年齢が低いほどTTを組んでの授業が多くなり、個々の児童の実態把握も難しくなるため、より詳細な打ち合わせが必要となるが、その時間を確保することが難しいことが理由としてあげられる。改善策としては、勤務形態が違う職員もいることから、口頭だけでなく整理して略案に記載し、授業記録を回覧し次時への改善などお互いに見て確認できるようにする必要であると思われる。また、授業の際もT2の指導者が「どうしてよいかわからない」ということは児童にとってもT1の意図やねらいが伝わっていない状況と思われる。T1は意図やねらいを伝える授業づくりが必要であるし、授業に入る指導者もわからないときは確認を行うという主体的な態度が求められる。そのように指導者間でのコミュニケーションが良い授業づくりにつながり、児童の力を伸ばす大切な要素となってくると思われる。
- 「振り返り③」の項目については、質問が「～を伝えている。」ということだったため、言葉の理解が難しい児童も多いこともあり、あまりそう思えないこともあったかと思われる。児童期の子供たちへの指導としては、今の学習がどう生きるかよりも、生活に生きた場面を捉えて、既習事項とのつながりに気づかせ、学習への意欲へつなげていくことを大切にしているからである。しかし、生活単元学習などの合わせた指導で行っている学習と、国語や算数など焦点を絞って行う学習を同時期にリンクさせて行うなど学習のつながりに気づかせるような単元設定の工夫なども必要と考える。
- 「かかわり」の4つの項目に関して、6月の調査でも高数値ではあったが、12月ではすべてにおいて100%になっている。これは小学部の指導者が、児童とのかかわりを大切に日々の授業や生活を送っていることの表れであり、児童期の子供たちに最も大切な項目に関して意識されているということだと思われる。

〈中学部〉

- ・6月では「環境④」が80%ではあったが、6月、12月とも「環境」の項目についてはほぼ100%であった。このことは、今年度生徒も職員も大幅に変わった中学部の中で、指導者が生徒の学習環境について、信頼関係を築きながら丁寧に整えていったことの表れと考える。
- ・6月の時点で「課題解決④」と「振り返り③」が50.0%と低い数値を示しているが、12月にはそれぞれ100%、88.9%に大幅に上がっている。「課題解決④」に関しては、集団での学習場面も多い中学部段階の生徒たちに対して仲間を意識させ、生徒が興味関心をもち主体的に活動できるような教材（資料）を準備するなどして「自分で考えさせる」ことを意識するようになったことを表している。また、「振り返り③」については、6月段階では実態が把握できていなかった生徒に関して、課題を把握することで生活へのつながりを意識して指導することができたことの表れと考える。
- ・一方中学部の課題として「見通し」の項目が全体的に低い傾向にある。（6月は平均72.5%、12月は91.7%）12月は大幅に上がってはいるが、「見通し④」以外は88.9%にとどまっている。これは、6月はチームティーチングとしての職員の役割分担が明確になっておらず、職員自身が見通しをもてていなかったためである。その後、生徒の実態把握を行い、職員が役割分担を明確にして、見通しをもって授業に臨むようにしたことで12月には若干ポイントは上がった。今後、より改善を図るためには、職員間で生徒や授業の情報共有を図り、授業前日には職員の役割を伝えるようにすることで、より職員が共通の意識でその授業に見通しをもつことができると思われる。

〈高等部〉

- ・6月、12月どちらも高い数値だったのは「課題解決」の項目である。これは社会へ出ていくことを控えた生徒に対して、職員が最も付けさせたい力と考え、意識している項目であると言える。特に「課題解決②」に関してはどちらも100%である。生徒が社会に出た際に自分で考え、試行錯誤しながら目の前にある課題を乗り越えていけるよう、指導者が共通認識しながら、あえて場面を設定していることがわかる。
- ・「見通し②」の項目について、6月には76.5%だったのが12月には86.7%にわずかではあるが上昇している。これは半年の間に、教師間でどの場面を見取るかの共通認識ができてきたからである。
- ・「振り返り③」の項目について、6月には昨年度から大幅に数値を下げて76.4%であった。これは職員が大幅に変わったことにより生徒の実態把握が不十分であったり、高等部の学習の流れに見通しをもって指導したりすることができなかったことが考えられる。しかし、12月には93.8%と逆に昨年度よりも高くなっている。これは普段の生活や作業、校内実習、現場実習などを通して実態把握がされ、どのような力を身に付けなくてはいけないかが明確になり、授業づくりに生かすことができたからだと考えられる。
- ・高等部全体としては6月、12月と大きく変動した項目は少なく、学部として職員の意識が統一されて授業などに取り組んでいることがわかる。強いて課題をあげると「環境」の項目が6月にはすべて100%であるのに対し、12月は「環境②③」が93.8%と若干数値を落としている。生徒へも呼び捨てにしないよう指導しているので、職員も生活年齢を意識した呼び方や、かかわり方ができるよう心がける必要がある。

〈分教室〉

- ・分教室は職員が少ないため、1名の意識で数値が大きく変化してしまうが、「環境」「かかわり」に関しては6月12月ともすべて100%だった。このことから障がいが高く、病院内という限られた環境の中で指導者が生徒を大切にしながら、丁寧にかかわっていることが分かる。
- ・6月に全体的に低かったのは「課題解決」の項目ですべて66.7%であった。限られた生活環境にある生徒の「課題解決」に明確なものがなく、目標設定も難しい。しかし、12月の結果では100%に上昇していることから、生徒のQOLの向上に指導者がイメージをもって臨むことができたことが伺える。
- ・分教室の12月の結果はすべての項目において100%であった。このことは、移転に伴って小中高は同じ校舎になったが、逆に分教室は本校舎から離れてしまい、職員の負担は大きなものになったが、生徒に対して、真摯に向き合っていることの表れと言えるのではないかと。

イ 「主体的・対話的で深い学び」 観察チェックシート（児童生徒の姿）

（ア）作成の方法

チェックシートの項目の作成にあたっては、教師側の「主体的・対話的で深い学び」を進めるためのチェックシートの作成と同様に「いわての授業づくり3つの視点」を参考に本校の児童生徒の実態を鑑みて再構成し昨年度作成した。つまり観察チェックシートでは、あたたかい人間関係と学習規律を基盤とした学習集団をつくるための「環境」、視点1の「見通し」、視点2の「課題解決」、視点3の「振り返り」の4つの項目を設定し、項目毎に知的障がいや発達障がいのある児童生徒にとって、具体的にどのような姿（行動や様子）が見られれば、「主体的な姿」「対話的な姿」「深い学びの姿」が見られたと評価できるかがわかるように作成を行った。

（イ）ねらい

- ・「主体的・対話的で深い学び」の姿が児童生徒に見られているかを観察によって評価できるようにする。
- ・グループ内の授業を見合う時の共通の視点として活用する。

（ウ）チェック項目と様式

- ・高等部の生徒に求めたい姿を基準として、各グループで児童生徒の実態に合わせてチェックシートの項目（言葉）を検討した。R3、R4と改善を行いながら使用した。

《ベースとした高等部のチェックシート》

環境 <主体的>	① 教室内で落ち着いていて、リラックスできている。
	② いつもと違うことが起きて、だいたい落ち着いて取り組むことができている。
	③ 教師を信頼している様子が見られる。
	④ 教師や教材、友だち、環境とのかかわりを楽しんでいる。
見通し (視点1) <主体的>	① 授業に向かうかまえができている。
	② 今日、やることがわかっている。
	③ 今日、やることの自分のなりの目標がわかっている。
	④ 困ったときや次にどうすればよいかわかっている。
課題解決 (視点2) <主体的・対話的>	① 課題に自分で取り組んでいる。
	② 自分で工夫して取り組んだり、あきらめないで取り組んだりしている。
	③ 友だちの取り組みを見たり、話を聞いたりすることができている。
	④ 友だちの様子や資料を手がかりにして、自分のものにしようとしている。
振り返り (視点3) <主体的・深い学び>	① 今日の学習について振り返る様子が見られる。
	② これからの学習に期待している様子が見られる。
	③ 題材の終わりに取り組んだ内容を話したり、成果をまとめたりすることができている。
	④ 他の時間に学んだ（学ぶ）ことと関連づけたり、思い出したりしている。

* () はいわての授業づくり3つの視点との関連、 < > は「主体的・対話的で深い学び」との関連

《中学部のチェックシート》

環境 <主体的>	① 教室内で落ち着いていて、リラックスできている。
	② いつもと違うことが起きても、だいたい落ち着いて取り組むことができている。
	③ 教師を信頼している様子が見られる。
	④ 教師や教材、友だち、環境とのかかわりを楽しんでいる。
見通し (視点 1) <主体的>	① 授業に向かうかまえができている。
	② 今日、やることがわかっている。
	③ 今日、やることの自分のなりの目標がわかっている。
	④ 困ったときや次にどうすればよいかわかっている。
課題解決 (視点 2) <主体的・対話的>	① 課題に自分で取り組んでいる。
	② 自分で工夫して取り組んだり、あきらめなくて取り組んだりしている。
	③ 友だちの取り組みを見たり、話を聞いたりすることができている。
	④ 友だちの様子や資料を手がかりにして、自分のものにしてしようとしている。
振り返り (視点 3) <主体的・深い学び>	① 今日の学習について振り返る様子が見られる。
	② これからの学習に期待している様子が見られる。
	③ 題材の終わりに取り組んだ内容を話したり、成果をまとめたりすることができている。
	④ 他の時間に学んだ(学ぶ)ことと関連づけたり、思い出したりしている。

《小学部高学団のチェックシート》

環境 <主体的>	① 教室内で落ち着いていて、リラックスできている。
	② いつもと違うことが起きても、だいたい落ち着いて取り組むことができている。
	③ 教師を信頼している様子が見られる。
	④ 教師や教材、友だち、環境とのかかわりを楽しんでいる。
見通し (視点 1) <主体的>	① 次の授業の準備をしようとしている。
	② 今日、やることがわかっている。
	③ 見本や手本を見て、今日やることの目標がわかっている。
	④ 活動の区切りや、困ったときに教師に伝えようとしている。
課題解決 (視点 2) <主体的・対話的>	① 課題に自分で取り組んでいる。
	② 自分で工夫して取り組んだり、あきらめなくて取り組んだりしている。
	③ 友だちのことに興味を持っている。
	④ 友だちの取り組みや教材をてがかりにして、自分もやってみようとしている。
振り返り (視点 3) <主体的・深い学び>	① 今日の学習について振り返る様子が見られる
	② これからの学習を楽しみにしている。
	③ 取り組んだ内容やがんばったことをまとめたりすることができた。
	④ これまでに学んだ(学ぶ)ことと経験したことと関連づけたり、思い出したりしている。

《小学部低学団 遊び指導のチェックシート》

環境 <主体的>	① 遊びの場所で落ち着いていて、リラックスできている。
	② いつもと違うことが起きても、だいたい落ち着いて取り組むことができている。
	③ 一緒にいると安心できる教師がいる。
見通し (視点 1) <主体的>	① 授業に向かうかまえができている。
	② 今日、やることがわかっている。
	③ 今日、遊びたい遊具や友達、教師について自分なりのイメージがある。
	④ お気に入りの遊具や遊びがある。
	⑤ 自分で遊びを選んでいる。
	⑥ 困ったときに教師に伝えるための自分なりの方法が分かっている。
課題解決 (視点 2) <主体的・対話的>	① 自分で遊びに取り組んでいる。
	② 自分で遊び方を工夫したり、できないことにも諦めなくて取り組んでいる。
	③ 自分のお気に入りの遊び方がある。または発見した。
	④ 好きな遊びが増えた。
	⑤ 友達や教師の遊ぶ様子を見ている。
	⑥ 友達や教師の遊ぶ様子を見て、まねしようとしている。
	⑦ 友達や教師の誘いを受けて、お気に入り以外の遊びに挑戦している。
	⑧ 友達と一緒に同じ遊具に乗ったり、同じおもちゃで遊ぶことを受け入れている。
	⑨ 友達や教師と簡単なやり取りをしている。
	⑩ 友達や教師と一緒に片づけをしている。
振り返り (視点 3) <主体的・深い学び>	① 今日楽しかった遊びをカードで選んだり、話すことができる。
	② これからの学習を期待している様子が見られる。
	③ 遊び以外の時間に、楽しかった遊びを思い出して自分なりの方法で表現している。

《しゃくなげ分教室のチェックシート》

環境 <主体的>	① 教室内で落ち着いていて、リラックスできている。
	② いつもと違う環境や事態が来ても、だいたい落ち着いて取り組むことができている。
	③ 教師を信頼している様子が見られる。
	④ 教師や教材、仲間、環境とのかかわりを楽しんでいる。
	⑤ 集団の中で、仲間を意識する姿がみられる。
見通し (視点 1) <主体的>	① 授業に向かうかまえができている。
	② 今日、やることの説明を聞いている。
	③ 期待していること、楽しみなことが分かっている。
	④ 困ったときや活動が終わったときに伝えようとする様子が見られる。
課題解決 (視点 2) <主体的・対話的>	① 課題に自分なりの方法で意思表示の様子がみられる。
	② 自分から教材・教具に関わる姿がみられる。
	③ 仲間の取り組みを見たり、話を聞いたりすることができている。
	④ 仲間の様子や教師の手本を見て同じように取り組もうとしている。
	⑤ 教師や仲間からはたらきかけに応じることができている。
振り返り (視点 3) <主体的・深い学び>	① 今日の学習について振り返る様子が見られる。
	② これからの学習に期待している様子が見られる。
	③ 取り組んだ内容を話したり、成果をまとめたりすることができた。
	④ 他の時間に学んだ(学ぶ)ことと関連づけたり、思い出したりしている。

(エ) まとめ

今年度は「観察チェックシート」の項目の見直しは行ったが、授業見学期間に用紙を準備する程度にとどまった。また、項目の意図やシートの利用の仕方について周知しなかったために、提出されたシートも少なかった。

しかし、観察チェックシートは具体的な児童生徒の姿でチェックできるため、授業を作る際に客観的に授業をイメージしたり、授業後の自己の授業の振り返りに活用したりすることで、よりよい授業作りができると考える。

来年度以降は授業研究会や、授業作りの際に積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びを育む授業づくりに役立てていきたい。

<チェックシートの成果と課題>

- 教師側の意識調査では3年間行ってきたことで、職員の意識向上につながり、今年度の12月の調査ではすべての項目において80%を超えることができた。
- 定期人事異動で職員が入替わったり、新入生を迎えたりと新年度にメンバーが変わることで、実態把握に少し時間を必要とするものの、毎年意識調査をしてきたことにより、職員全体の意識の底上げがされ、スムーズな教育活動が行われていることが分かった。
- 年に2回ではあるが、チェックシートで自分の授業について振り返ることで、よりよい授業づくりが意識されてきた。
- 「観察チェックシート」の活用がされにくかった。広く呼びかけたり、定期的にチェックする期間を設けるなどして、積極的に活用していく方法を探った方がよい。
- 生活に活用できる力の育成には、自分で「思考・判断・表現」する力が必要である。「課題発見能力」や「課題解決能力」を育てる支援や手だてについても考えていきたい。

3 各グループの研究実践

(1) グループの構成と各グループにおける取り組みの内容について

研究グループは、学部を中心とした発達段階毎に構成し、「小学部低学団」「小学部高学団」「中学部」「高等部」「分教室」の5グループである。

昨年度、各グループで合わせた指導について課題となる点について明らかにし、新たな単元の学習についての提案を行った。

今年度の各グループの主な取り組みは、研究推進計画立案（5月）、新年間指導計画様式についての検討、年間題材配列表の作成によるコンテンツの配置の確認（5～6月）、合わせた指導の題材（目標）と各教科の内容表との関連チェック（6～7月）、授業参観シート（授業見学期間）の質問回答（12月）、授業実践と全校授業検討会（7～12月）である。

今年度は昨年度課題となり、提案された授業（合わせた指導）について、題材の設定や評価規準、授業計画などについて検討を重ね、実践した授業全体についての授業検討会を行った。また、3観点での評価についても取り組んだ。

また、学級ごとに年間題材配列表を作成し、教科間での関連性、時系列での題材配列の妥当性などについて検討を重ねた。

活動は年4回の研究日を中心に行った。今年度は移転もあり新校舎での学習活動に指導者側としても見通しをもちにくい状況ではあったが、小学部・中学部・高等部の3学部の学び舎が共になることもあり、それぞれが新たな学習活動に対して夢や期待をもちつつ意欲的に行うことができた。

(2) 「学習指導要領目標・段階内容表」の作成と年間指導計画の新様式の作成について

ア 「学習指導要領目標・段階内容表」の作成（R3）と活用（R4～）

新学習指導要領では、知的障がいの教育課程の各学部における各教科の段階毎の内容が明示された。また、目標についても段階毎に三つの柱で示された。令和4年度からは高等部でも実施となることから、新学習指導要領によって小学部から高等部までの系統的な学習がよいよ本格的に行われることになる。

小学部から高等部の三つの学部と分教室のある本校では、学部間の接続や学びの連続性を確保するためには、教職員が全ての学部の各教科等の内容を把握しておくことが必要である。しかし、小学部から高等部までの全教科の内容を確認するためには、学習指導要領の解説を何冊も用意する必要がありやりづらさが指摘されていた。

そこで、先行研究で取り組んでいる他県の資料（鹿児島大学附属特別支援学校）等を参考に

学習指導要領 目標・段階内容表	
目次	
<各教科目標>	
【生活】・【国語】	1
【社会】	2
【算数・数学】	3
【理科】	4
【音楽】・【図画工作・美術】	5
【体育】・【保健体育】	6
【職業・家庭】・【職業】・【家庭】	8
【外国語活動・外国語】・【情報】	9
<段階内容表>	
1 生活（小）	10
2 国語（小・中・高）	12
3 社会（中・高）	15
4 算数・数学（小・中・高1・高2）	17
5 理科（中・高）	21
6 音楽（小・中・高）	23
7 図画工作・美術（小・中・高）	26
8 体育・保健体育（小・中・高）	28
9 技術・家庭・職業・家庭（中・高）	31
10 外国語活動・外国語（小・中・高）	35
11 情報（高）	37
<参考：領域等・合わせた指導のねらいや内容>	
道徳	38
総合的な学習（探求）の時間	40
特別活動	42
自立活動	44
日常生活の指導	46
遊びの指導	47
生活単元学習	48
作業学習	49

しながら、全学部、全教科の目標と内容を1冊の冊子にまとめることで、各学部で行うべき学習内容をわかりやすくした。このことにより、年間指導計画の見直しや学部間の系統性などのチェックがしやすくなったと考える。また、各領域や合わせた指導のねらいや内容についても参考資料として掲載した。19ページにある図1は本研究で作成した「学習指導要領目標・段階内容表」の目次である。教科毎の目標と段階内容表を学部毎に列記することで各教科間の系統性をわかりやすくした。段階内容表は各学部で1枚に収まるようにし見やすくなるようにした。作成に当たっては次のように教務部と共通理解を図りながら進めた。

イ 教務部との連携

今回の研究の内容が教育課程や年間指導計画の作成等が関わってくることから、教務部の業務内容と重なる部分が多いため、円滑に研究を推進し、また、研究の成果を現在の教育活動にすぐに反映できるようにするため、教務部との連携を進めた。具体的には、教務主任と学部長、研究部長で全校研究の推進に関わる意見交換会を行いながら、「学習指導要領目標・段階内容表」の作成と「年間指導計画の新様式及び作成手順」等について共通理解を図った。以下に内容を示す。

◎研究推進に関わる打合せ

《ねらい》

全校研究の推進にあたって、教務部と研究部の連携に関する部分についての共通理解を図る。

《参加者》

総括教務主任、各学部主事主任、高等部教務主任、研究部長

【令和3年度】

《開催日程》

- ・令和3年8月26日（木）
- ・令和3年12月2日（木）

《内 容》

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」のさらなる充実と改善に関すること
- (2) 新学習指導要領に準拠した学習内容の確認 <進め方に関する基本的な考え方>
 - ① 研究部で大まかな資料を示し、教務部からの意見を頂きながら、本校として実際に使えるものとする。（研究に関する打合会を定期的にもつ）
 - ② 複雑化、煩雑化、多忙化しない。現在の課題を整理することで「開かれた教育課程」をめざす（誰が見てもわかりやすい）。
 - ③ スケジュール・役割分担・手だてを明確にし、組織的に進められるようにする。
 - ④ 実際の推進は教務部が行う。追加の手だてが必要になった場合は研究部が対応し、教務部と連携しながら、よりよい形のものとする。
 - ⑤ 研究実践集録「五葉の実践」にまとめ、次年度以降の新任者が見ても本校の考え方が理解できるよう整備する。

《協議事項》

- (1) 年間指導計画の様式見直しの基本的な考え方（確認）
 - ① 三つの柱（3観点）の目標を入れること
 - ② 内容のまとめ、他教科との関連を入れること

- ③ 個別の指導計画に活用できるものにする
- ④ 前年度（今年度）の実績をもとに作成し引き継いでいく
- ⑤ できるだけシンプルなものとする
- ⑥ A4 1枚（片面または両面）にする
- ⑦ 各学部、各コース、各教科の形式をできるだけそろえる
- ⑧ 作成の手だてや手順をはっきりさせ、学部長や教務がチェックできるものにする（校内で統一する）
- ⑨ 原案や資料作成は研究部が行い、実質的な推進や管理は教務部が担当する
- ⑩ 令和4年度は試行、令和5年度の本格実施とすること

(2) 年間指導計画の様式及び作成手順（案）

- ① 様式案について
- ② 作成手順や作成時期等について
作成例に作成のポイントや留意点を示した。作成時期については教務部会で検討することとした。

【令和4年度】

《開催日程》

- ・ 令和4年10月3日（月）
- ・ 令和5年2月7日（火）

《内 容》

- (1) 様式についてのアンケート結果をもとに、改定案の提示
 - ① 中学部、高等部の病弱肢体不自由学級の様式について
 - ② 知的通常の様式の改定について
- (2) 今後のスケジュールについて

《協議事項》

- (1) 個別の指導計画の様式について
- (2) 年間指導計画の様式及び作成手順（案）
 - ① 様式案について
 - ② 作成手順や作成時期等について
 - 1) 年間題材配列表の作成（学習のつながりの確認）
 - 2) 合わせた指導の教科との関連一覧表の作成
（合わせた指導の教科とのつながりの確認）
 - 3) 年間指導計画の作成（教科・領域、自立活動、特活）

※R4年度末に現担当者が次年度（R5）の計画を作成。R5年度初めに新担当者が修正を加えて提出する。
- (3) 本校における「合わせた指導」の目標設定について
 - 「日常生活の指導」
 - 「生活単元学習」
 - 「作業学習」
 - 「遊びの指導」

これらについて、本校としての目標を設定しR5年度から年間指導計画や個別指導計画に盛り込み、実施していく。

ウ 「年間指導計画」の新様式の改定について

昨年度、教務部との打合せをもとに作成された年間指導計画の様式について、今年度の年間指導計画を行う際に全校で実際に作成して計画を行った。（様式6・7・8・9）しかし、目標の設定や内容のまとまりと教科との関連性などの捉え方への戸惑い、また、学習形態によつての書きにくさなど課題があり、若干の改定を必要とされた。そのため、全校からアンケートを取り、意見や改善案を募った。そこでいくつかの改定を行った。

《アンケートで出された意見および改善案》

【意見や感想】

- ・指導目標と活動内容の違いが分かりにくい。（記入例から）また、文章表現で長文だと見にくい。
- ・年間に繰り返し実施する単元について書きにくい。
- ・学級ごとの作成になっているが、実態差がある場合に書き方に困った。
- ・内容のまとまりの書き方が統一された方がよい。
- ・通常の教科書での学習の場合（病肢通常）、指導書などに示されている事項と重なる内容が多い。
- ・年間を通して行う内容の場合、前後期や月ごとに明記していくことが難しい。
- ・他教科との関連がたくさんあり、まとめることに苦労した。
- ・内容の偏りを確認しながら計画することができた。
- ・合わせた指導の目標や教科との関連がわかりやすい。
- ・作成は大変だったが、題材配列表を参考にすると書きやすかった。
- ・自立活動を教科中心で書くことが難しかった。

【改善案】

- ・病肢通常学級の年計は指導書などにもあるので活用してはどうか。
- ・学習活動は具体的な内容を箇条書きで示した方よい。
- ・内容のまとまりの表記のしかたをできるだけ統一した方がよい。
- ・内容のまとまりとして取り上げる数、他教科との関連として取り上げる数を絞ってはどうか。

《年間指導計画様式の主な改定点》

- ・中学部病弱肢体不自由通常学級については、小学部同様、年間の学習内容と時数をまとめた一覧のものにする。
- ・前後期でまとめて書く様式と、月ごとに書く様式に分ける。
- ・教科との関連、内容のまとまりはリストから選択できるようにすることで表記を統一にする。
- ・教科の目標、単元の目標を学習指導要領から自動転記で表示し、それを基に作成することで、より学習指導要領に基づいた目標での学習計画を行えるようにする。
- ・自立活動に関しては領域を明記することで、より自立活動の領域の内容を意識して作成、指導できるようにする。また、関連する教科についても合わせて表記することで、教科との関連性についても意識して計画、指導できるようにした。

また、年間指導計画を作成するにあたって、年間の授業の教科間でのつながり（縦のつながり）と時系列での学習の流れ（横のつながり）について一覧にし、児童生徒の指導についてより効果的に行うことができるように「年間題材配列表」（様式3）を作成することにした。（カリキュラム・マネジメント）

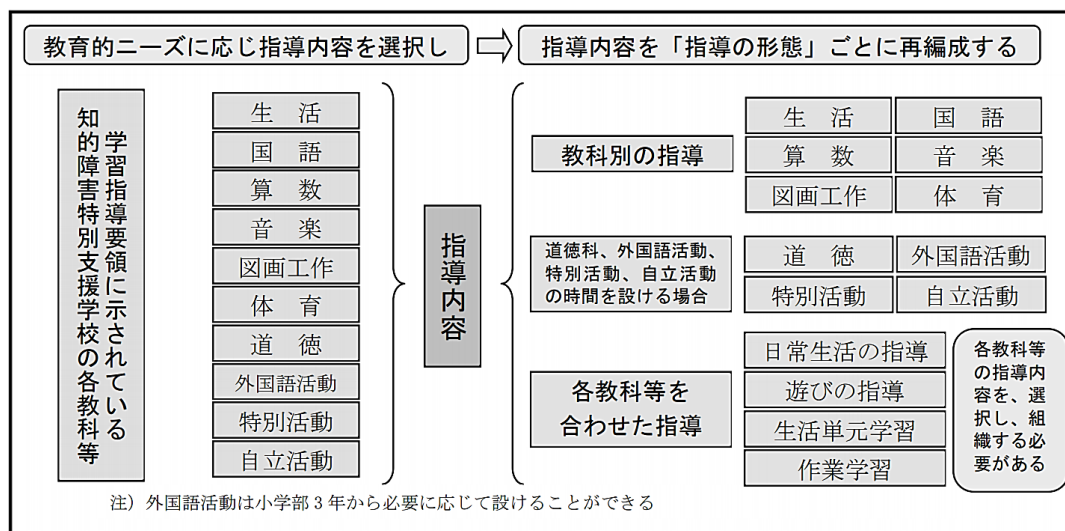
「年間題材配列表」については、令和4年度は様式などの試行ということで、年間指導計画を作成後に試作し、各究グループで検討してもらった。併せて令和3年度から作成している「合わせた指導の教科関連一覧」（様式4）も作成し、合わせた指導で内容に偏り等がないか確認しながら作成してもらうこととした ※様式については巻末の資料を参照

これら、様式の変更点などについては全校研究会後に、各学部ごとに説明会を行って具体的に周知した。

(3) 各グループ（学部）の実践報告

以下は各グループ（学部）の実践報告をまとめた。この項では特に学習指導要領や本校における合わせた指導の理解（何の教科を合わせているのか）、指導形態の確認、合わせた指導と各教科の内容のまとまりの関係を学部ごとに整理し、R3年度にそれぞれのグループが考えた授業案などについて実践を行った。また全校授業検討会では、合わせた指導を特に取り上げ、単元全体についての目標、評価規準、対象児童生徒の実態、指導計画などについてグループ毎に検討・実践を行った内容について意見を出し合った。ねらいを達成するための新たな学習（単元）案や指導計画の妥当性、三観点での評価などについても話し合うことができ、今後の実践に有益なものにできた。

ア 小学部



図：教育課程の構造図（小学部）

小	生活				国語			算数				図画工作			音楽			体育							外国語活動										
	基本的生活習慣	生活や家庭		社会及び理科	A	B	C	A	B	C	D	表現	鑑賞	共通事項	表現	鑑賞	共通事項	A	B	C	D	E	F	G	3年以上	3年以上									
内容のまとまり（大項目）	基本的生活習慣	安全	日課・予定	遊び	人との関わり	役割	手伝い・仕事	金銭の扱い	きまり	社会の仕組みと公共施設	生命・自然	ものの仕組みと働き	A 聞くこと・話すこと	B 書くこと	C 読むこと	A 数量の基礎（①のみ）	B 数と計算	C 図形	D 測定	データの活用②	表現	鑑賞	共通事項	表現	鑑賞	共通事項	A 体づくり運動（①遊び）	B 器械・器具を使っての運動（①遊び）	C 走・跳の運動（①遊び）	D 水の中での運動（①水遊び）	E ボールを使った運動（①遊び）	F 表現運動（①遊び）	G 保健	聞くこと	話すこと

図：小学部 各教科の内容のまとまり（大項目）

*知的障がい

(ア) 小学部における「指導形態」の整理と確認 * 知的通常の教育

a 【教科別の指導】で行っている教科

□ 低学団（1～3年）

国語・算数・音楽・体育

■ 高学団（4～6年）

国語・算数・図画工作・音楽・体育

b 【各教科等を合わせた指導】で行っている主な教科

□ 低学団 (1~3年)

- 「日常生活の指導」 生活
- 「遊びの指導」 体育、図画工作、音楽、国語、生活、算数
- 「生活単元学習」 生活、図画工作、国語、算数、音楽

■ 高学団 (4~6年)

- 「日常生活の指導」 生活
- 「生活単元学習」 生活、国語、算数

c 【道徳科、外国語活動、特別活動、自立活動】について

- 「道徳」 教育活動全体をとおして実施
- 「外国語活動」 高学団の生活単元学習で実施
- 「特別活動」
- 「自立活動」 教育活動全体をとおして実施

(イ) R3年度のまとめと課題

<低学団 (1~3年) >

a R3年度の小学部低学団 考察・まとめ

小学部低学団研究 遊びの教科との関連一覧表からの考察まとめ (R3. 7)

読み取れること 一覧表から	意外と各遊びに いろいろな教科の 要素が入っている。	音楽の内容が含まれている遊びの 少なさ。	年間を通してあまりねらいの 段階が変化していない。	工作(図工的内容)の楽しさが もっと含まれていてもよい。	生活科「生命・自然」を扱 う単元があってもよい。
課題と思われること・今後必要な要素	<ul style="list-style-type: none"> ・反面、音楽や図工 など要素が少ない 教科もあった けど・・・ ・直接的に内容を組 み込むことだけ がすべてでは無 い。 ・遊びの中で使うも のを図工(生単) で作るとか、体育 でやっている動 きでできる遊び を取り入れると か、教科とのつな がりを意識した 内容設定を考え るといいかも! 	<ul style="list-style-type: none"> ①音楽で取り組んでいる歌や ダンスで遊ぶ場面を作る。 ・歌のフレーズを合言葉にする ・ダンスの動きを取り入れた コーナー など ②始まりだけでなく、きっかけごと に合図になる音楽をかける。 ・片付け、準備体操 ・集団遊びの始まり、 パルーンへの集合 など ③音遊び的な活動の挿入 ・各単元で音を楽しめるコーナー を設置(教師の演奏披露とかもい いね!) ※BUT!音遊びメインの単元を独立 させるのは聴覚障がいの子が 楽しめなくなるので、気をつけよ う! 	<ul style="list-style-type: none"> ・年計を作る段階で、 ①どの遊びでどの段階を狙うか ②どこから、どの活動を使って ステップアップさせるか。 ③題材の組み方、取り組み順番は どうか 全員で確認するべきだった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すでに取り入れている単元も あるが、もう少し取り入れる ことで、「作り出す楽しさ」を 味わったり、「工夫」「試行錯 誤」を経験したりする機会を 増やせるかも。 ・素材や道具だけ準備しておい て、自分たちでおもちゃや遊 具を作り出すとか・・・ 	<ul style="list-style-type: none"> ①既存の内容であれば「公 園遊び」で自然とふれあ う内容を設定できそう。 ②新校舎になって、校地内 で安全に活動できる場 所があれば、外遊びを取 り入れるのもいいね!

b 来年度にむけた新しい遊び案

上記(1)で確認された内容を踏まえ、新しい遊びの単元を検討した。

- ・「手をつないで遊ぼう」
- ・「しょううんアイランドで遊ぼう」
- ・「えほんランドで遊ぼう」
- ・「みんなでわっしょい!〇〇まつり!」

小学部 遊びの指導学習指導案

日 時 令和4年11月8日～24日

10:30～11:15

対 象 小学部知的通常学級1～3年7名

場 所 プレイルーム

指導者 安部 (T1) 古戸 (T2) 他3名

1 単元名

「まつりだ！わっしょい！」

2 内容のまとめ

小学部 生活 エ遊び 2段階 (ア)

小学部 生活 オ人との関わり 1段階 (イ)

小学部 道徳 C集団や社会とのかかわりに関すること

伝統や文化の尊重、国や郷土を愛する態度

3 単元の目標

- (1) 簡単なきまりのある遊びについて知り、やり方を理解して遊ぶ。
- (2) 友達の様子に注目して楽しんだり、やりたいものや遊びたいものを選んだりする。
- (3) 郷土の文化や生活に触れ、友達や教師とやり取りしながら遊ぶとする。

4 単元について

(1) 児童について

対象児童は知的通常学級在籍児童7名である。

自分なりのイメージをもってごっこ遊びに取り組める児童から、感覚遊びを主として同じ遊びを繰り返す児童まで実態には大きな幅がある。

指示の理解については、言語のみの指示でおおよその内容が伝わる児童もいれば、イラストや写真を提示したり、友達の様子を見てから行うよう配慮したりすることで伝わる児童もいる。

おまつりに関しては、高学年が昨年度招待してくれた「秋まつり」での経験がある。また、昨年度「買い物ごっこ」で買い物したり、商品を作って売ったりなどし、客と店のやり取りを経験している。

地域での経験については、コロナ禍の中、おまつりの経験が無い児童がほとんどである。

(2) 単元について

遊びでは、これまでトランポリン等の揺れる遊具、乗り物、公園での遊び、紙や光を題材とした遊び、水遊びなどに取り組んできた。

本単元では、おまつりを題材に、出店での遊びを楽しんだり、地域のおまつりの要素を盛り込んで、曳舟や神輿を自分たちで飾ったり、踊ったりする活動を行う。これまでの遊びよりも、人とのやり取りが多く、遊ぶための決まりも多いため、やりとりの仕方や決まりを理解して遊ぶ経験ができると考えた。また、遊ぶ側だけでなく、出店側となり、おまつりごっこを工夫したり、盛り上げたりする表現力や意欲も育てたい。さらに、曳舟、神輿、踊りなどを通して、郷土の伝統や文化に触れ、郷土を愛する態度を養うことが期待される。この単元を通して、おまつりに興味関心を持ち、地域の活動に参加するきっかけとなることを期待したい。

(3) 支援について

(知識・技能)

- ・ 出店では、金銭の代わりにチケットを使う。
- ・ チケットの扱いや遊び方が難しい児童は教師と一緒にやる。

(思考・判断・表現)

- ・ 順番を待ちながら、友達が遊ぶ様子に注目するよう言葉かけを行う。
- ・ 選ぶことが難しい児童には、誘って一緒に遊びに取り組む。

(主体的に取り組む態度)

- ・ 客と店の役割を自由に交代しながら遊ぶ。
- ・ やり取りを促すため、遊びや制作の中で児童の思いを代弁したり、楽しさを共有したりする。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
①チケットを渡して遊ぶことに気付いている。 ②それぞれの遊び方が分かっている。	①遊びを自分で選んだり、友達が遊ぶ様子に注目したりしている。 ②好きな色や形を選んで表している。	①教師や友達とやりとりしようとしている。

6 指導と評価の計画 (10 時間)

時	学習活動	指導上の留意点	評価基準・評価方法
1 5 3	○チケットを渡して遊ぶ。 ○好きな色を使って表す。	・ あらかじめチケットの受け渡し方の手本を示す。 ・好きな色や絵を選べるよう、筆記具やシールなどを準備する。	【知技①】 行動と発言の観察 【思判表②】 行動と発言の観察
4 5 7	○それぞれの遊び方が分かる。 ○好きな色や形を選んで表す。	・ 射的と輪投げ、魚釣りでは当てる、ひもくじでは引っ張るといった簡単な動作で遊べるようにする。 ・好きな色や形、感触を選べるよう、多様なパーツを準備する。	【知技②】 行動と発言の観察 【思判表②】 行動と発言の観察
8 10	○自分で選んで遊び、友達が遊ぶ様子に注目して楽しむ。 ○踊ったり、神輿を担いだり、曳舟を引いたりして祭りを楽しむ。	・ 順番を待つ間に、友達が遊ぶ様子を見て楽しめるよう言葉かけをする。 ・ 同じ遊びを繰り返す児童には、別の遊びに誘い、教師と一緒にやる。 ・ 担ぐ、引く、乗るなど参加の仕方を複数設ける。	【思判表①】 行動と発言の観察 【主①】 行動と発言の観察


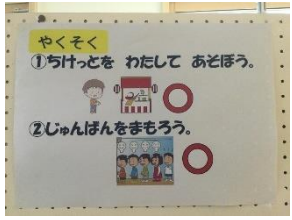
7 単元に関する児童の実態と手だて

児童	実態			手だて
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
A (1年)	<ul style="list-style-type: none"> チケットの使った活動の経験はない。 初めての活動は拒否することが多い。 道具の扱い方には支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で好きな遊びを選ぶことができるが同じ遊びを繰り返したり、特定の子と同じ遊びをしようとしたりする。 友達の遊んでいる様子を見て真似をしようとすることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> やりたいことがあると、教師を連れて行こうとしたり、手を合わせて伝えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> チケットの取り扱いや道具を使った遊びは教師と一緒にやる。 友達の遊んでいる様子を見せたり、教師と一緒に遊んだりしながら段階的に場に慣れるようにする。
B (2年)	<ul style="list-style-type: none"> チケットの使い方が分かると、一人で渡して遊ぶことができる。 簡単なルールが分かり、自分で好きな遊びを選んで遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 好きな遊びを選んで遊ぶことができるが、同じ遊びを繰り返すことが多い。 友達の様子や全体を見て待ち時間がないように遊び方を工夫していることがある。 好きな色、形を選ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の興味があることを一方的に伝えることが多いが、パターンが決まっているやり取りはできる。 	<ul style="list-style-type: none"> チケットは取り出しやすい入れ物に入れ、慣れるまでは最初に使い方を確認する。 射的や釣り、くじでは、狙いたいものを意識したり、成果を喜んだり外れたことを残念がったりしながら場の楽しさを共有する。 イメージがもてるように写真やイラストを提示する。
C (2年)	<ul style="list-style-type: none"> チケットの使い方が分かると、一人で渡して遊ぶことができるが、遊びの気を取られて忘れることが多い。 簡単なルールは分かり、自分で好きな遊びを選んで遊ぶ。 道具の扱いには支援を必要であるが、一人でやりたい気持ちが強い。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で遊びを選んで遊ぶことができるが、同じ遊びを繰り返すことが多い。 動画で見たことを自分なりにイメージしながら遊びを展開させる。 好きな色、形を選ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の興味があることを一方的に伝えることが多いが、日常生活や動画で見た場面を真似して、ごっこ遊びの簡単なやり取りができる。 	<ul style="list-style-type: none"> チケットは取り出しやすい入れ物に入れ、最初に使い方を確認する。 射的や釣り、くじでは、狙いたいものを意識したり、成果を喜んだり外れたことを残念がったりしながら場の楽しさを共有する。 釣り竿や射的で使う道具は、長さを調整するなど扱いやすいようにする。
D (3年)	<ul style="list-style-type: none"> 遊ぶためにチケットを使う経験は一度のみ。教師と一緒にやった。 遊び道具の仕掛けや仕組みに興味がある。友達が遊ぶ様子を見て、遊び方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で好きな遊びを選ぶことができるが、いつも同じ遊び方になりがち。友達の様子を見てチャレンジすることがある。 好きな色を選ぶことができる。活動の量をあらかじめ決めると最後まで取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶や依頼など、言葉を言って促すと話すことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> チケットの扱いは教師と一緒にやる。 遊び方が分かるよう、友達が遊ぶ様子を見てから取り組む。 回数や量を提示してから取り組む。 やり取りの言葉を教師が言って手本を示す。

<p>E (3年)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 遊ぶためにチケットを使う経験は一度のみ。促すと渡すことができる。 簡単なルールは分かるが、道具の扱い方には支援が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で好きな遊びを選ぶことができる。好きな遊びのみを繰り返す行う。 色や形は同じものを続けて選ぶ。アルファベットを書くことが好きである。 	<ul style="list-style-type: none"> パターンを決めると、やり取りすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> チケットの扱いは、言葉を掛けて促す。 道具の扱いが難しい場合は、手を添えて一緒に行い、できる部分を増やしていく。 やり取りのパターンを決め、文字で確認できるようにする。
<p>F (3年)</p>	<ul style="list-style-type: none"> チケットの使い方が分かり、渡して遊ぶことができる。 遊び方やルールが分かり、好きな遊びを選んで遊ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で好きな遊びを選び、遊び方を工夫することもできる。 好きな色や形を選ぶことができる。自分なりのイメージをもって表そうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> やり取りの仕方が分かり、客と店のどちらの立場でもやり取りできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 射的や釣りで、狙うものを意識したり、成果を喜んだりするよう働きかける。 イメージがもてるよう、神輿や祭りの写真を掲示する。
<p>G (3年)</p>	<ul style="list-style-type: none"> チケットを使うことが分かる。 簡単なルールは分かるが、道具の扱い方には支援を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> 好きな遊びを選ぶことができる。好きな遊びは繰り返す行う。 選んだ色や形と違うものを取ってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> やり取りを楽しむことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> チケットを取り出しやすい入れ物に入れる。 釣りで竿なし、射的では押しで発射する鉄砲など扱いやすい道具を使う。 色や形を手取る前に、言葉で確認する。

8 使用教材について

カレンダーと店の表示	おみこし	釜石まつりの装飾
 <p>児童が活動の見通しを持つために提示。活動の最後にカレンダーに児童が花丸シールをつける。</p>	 <p>学習に向かう意欲を高めるため、教室から担いでプレイルームに移動する。毎日の遊びの中でパーツを選んで張り付ける、自由に絵を書くなど装飾し少しずつ作り上げた。活動の最後に担いでねり歩いた。</p>	 <p>地域のお祭りに触れることができるよう、「まつりや」の看板に虎舞、曳舟、大漁旗などを掲示。みこしの飾りつけや、ハッピー、鉢巻を身に付ける際に使用。</p>
チケットとチケットホルダー	射的	わなげ
 <p>出店でチケットを渡して遊ぶ。出し入れしやすい入れ物を首から下げて使用する。チケットは「まつりや」で追加する。</p>	 <p>筒で玉を転がして倒す方法と、ゴムを飛ばして当てる方法から選んで遊んだ。的にはキャラクターをつけた。</p>	 <p>輪は三つの大きさから自由に選ぶ。的は筒状のもので、キャラクターのシールがついており、当たるともらえる。</p>

まつりや	ひもくじ	やくそく
 <p>自由に描いたり、パーツを選んだりしてみこしを飾り付ける。塗り絵をして大漁旗を作る。ハッピーと鉢巻を着る。追加のチケットをもらう。</p>	 <p>紐を引いて、出てきたカードの遊び（ハンモック、回転円盤、手押し車）ができる。</p>	 <p>活動に入る前に、読んで約束を確認する。</p>

9 実践報告

(1) 授業者から

R3年度の研究で提案された「おまつり」の設定で遊ぶという案から授業を計画した。「おまつり」は生活単元学習の題材として取り上げることが多いが、遊びの指導として取り組むために、お祭りの雰囲気を感じつつ、出店を選んで遊ぶことを中心に授業展開した。

これまでの遊びは、遊びをたくさん準備し、自由に選んで、好きなだけ同じ遊びに取り組む内容だったことから、出店を回って遊ぶという遊び方ができるのか不安であった。また、出店3店という選択肢の少なさから、飽きてしまうことも考えられた。しかし、繰り返し遊ぶ中で、一つの遊びを短時間で終え、出店を回って遊ぶことが無理なくできており、二度、三度と同じ店のチケットをもらいに来る児童が多かった。想定以上に満足感を得て、主体的に遊ぶことができたと考えている。

チケットを渡して遊ぶことや、順番を守って遊ぶこともできるようになり、児童の成長を実感することができた。

出店を学級単位で準備、運営したため、遊びの内容の共通理解を十分に図れないまま授業開始してしまったこと、遊ぶ児童への支援が手薄になってしまったことが課題である。特にも、ひもくじは児童個々に職員が対応するため、児童にはくじを引くのも、乗り物に乗るのも待ちが生じてしまった。限りある職員で活動を展開するには活動内容の工夫が必要である。

さらに児童が楽しめる「おまつり」にするために、どのような導入、活動内容、展開の工夫ができるか、様々なアイデアを出していただきたい。

(2) 指導の経過

時間	学習活動	指導上の留意点	指導の経過
10:30 導入	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶 ○本時の学習と約束について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びの雰囲気を盛り上げるため、教室から「わっしょい！」の曲を聞いて、神輿を担いで移動する。 ・カレンダーを前にして座る。本時の活動内容や約束について、絵・写真と文字で確認する。 ・遊びの開始時に全員でお祭りの掛け声をかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初回は教師が支えたが、回を重ねると4人で運べるようになった。自分から担ぎに来る児童もでてきた。回数を重ねると、「わっしょい！」と元気な掛け声で歩いた。うちわを使い、気分を盛り上げた。プレイルームで床に置くと、そのまま学習に入る構えができていた。
10:35 展開	<ul style="list-style-type: none"> ○自分で選んで、チケットを渡して遊ぶ。 ・射的/わなげ ・ひもくじ（乗り物や揺れ遊び） 	<ul style="list-style-type: none"> ・チケットは店の担当（希望する児童が行う場合もある）が受け取る。 ・遊び方の模範を教師が示したり、友達が遊ぶ様子を見せたりしてから遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チケットを渡して遊ぶということが分かり、出店ごとにチケットを渡すことができた。チケットがなくなると「まつりや」にもらいに来ることもできた。 ・1, 2回目は射的とひもくじ。好きな店を選んで遊んだ。ひもくじでは、くじに関係なく好きな乗り物に乗ろうと

	○好きな色や形を選んでおみこしを飾ったり、大漁旗を作ったりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・待っている間に友達が遊ぶ様子に注目できるような言葉を掛ける。友達の応援をしたり、見守ったりして一緒に楽しむ。 ・ひもくじでは、当たった遊びに回数や時間を決めて取り組む。順番を守って待つことができるよう、待ち席を設ける。 ・イメージがもてるよう、神輿や祭りの写真を掲示する。 ・色や形、感触が異なる飾りを準備する。 ・魚や富士山などの塗り絵を準備する。 	<p>する児童もいた。くじを引いて、当たった乗り物で遊ぶことが分からず、支援を要する児童が複数いた。回数を重ね、支援を減らすことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・射的は、ゴムを飛ばす方法と筒で玉を転がす方法から選んで遊んだ。自分の好きなキャラクターを選んで倒し遊ぶ児童が多かった。 ・わなげは、大中小の輪から大きさを自分で選んだ。的に入るとキャラクターのシールをもらえることが分かり、何度も繰り返し遊ぶ児童が多かった。 ・みこしの飾りつけは、パーツの色や形を選んで自由に張り付けた。好きな絵を描いて、みこしに乗せ、塗り絵をして大漁旗を作って手押し車に張り付けた。飾りつけをするとチケットを追加してもらえるようにしたことで、どの児童も取り組むことができた。 ・塗り絵は、特に興味を示した数名の児童が行った。
11:00	○遊んだものを片づける。 ○みこしを先頭に、輪になって歩く。	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の終了が分かるよう、「わっしょい！」の曲を流す。教師と一緒に遊んだものを片づける。 ・簡単な動作を繰り返す。動き方が分かるよう言葉掛けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲を聞いて活動を終えることができた。チケットホルダーを集めてくる児童もいた。 ・始めは教師の促しや支援を受けてみこしを担いだり歩いたりしたが、自分から進んで担いだり、みこしの後に続いて並んで歩いたりすることができるようになった。歌に合わせて大きな声で「わっしょい」と掛け声をかけて歩いた。
11:10	○感想を発表し、学習を振り返る。 ・挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・指名し、写真から楽しかった遊びを選び発表する。最後の発表者がカレンダーに花丸をつける。 ・カレンダーを見て、次の時間について知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったことを進んで発表してくれる児童が多かった。「アンパンマンを倒した」「ハンモックが楽しかった」と楽しかったことを具体的に振り返る児童もいた。

10 評価について

児童	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A (1年)	<ul style="list-style-type: none"> ・チケットを渡して遊ぶことが分かり、促されて渡すことができた。 ・射的で的を倒す、輪を投げる、くじを引くなどそれぞれのお店の遊び方が分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの店も楽しむことができ、チケットを見せると、その出店に行くことが増えた。 ・教師の支援を受けながら一緒にパーツを貼ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達が遊んでいる様子を見て、遊び方を知り、自分も同じようにやってみようとしていた。
B (2年)	<ul style="list-style-type: none"> ・チケットの使い方が分かり、一人で渡して遊ぶことができた。 ・それぞれのお店の遊び方が分かり、遊ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で行きたい出店を選んで遊びに行くことができた。 ・好きな絵を選んで色を塗ったり描いたりして貼ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったことを教師に話したり、「今日はこれ」と楽しみにしていることを話したりしていた。

C (2年)	<ul style="list-style-type: none"> ・チケットの使い方が分かり、一人で渡して遊ぶことができた。 ・教師と一緒に店員さんになって遊ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・射的では好きな的を選んで当てることができた。外して悔しかったことを思い出し、再挑戦することができた。 ・教師の言葉掛けをきっかけに、自分でパーツを選んで貼ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・射的で再挑戦して当てることができた嬉しさを教師に伝えることができた。 ・友達が遊んでいる回転円盤を教師と一緒に回そうとしていた。
D (3年)	<ul style="list-style-type: none"> ・チケットを渡して遊ぶことが分かり、促されて渡すことができた。 ・ひもくじの引き方、射的の当て方が分かってできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、ひもくじに真っ先に行き、ハンモックや手押し車を楽しみ、自分なりに選ぶことができた。 ・パーツを選んで、教師と一緒に張り付けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みこしを担ぎながら、友達や教師と一緒に「わっしょい」と声を出すことができた。「お願いします」「ください」など、促されて話そうとしていた。
E (3年)	<ul style="list-style-type: none"> ・チケットを渡して遊ぶことが分かり、一人でできた。 ・射的もわなげも狙って当てることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの出店も楽しむことができ、チケットをもらうときに欲しいチケットを言葉で伝えることができた。 ・友達の様子を見て、塗り絵に取り組み、線を意識して塗ろうとした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったことを教師に次々と話しかけ、次回を楽しみにしていた。 ・塗り絵をしている友達の向かいで取り組み、時々友達の様子を見て、線を意識して塗ろうとしていた。
F (3年)	<ul style="list-style-type: none"> ・チケットを渡すことを理解し、遊ぶ側も店側にも取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・射的では狙うものを決めて撃ち、成果を自慢することができた。 ・様々な色のパーツを選んで張り付け、飾ろうとしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの遊び方やみこしの飾りつけ方を友達に教えるなど、自分から進んで関わって楽しもうとしていた。
G (3年)	<ul style="list-style-type: none"> ・どのチケットをどの店で出すのか分かり、チケットを丁寧に扱うことができた。 ・射的ではゴム鉄砲か筒で玉を転がすかを自分で選んで遊ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・始めは、どの遊びにするか迷っている場面も多かったが、後半は、自分で決めて遊ぶことができた。 ・好きなパーツを選んで張り付けることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師のまねをして店番をすることができた。射的で狙って倒したことを友達や教師に話して、楽しさを伝えようとしていた。

1.1 協議したいこと（協議の柱）

- ・遊びの指導として「おまつり」をさらに楽しむための、導入、展開、まとめの工夫について。
- ・「おまつり」に取り組む上で、他の教科で関連して取り組める内容について。

(1) 遊びの指導としての「おまつり」題材の展開について

①導入（1～3時間目）の工夫

- ・絵本を活用し、「おまつり」のイメージ付けを図る。
- ・法被やはちまき、虎舞などアイテムにより、「おまつり」への期待や気持ちを高める。
- ・出店は、出店という形をとりながらも中身は児童が遊び慣れたものにする。
慣れ親しみ、安心感や遊び方を知っている遊びの中で「おまつり」の雰囲気やチケットの活用に慣れていく。

②展開（4～8時間目）の工夫

- ・実際のおまつりに寄せた出店で遊ぶ。
射的やわなげなど今までの遊び單元では触れていない、おまつりならではの遊びに触れる。
- ・試行錯誤するような場面がある出店で遊ぶ。
「ピタゴラススイッチ」のような仕掛けのある玉転がし、「型抜き」は難しいので「型はめ」、いろいろなものを狙う「〇〇釣り」など。
- ・特典や楽しみがある遊びの仕掛け。
うまくいくように、または特典をもらえるように考えたり工夫したりするのではないかな。

③まとめ（9～10時間目）の工夫

- ・実際に地域の祭りに行く。
校外学習として平日（釜石祭りであれば金曜日）にみんなで行く。
お祭りの雰囲気、活気、音、匂いを実際に感じてみる。虎舞を近くで見る、出店で遊ぶ、友達と楽しむなど、「生のおまつり」を体験することで、余暇の広がりにつなげていく。

(2) 他の教科との関連について

- ・国語：絵本や紙芝居によりおまつりへの興味や期待感を高める。
「おみこし」「わっしょい」「はっぴ」などおまつりに関連する言葉に触れる。
- ・音楽：遊びのテーマソングになるような歌やダンスにより、遊びの時間へと楽しさをつなげる。
掛け声や簡単な振りがある曲を設定し、声・動きどちらでも自分に合った方法を選択し参加できるようにする。
- ・体育：「狙って投げる」「転がす」「引っ張る」などの動きに取り組み、出店のゲームの楽しさへとつなげる。
「これがうまくなって、〇〇の出店に挑戦したい」気持ちが、動きの習得とともに「こうしたらどうかな」という工夫や気づきを促し、体育・遊びの双方にとってよい効果を生むのではないか。

(3) 助言（総括教務主任 及川）

- ・小学部目標に記載されている児童の姿を育てることを意識した授業でよかった。「遊びに一生懸命取り組む」「友達と仲良くする、共に学ぶ」「健やかな心と身体をつくる」という重点が網羅されていた。
指導要領ばかりに目が行きがちである。もちろん大切なことだが、学部の目標を意識し、具体的な児童の目指す姿を忘れないことも大切である。
- ・昨年度からの小学部児童の変化や成長が目に見えて分かるようになってきた。決まりや順番を守るなど、遊びの中で身に付いてきた部分が多いと思われる。
- ・新校舎に移転し、周辺の地域との関わり、地域に出ていくことを意識したい。小学部低学団では遊び、高学団では生活単元学習でおまつりの楽しさや良さを知る。中学部では地域のおまつりに虎舞で参加する、高等部になったら製品を販売する・・・というような学校全体の流れをつくり、学びや社会参加を深められる題材である。学校周辺では「平田公民館まつり」などどうだろうか。

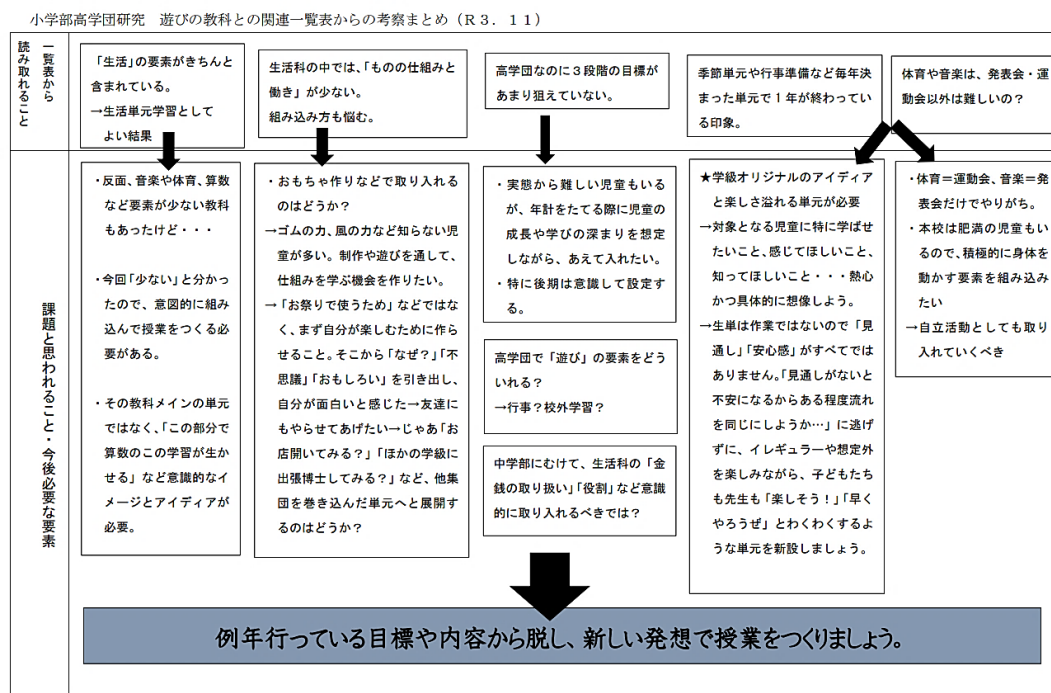
12 考察

本研究では、「遊びの指導」の題材に関わる教科の段階・内容との関連を確認することで、内容の偏りや不足している要素を明らかにし、教科横断的な内容を意識した新しい遊びの題材の設定に取り組んだ。毎年ほぼ固定されていた単元の実施時期を見直し、「まつりだ！わっしょい！」「うたってあそぼう」など新しい単元を取り入れた。新しい遊びの要素を取り入れたことで、児童が今までの遊びの経験を活かしながら自分たちで遊びを工夫する場面や、友達同士の新たなやり取りや関わりが見られるようになった。特におまつりの遊びは、「おまつり」という日常にはない華やかさやにぎやかさを体験でき、地域社会に参加する力を育てることもつながるので、継続して取り組んでいきたい題材である。また、遊びの時間以外への遊びへの広がりが見られた。遊具や物理的な教材を使用した遊びだけでなく、わらべ歌遊びや鬼ごっこなど「何もなくとも遊べる遊び」の単元を取り入れたことで、遊び以外の授業や休み時間などでも歌を口ずさんだり、友達や教師を誘って遊ぶ姿が見られた。特別な準備が必要ないので、交流先の友達との遊びなどにもつながればと期待する。教師自身の授業づくりへの意識の変化も見られ、遊びの指導以外の授業を考える際にも、教科との関わりや目標の段階などをより意識するようになった。教科や領域の横のつながりや、遊び同士のつながりを考慮しながら、生活の楽しさにつながる授業づくりを目指したい。

新校舎のプレイルームが想定より狭いことや、次年度の対象児童が3名になることから、学習場所や単元の再検討が必要な部分もある。今年度は低学団児童が12名であるため遊びのコーナーや遊具の数を充実させ待ち時間や飽きがないよう配慮したが、来年度は単元によってはあえて遊具やコーナーを絞り友達と遊具や空間を共有できるようにしたり、必要に応じて他学年の生活単元学習や教科の学習と連携を取り合同で活動するなどし、人との関わりをもちながら十分に遊びを経験できるよう工夫を重ねていく必要がある。

<高学団 (4~6年) >

a R3年度の小学部高学団 考察・まとめ



b 来年度にむけた新しい生活単元学習案

上記(1)で確認された内容を踏まえ、新しい単元を検討した。

- ①「温泉に入ろう」(想定対象:小学部5年)
- ②「じぶんTVをつくらう!」(想定対象:小学部5・6年)
- ③「これどんな味?」(想定対象:小学部6年)
- ④「祥雲食堂を開こう」(想定対象:小学部高学団合同)

c R4年度の実践

昨年度、小学部高学団の合わせた指導と教科の関連についてチェックし、あまり触れられていない内容として生活科の「ものの仕組みと働き」が挙げられた。この内容は中学部の理科的な内容につながるため、小学部高学団の段階では、児童の興味や関心をもてる内容として、触れておきたい内容である。そこで、昨年度出された新しい学習案にはなかったが、新たに「秋祭り」の単元を設定して実践を行った。

小学部高学団 「生活単元学習」 授業検討資料

日 時 令和4年11月7日(月)

～11月18日(金)

対 象 小学部4～6年 8名

主な学習場所 音楽室 プレイルーム

指導者 柏葉真紀(T1) 菅原桃子(T2)

菊地菜生(T3) 三田地つぐみ(T4)

高野伸哉(T5)

1 単元名

「秋祭りをしよう」

2 内容のまとめ

小学部 生活科(カ) 役割 3段階(ア)

小学部 生活科(シ) ものの仕組みと働き 2段階(イ)

3 単元の目標

- (1) 身近にあるものの仕組みや働きについて知ること。
- (2) 集団活動に進んで参加し、簡単な役割を果たそうとする。
- (3) 自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけようとしたり、意欲や自信をもって学んだり、生活に生かそうとする態度を養う。

4 単元について

(1) 児童(生徒)について

今年度合同生単として、校外学習や買い物学習など高学団の児童で行う単元は数回実施しているが、基本的に学級毎で活動することが多く、他の学級の児童や先生と直接かかわる機会は少ない。児童の中には他の学級の先生の名前も分からない児童もいる。しかし、一緒に活動する中で他の学級の児童の様子が気になっている児童もいる。

高学団も後半になり、学習発表会などの行事も経験したことから、低学団や他の学級の友達や先生とかかわる経験もさせたいと考えている。

(2) 単元(教材)について

生活単元学習は学級毎に学習しており、行事にかかわる内容や物作り、季節に関係する内容などが主となっている。令和2年度、3年度の研究でその年度に実施した内容について関連一覧表にまとめて検証したところ、生活科で中学部の理科につながる内容である「ものの仕組みと働き」についてあまり触れていない実態が明らかになった。

風力やゴムのはたらきなどは生活の中でも自然に感じていることであるが、おもちゃ作りをする中で改めて感じることで、生活の中で物の仕組みについて興味をもち、物を扱う時に思考する力につながられるのではないかと考える。

また、秋祭りに低学団を招待することで、下学年の児童とのかかわり方を学んだり、集団の中での役割について学んだりする機会にしたい。

(3) 支援について

(知識・技能)

- ・作成の道具については、それぞれの技能に合った物を担任とグループの担当で打ち合わせして使用させる。
- ・他の学級や先生の顔と名前を一致させて覚える。
- ・「どうぞ」「ありがとうございます。」「チケットください」など、子供同士のやりとりのことばを促す。難しい児童は指導者と一緒に言う。

(思考・判断・表現)

- ・風の力、物の重さ、ゴムの力に気付き、楽しんで遊ぶことができる。また、児童によっては工夫しながら遊ぶぼうとする。
- ・子ども同士のやり取りが難しい児童は、「バイバイ」「こんにちは」など簡単な挨拶でも良いことにし、指導者と一緒に行く。

(主体的に学習に取り組む態度)

- ・釜石祭りや昨年の祭りの様子を見せ、イメージをもたせるようにする。
- ・ゴムや風など日常にもあることに気付かせる。
- ・全体のスケジュールをビックカレンダーで示し、全体の流れがわかるようにし、グループのメンバーも一緒に掲示したり、時間の始まりに確認したりして自分の役割がわかるようにする。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身近にあるものの仕組みや働きについて知っている。	集団活動に進んで参加し、簡単な役割を果たそうとしている。	①活動に積極的に取り組もうとし、普段接しない友達や先生にも働きかけようとしている。 ②ゴムや風、物の重さに気付き、おもちゃ作りや遊びを楽しもうとしている。

6 指導と評価の計画 (11 時間)

時	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1	<p><事前学習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつ、なにをするかを知る。 ・学習計画について知る。 <p><グループ分けをしよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・作りたいおもちゃを選ぶ。 1グループ3名×3グループ ※活動には駒林里玖も参加する。 ・グループ名を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビックカレンダーを作り、当日までの活動内容に見通しをもてるようにする。 ・一度全部遊んでみてから希望を取る。 ・単元を通してグループでの活動とする。 ・グループ決定後、教員の担当を決めるが、敢えて担任外の教員が入るようにする。 	<p>【思判表】行動の観察</p> <p>【知】行動の観察 発言</p> <p>【主①】発言</p>
2 3	<p><おもちゃ作りをしよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎におもちゃ作りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態（技能）について職員で事前に共通理解しておく。 	<p>【知】行動の観察 発言</p> <p>【主②】行動の観察</p>
4	<p><看板を作ろう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎に自分のグループの看板を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遠くからも見えることを意識して作るようにする。 	<p>【思判表】行動の観察</p>

5 6 7	<p><招待状を作ろう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・低学団に招待状を作る。 ・招待状を渡すときやお祭りの際のやりとりの仕方を練習する。 <p><チケットを作ろう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・祭りのチケットを切って一人分のセットを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低学団の児童の名前と顔を一致させる。 ・贈る相手が喜んでくれるか期待感をもたせるようにする。 ・ハサミやカッター、カッター台など、個々の技術に合ったもので切るようにする。 	<p>【主①】 行動の観察</p> <p>【主①】 行動の観察 発言</p>
8	<p><遊んでみよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが作ったおもちゃをお互いに遊んでみる。 ・やりとりの練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を区切ってローテーションで回して、全種類遊べるようにする。 	<p>【思判表】 行動の観察</p> <p>【主②】 行動の観察 発言</p>
9 10	<p><秋祭りをしよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・飾りつけやおもちゃなど準備を行う。 ・自分のコーナーに遊びに来た児童に遊び方を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低学団の児童に積極的に声掛けできるように促す。 ・グループの仲間を意識して行動できる。 	<p>【思判表】 行動の観察</p> <p>【主①】 行動の観察 発言</p>
11	<p><振り返りをしよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真を見て振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一番楽しかったことを写真などで選択できるようにする。 	<p>【思判表】 行動の観察 発言</p>

7 題材に関する児童（生徒）の実態と手だて

児童	実 態			手だて
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
A (4年)	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも使っているものの名前をおおむね知っている。 ・他の学級の友達や先生の名前が分かり、呼ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物の重さについて気付いている。 ・見通しがもてると役割を覚えて果たすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな活動は、積極的に参加することができる。 ・教師の促しによって、友達と関わろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ものの名前を確認する場を設ける。 ・おもちゃの遊び方を示範し、手順を確認しながら一緒に遊ぶ。 ・友達への声掛け方法を学習し、活動の中で実践できるように促す。
B (4年)	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも使っているものの名前をおおむね知っている。 ・覚えた友達や先生の名前を呼ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手本を見て、ものの仕組みや動きが分かり、自分で工夫して使おうとすることができる。 ・見通しがもてると、簡単な役割を果たすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に見通しがもてると、教師と一緒に最後まで取り組もうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ものの名前を確認する場を設ける。 ・友達や先生の名前をカード等で確認する。 ・グループメンバーや活動の流れなどを視覚的に提示する。
C (4年)	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にあるものの名前をおおむね知っている。 ・友達や先生と挨拶や簡単なやり取りをすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・風の強さや物の重さについて気付いている。 ・自分の役割が分かり、進んで取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな活動は、積極的に参加することができる。 ・教師の促しによって、友達と関わろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ものの名前を確認する場を設ける。 ・友達や先生の名前をカード等で確認する。 ・おもちゃの遊び方を示範する。
D (5年)	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にあるものの名前をおおむね知っている。 ・友達や先生と挨拶や簡単なやり取りをすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・風の強さや物の重さについて気付いている。 ・見通しがもてると役割を覚えて果たすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな活動は、積極的に参加することができる。 ・教師の促しによって、友達と関わろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ものの名前を確認する場を設ける。 ・グループメンバーや活動の流れなどを視覚的に提示する。 ・友達への声掛け方法を学習し、活動の中で実践できるように促す。

E (5年)	<ul style="list-style-type: none"> いつも使っているものの名前をおおむね知っている。 関わりのある友達や教師の名前を覚えて名前を読んだり、挨拶をしたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 風の強さや物の重さを感じている。 同じ役割を何度も経験することで、簡単な役割を果たすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 好きな活動や経験のある活動は、積極的に参加することができる。 教師の促しによって、友達と関わろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> おもちゃの遊び方を示範し、手順を確認しながら一緒に遊ぶ。 友達に活動の開始や終了を伝える場を設ける。 昨年度の祭りを想起できるように、写真で振り返る場面を設ける。
F (5年)	<ul style="list-style-type: none"> 身近にあるものの名前をおおむね知っている。 友達や先生と興味のある話題に関して会話することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 物の重さについて気付いている。 同じ役割を何度も経験することで、教師と一緒に簡単な役割を果たすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 好きな活動は、積極的に参加することができる。 積極的に友達と関わろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 風やゴムの力を実感できるような活動の場面を設ける。 友達の活動の様子に注目できるように言葉掛けをする。 友達の呼びかけに気付けるような言葉掛けをする。
G (6年)	<ul style="list-style-type: none"> 教師の手本を見たり自分でやってみたりすることで、物の仕組みについて知ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の役割や手順が分かると、進んで活動することができる。 集団の中でみんなと一緒に学習することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 高学団の友だちや先生の名前をおおむね分かる。 ゴムや風の力で物が動くことを知っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊び方が分かるように、教師が隣でやってみせる。 役割や手順が分かるように、視覚的に示す。 必要に応じて友達や先生の名前を確認したり、接客の仕方を練習したりする。
H (6年)	<ul style="list-style-type: none"> 風の力を使って、風船を浮かせたり、風車を回したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の役割や手順が分かると、進んで活動することができる。 集団の中でみんなと一緒に学習することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 名前を覚えると、呼んで話しかけることができる。 風の力で動くものが好きで、働きもおおむね分かっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しく遊ぶように、遊び方のポイントを端的に伝える。 役割や手順が分かるように、視覚的に示す。 必要に応じて友達や先生の名前を確認したり、接客の仕方を練習したりする。

8 使用教材について

① 児童たちが作成したおもちゃ

チーム名・看板	メンバー	作ったおもちゃ	
しかチーム 	C D H	ビー玉落とし やじろべえ	 
いかチーム 	A E I	UFO ロケット	 
かもめチーム 	B F G	フリスビー 風車	 

作ってみたいおもちゃを児童に選ばせてチーム編成をした。看板は児童が色を塗って作成。

② チケット



A4に12枚印刷されたチケットをカッター又はペーパーカッターを使用して切り離し、3枚ずつセットにして低学団の児童へ渡した。

③ 招待状



低学団の児童の名前を知らない児童も多くいたため、低学団の児童の顔と名前を一致させながら、招待状を作成した。また、それを実際に届けることで確認することができた。

9 実践報告

(1) 授業者から

今回、合同生単として高学団知的通常学級全員と4年生重複学級児童でのお祭り単元を計画した。お祭り単元は昨年度に引き続き2回目である。しかし、今年度は時期を遅くしたこともあり、コロナ感染やその他諸事情によって全員がそろって実施できなかった。お祭り当日も欠席者多数であったことや感染が拡大してきたことにより、一度は延期をしたが最終的には中止とした。

チーム編成については一通り作成予定のおもちゃで遊んだ後に希望をとった。それぞれの希望を優先に決めたため、児童同士の相性などは配慮しなかった。児童はいつもと違うメンバーを気にしながらも、それぞれ集中して意欲的に作成に取り組んでいた。また、いつもと活動する友達が違ったり、一緒に行く先生も違ったりすることで、児童はよい緊張感で臨み、教師側も他の学級の児童の実態を知ることができた。お互いに児童の様子を伝え合ったり、少し離れて他の教師とのかかわりを見合ったりすることで、新たな児童の姿を見出すことができた。

今回は中学部の理科につながる内容として「ものの仕組みや働き」を意図的に取り入れ、「ゴムの力」「物の重さ」「風の力」を使ったおもちゃを設定した。児童は、風車は回すために走って風を起こして風車を回していたり、(くるくる)やじろべえは回し方を工夫したりする様子が見られた。「ものの仕組みと働き」の内容については、昨年度もお祭り単元で扱ったが、その他にどのような単元が考えられるかご意見をいただきたい。

本単元は残念ながらコロナの影響で完結することができず、単元としては中途半端な形で終わってしまった。それぞれ学級で次の計画もあったので、さらに延期することはしなかったが、楽しみにしていた児童もいた。また、低学団の児童と交流するよい機会だったので、低学団との交流の機会が無くなってしまったことも残念でならない。

(2) 指導の経過

時	学習内容	学習の様子
1	<事前学習> <グループ分けをしよう> 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際におもちゃの見本を見せることで、おもちゃに興味を持ち、おもちゃに対して近づく児童もいた。 ・チームの希望は用紙を渡して後で回収をしたが、どの児童もすぐに自分のやりたいチームを決めることができていた。
2 3	<おもちゃ作りをしよう> 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作りたいおもちゃを作成しているため、完成を意識し、自分から次の工程をしようとする児童もいた。また、装飾などを楽しむ児童もいるなど、それぞれが、集中して作成に取り組み、完成を楽しみこしながら作成することができていた。 ・普段あまり一緒に活動しない先生と作ったため、お互いに良い緊張感で作成することができていた。
4	<看板を作ろう>	<ul style="list-style-type: none"> ・最初は一色でべた塗りをしていた児童も、2枚目、3枚目になると文字の途中で色を変えてレインボーにし

	<ul style="list-style-type: none"> 各グループの名前をA3用紙1枚に一字ずつ白抜きにしたものを準備した。それにそれぞれがクーピーや色鉛筆、ペンなどで色を塗って作成。 	<p>たり、文字に柄をつけながら塗ったりと工夫がみられるようになった。</p>
5 6 7	<p><招待状を作ろう> <チケットを作ろう></p> 	<ul style="list-style-type: none"> あまり接点のない低学団の児童の顔と名前を一致させながら招待状を作った。これまで意識していなかった児童にも直接渡しに行くことで交流をもつことができた。 線を意識してカッターやカッター一台で切ることに集中して行っていた。 
8	<p><遊んでみよう></p> 	<ul style="list-style-type: none"> 当日は2名のみだったが、後日改めて自分たちで作ったおもちゃで遊んでみる機会を設けた。自分が作ったおもちゃだけでなく、友達が作ったおもちゃが気に入ってずっと遊んでいる児童もいた。
9 10	<p><秋祭りをしよう></p> <ul style="list-style-type: none"> コロナの影響で欠席者多数の為中止。 	<ul style="list-style-type: none"> とても楽しみにしていたが、欠席者が多数であることと、低学団と交流することで、コロナが蔓延することを避けるためにやむなく中止とした。
11	<p><振り返りをしよう></p> <ul style="list-style-type: none"> 各学級での振り返りにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学級で活動できた部分のみで振り返りを行った。

10 評価について

児童	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A (4年)	<ul style="list-style-type: none"> おもちゃの作り方が分かり、輪ゴムを固定しようとしていたり、テープを貼ったりすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 手順表を見て、内容を確認しながら、相手に「いらっしやいませ」や「ありがとうございました」などと話すことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じグループの友達との関わりを楽しみながら一緒に活動することができた。 .
B (4年)	<ul style="list-style-type: none"> おもちゃ作りに使用した「カッター」「ホチキス」の名前を知り、使い方を教師と確認しながら作ることができた。 	<p>集団活動の時間は欠席</p>	<ul style="list-style-type: none"> 普段関わりの少ない教師と、言葉でコミュニケーションを図りながら活動できた。 自分なりに色を塗ったり、シールを貼ったりして楽しみながら制作することができた。
C (4年)	<ul style="list-style-type: none"> 最初に完成品を見て自分が作るものへの大まかな見通しをもち、「ジュース」「ビー玉」等、材料の名前や「はさみ」「テープ」等使う道具の名前を確認しながら作ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> やじろべえを動かして粘土が外れると最初は怒っていたが、元の位置に戻すと元通り動くことが分かり、後の方では外れても怒らずに直すことができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ビー玉を転がしたり物を回転させる遊びが好きであり、それらを含むおもちゃの面白さを感じて、作る・遊ぶ活動を楽しんでいた。
D (5年)	<ul style="list-style-type: none"> 普段触れない「コルク」や「竹ひご」等の言葉は言いにくそうにしていた。できたことや難しい部分への手助けを頼む時は大人の声かけが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> やじろべえの重りが同じになるように、電子ばかりではかって粘土の量を調整することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 作り方のプリントを見て、道具や材料を探すことができた。時間いっぱいおもちゃ作りに集中し、同じグループの友達に苦手意識もたずに取り組むことができた。

E (5年)	・おもちゃ作りで、固定するところが分かり、テープを貼る部分や向きを考えながら製作することができた。	・教師と一緒に、「いらっしやいませ」と話したり、「(チケットを)ください」と身振りを付けて言ったりして、接客の練習をすることができた。	・同じグループの友達が活動している様子を気かけながら一緒に活動することができた。 ・自分なりの絵を描いたり、シールを選んで貼ったりして製作を楽しむことができた。
F (5年)	参加なし		
G (6年)	・カッターの使い方を教師と確認しながら、安全に気を付けてゆっくりと使うことができた。	・台詞カードを見ながら、教師と一緒に接客することができた。回数を重ねることで接客の流れを知り、見通しをもって活動することができた。	・紙皿フリスビーの制作では、自分の好きなキャラクターを描くことで活動に積極的に取り組むことができた。絵の見本が欲しいときには、「写真を見せてください」と自分から依頼することができた。
H (6年)	・完成品を見て、作るおもちゃの大まかな見通しをもつことができた。 ・教師の言葉掛けを受けて、画用紙の線の上をはさみで切ることができた。	・完成品と同じになるよう試行錯誤し、竹串の先に粘土を付けることができた。 ・せりふカードを見ながら、「いらっしやいませ」や「ありがとうございました」など簡単な言葉を友達に伝えることができた。	・普段関わりの少ない教師の言葉を聞いて、おもちゃ作りに取り組むことができた。

11 授業について(参観者から)

- ・身近にあるものの仕組みや働き(理科的)を児童の興味関心のありそうなおもちゃ作りに結び付けたのは視点が良かった。
- ・学級以外の先生・友達とのグループでの活動(教師が選ばないグループ分け)はよいと思った。
- ・作ったおもちゃを紹介する時に、動く仕組みを説明しているような言葉があると、よりねらいを実感しているかの評価をしやすいと思う。子どもから出たことば→中・理科につなげる。
- ・秋祭りまでいけなくて残念。役に立ったという気持ちを味わってほしかった。
- ・おもちゃを作る単元と秋祭りを別々にできないか。おもちゃ作り(指定)→秋祭り→作りたいおもちゃ作り(希望)という流れではどうか。

12 協議したいこと(協議の柱)

【小学部高学団の段階で付けさせたい力について】

- ・秋祭りのお店屋さんをすることにより相手とのやり取りの学習をすることとは、場の設定として将来的に「作業製品を売る」につながる。
- ・カッターなど危険な道具を使うことによって、何かを作る経験をする。
- ・(今回はなかったが)分担して何かを作る、やり取りして意思疎通しながら活動することを経験していると、中・高の作業のイメージがしやすく、つながると思う。
→中・高の作業へのつながり、道具の使い方
- ・毎日決まった仕事(係)を自主的にできるようになると良い。
- ・掃除のやり方・後片付けは小学部段階(早い時期)で身に付けておくことと中学部・高等部へとつながっていく。
→いつもやること、将来につながる力
- ・作ったものの良さ、人との関わり・やりとり

【「ものの仕組みと働き」の内容を盛り込んだ生活単元学習の授業のアイデアについて】

- ・おもちゃ作りからものの仕組みと働きについての学習をすることは、児童が主体的に関心をもってできたようなので、いいなと思った。風の力・ゴムの働きなど、身近で生活に密着していて良いと思った。
- ・ゴムの長さや数などを工夫できるようにして、記録会みたいなものにしてはどうか。
＝おもちゃ作り→記録会へ

13 助言(千葉副校長)

- ・遊びの中で、自分でいろいろやってみて、うまくいかない体験をすることで、「なぜうまくいかないんだろう」と考えることにつながる。遊びを通して、自分で考えたり、実際に体を動かしてやってみたりすることが子どもたちの成長に大きく刺激を与える。
- ・手首の動き、ひざの使い方など、体の使い方がなかなかうまくできない子供もいるが、作業などでもいろいろな動きが必要となる。遊びを通して、体を動かすことが、統合的な体の動きにもつながるので、小学部から逆算してできるようになると良い。
- ・「なぜだろう」と考える癖をつけることが必要。競争原理が入ると、うまくなる・早くできるためにどうしたらよいか考えることにつながるので、そのような要素もうまくとりいれてみてはどうか。小学部段階から「なんで?」と考えるくせをつけると、中学部・高等部へと成長していったときに子どもたちは変わってくるのではないかと思われる。

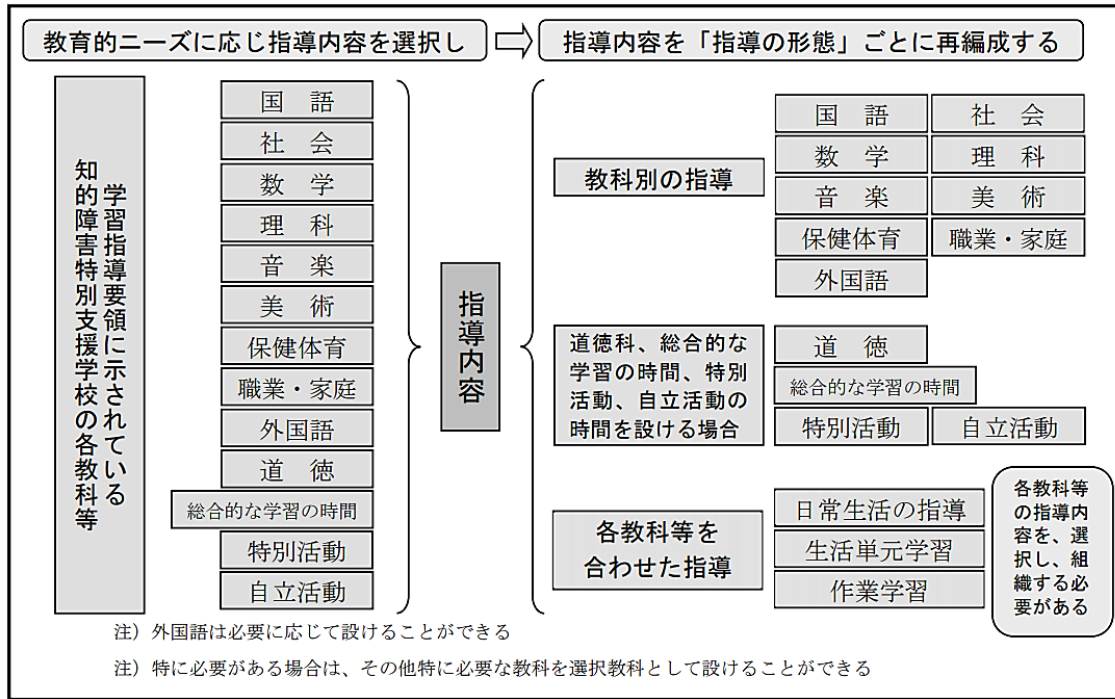
14 まとめ

今回の研究では合わせた指導に焦点を当て、教科の関連について確認を行ったり、新しい単元案を作成したりした。これまでも、「児童に必要な学習は何か」ということを考えて授業を行ってきたが、改めて新しい学習指導要領の内容と照らし合わせてみると、あまり取り込まれていない内容があることが明らかになった。

そこで、取り組みの少ない生活科の「ものの仕組みと働き」の内容を盛り込んだ「秋祭り」の単元を設定した。そして単元に「おもちゃ作り」を位置づけて、身近にあるゴム、風、重さの3つの要素について、その特徴を利用したおもちゃ作りをするなかで発見や工夫、楽しさなどを感じられるような単元作りを行った。11時間で計画したが、「ものの仕組みと働き」や「役割」として集団での活動、低学団の児童とのかかわりなど内容を盛り込みすぎてしまった。検討会でも意見をいただいたが、「おもちゃ作り」にもっと焦点を絞って計画をたてれば良かったと思う。十分な時数で設定したと思ったが、実際はじっくりと「物」と向き合い対話する時間が十分ではなかった。職員の意識調査の結果でも、学びの将来や生活へのつながりが課題となっていたが、例えば年間指導計画を立てる時点で、縦のつながり（教科間のつながり）を意識して、同時期に国語の時間に低学団の友達の名前の読み書きを行い、図工で看板作りや招待状を作成するなどの内容を計画しておけば、より効果的に深い学びへつながったと思われる。

本研究を通じて、これまで慣例的に行っていた合わせた指導の内容について、教科との関連を意識した題材の設定を考える機会になった。また、児童たちに様々なことを学んで欲しいという思いで、一つの単元にたくさんの要素を詰め込んでしまうことも、学びの焦点がぼやけてしまい、本当に大事にしたいことが分からなくなってしまう。私たちは、児童一人一人の学びのつながりや生活とのつながりを意識し、そのカリキュラムをマネジメントしていくことが、児童の「主体的、対話的で深い学び」につながり、社会で生きていくための力の基礎となっていくことを念頭においた授業づくりをしていかなければならないと思った。

イ 中学部



図：教育課程の構造図（中学部）

中	国語		社会				数学				理科			音楽			美術			保健体育							職業・家庭			外国語活動・外国語										
	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	A	B	C	D	A	B	C	A	B	A	B	C	D	E	F	G	H	A	B	C	A	B	C	聞	話	書	読							
内容のまとめり（大項目）	聞くこと・話すこと	書くこと	読むこと	社会参加とときまり	公共施設と制度	地域の安全	産業と生活	我が国の地理や歴史	外国の様子	数と計算	図形	測定	データの活用	生命	地球・自然	物質・エネルギー	表現	鑑賞	共通事項	表現	鑑賞	共通事項	表現	鑑賞	共通事項	A	B	C	D	E	F	G	H	A	B	C	聞	話	書	読

図：中学部 各教科の内容のまとめり（大項目） *知的障がい

(ア) 中学部における「指導形態」の整理と確認 *知的障がい通常課程

a【教科別の指導】で行っている教科

国語、数学、音楽、美術、保健体育

b【各教科等を合わせた指導】で行っている教科

「生活単元学習」 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、職業・家庭、外国語

「日常生活の指導」 小学部生活、国語、理科、保健体育、職業・家庭

「作業学習」 国語、社会、数学、理科、美術、職業・家庭

c【道徳科、総合的な学習の時間、特別活動、自立活動】について

「道徳」 教育活動全体をとおして実施

「総合的な学習の時間」 国語、社会、職業・家庭

「特別活動」 社会、保健体育、職業・家庭

「自立活動」 教育活動全体をとおして実施

中学部 生活単元学習 授業検討資料

対 象 中学部1年2・3組 4名
 中学部2年2組 2名
主な学習場所 中学部1年2組教室
指導者 熊谷美早紀(T1)小坂 誠孝(T2)
 梅田 良隆(T3)北條 真聖(T4)
 松尾 瑞紀(T5)佐々木幸枝(T6)

1 単元名

「新しい学校・新しい地域について知ろう～平田校舎、よろしくね!～」

2 内容のまとめ

中学部 社会 イ 公共施設と制度 1段階 (ア) ㊦
中学部 国語 A 聞くこと・話すこと 1段階 (ウ)
中学部 社会 ウ 地域の安全 1段階 (ア) ㊦

3 単元の目標

- (1) 簡単な地図を手掛かりにしながら校舎内や校舎周辺地域を歩く経験を通して、どこに何があるかを調べ、それらの役割を知ることができる。
- (2) 調べて分かった内容の大体が伝わるように教師と一緒に伝える順序や方法を考え、自分に合った方法で伝えることができる。
- (3) 身近な地域に自ら関わろうとする意欲をもち、地域社会の中で生活することの大切さについての自覚を養う。

4 単元について

(1) 生徒について

本学習グループは発達段階に大きな差があるものの、体育や作業学習など集団での学習活動を通して、お互いを意識して行動することができるようになってきている。

校舎移転については、年度初めからオリエンテーションや校舎お別れセレモニーを通して学習している。生徒Aは、新しい環境に対して不安を抱きやすい。特にも普段と環境が異なる授業や行事がある時は、イラストや学習カレンダーを使用した支援が必要である。生徒Bは、新校舎への期待感がありつつ、新しい環境への不安をもっている。宿泊学習では避難経路図を確認の様子も見られ、防災意識が身に付き始めているように感じている。

(2) 単元(教材)について

安心した学校生活を送るために、まずは新校舎内の教室配置を把握することが大切である。また、周辺地域を知り地域の方々に自分達の存在を知ってもらうことも安全な学校生活につながる。さらに、簡単な地図を手掛かりに目的地を探したり、その中で自分なりの目印を見つけたりすることは、将来自立した生活を送る上で必要な力である。本単元の学習を通して手掛かりを頼りに歩くことを経験するとともに、安心した学校生活を送れるようになることを目指し、自ら地域の人々と関わろうとする態度を養いたいと考える。

(3) 支援について

(知識・技能)

- ・「〇〇の隣」や「△△の次」という表現を使って簡単な地図を読み取る練習を行う。
- ・地図上で操作できるような生徒のミニチュア模型を準備して、地図を見る際の手掛かりになるようにする。

(思考・判断・表現)

- ・発表する内容は単語を組み合わせて考えられるように、単語カードを準備する。
- ・自信をもって発表できるように、伝え方のヒントとなる表現（「〇〇の隣に～がありました。」）を提示する。
- ・写真やイラストを地図に貼ることで分かったことを発表できるように、拡大版の地図をホワイトボードに提示する。

(主体的に学習に取り組む態度、生活につなげるための支援)

- ・よろしくねカードに記載する内容は生徒が決められるように、選択肢を準備する。
- ・生徒の実態に配慮しながら、よろしくねカードを渡す練習を行う。
- ・単元の学習内容に見通しがもてるように、学習カレンダーを準備する。
- ・毎時間の終わりには、学習カレンダーを使用して次回の学習内容を確認する。
- ・単元で使用する校内地図と同じものを各学級にも掲示し、教室移動の際に確認できるようにする。
- ・実態に応じて国語の授業で単元に関する単語や、物事について説明する学習に取り組む。
- ・実態に応じて数学の授業で前後左右の学習に取り組む。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①簡単な地図を手掛かりにして、目的の場所や物を探すことができる。 ②各教室や周辺施設、看板などの役割について知ることができる。	①調べて分かったことを、自分なりの表現方法で発表することができる。	①与えられた課題が分かり、自分の役割を果たそうとしている。 ②活動中に会った人に挨拶しようとしている。

6 指導と評価の計画（16時間）

時	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1 ・ 2	○簡単な地図を読み取る練習をする。 ○チームごとに校舎内を探検する。 ○校舎内で見つけたことや気に入った場所を発表する。	・生徒が地図に興味をもちやすいように、キャラクターなどを使用した地図を準備して、ゲーム形式で練習を行う。 ・生徒が学習内容をイメージしやすいように、本時の学習のキーワードとして「なんだろう？」と「ここ、いいね！」を示す。 ・実態別にチーム編成を行う。 ・発表内容をまとめる学習プリントを準備する。	【表①】様子観察

3 ・ 4	<p>○チームごとに教室の並びや目印になる物を調べる。</p> <p>○調べて分かったことをまとめ、発表する。</p> <p>○各教室で何の授業を行うかを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が学習内容をイメージしやすいように、本時の学習のキーワードとして「あった!」を示す。 チームごとに調べる課題の量を調節する。 発表の例を示し、チームごとに発表の練習をする時間を設定する。 各授業の場所を確認して、地図上にイラストを貼る活動を行う。 	<p>【知技①】行動観察</p> <p>【知技②】行動観察</p> <p>【表①】発表</p>
5 ・ 6 (本時)	<p>○チームごとに校内の設備を調べる。</p> <p>○調べて分かったことをまとめ、発表する。</p> <p>○各設備の役割を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が学習内容をイメージしやすいように、本時の学習のキーワードとして「あった!」を示す。 チームごとに調べる課題の量を調節する。 発表の例を示し、チームごとに発表練習をする時間を設定する。 避難経路と結び付けて指導する。 	<p>【知技①】行動観察</p> <p>【知技②】行動観察</p> <p>【表①】発表</p>
7 ・ 8	<p>○よろしくねカードを作る。</p> <p>○よろしくねカードを渡す練習をする。</p> <p>○高等部職員によるよろしくねカードを配る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が完成をイメージできるように、完成例を提示する。 記載する内容を生徒が決められるように、選択肢を準備する。 誰に渡すのか生徒が選べるように、高等部職員の顔写真を準備する。 挨拶、カードの持ち方、カードを渡す向きを3点を指導する。 	<p>【主①】行動観察</p> <p>【主②】行動観察</p>
9 ・ 10	<p>○チームごとに校舎周辺を探検する。</p> <p>○校舎周辺で見つけたことや気に入った場所を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が学習内容をイメージしやすいように、本時の学習のキーワードとして「なんだろう?」と「ここ、いいね!」を示す。 実態別にチーム編成を行う。 発表内容をまとめる学習プリントを準備する。 	<p>【表①】発表</p>
11 ・ 12	<p>○チームごとに校舎周辺の施設などを調べる。</p> <p>○調べて分かったことをまとめ、発表する。</p> <p>○各施設や看板の役割を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が学習内容をイメージしやすいように、本時の学習のキーワードとして「あった!」を示す。 チームごとに調べる課題の量を調節する。 発表の例を示し、チームごとに発表練習をする時間を設定する。 避難訓練と結び付けて指導する。 	<p>【知技②】行動観察</p> <p>【表①】発表</p>
13 ・ 14	<p>○よろしくねカードを作る。</p> <p>○よろしくねカードを渡す練習をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が完成をイメージできるように、完成例を提示する。 記載する内容を生徒が決められるように、選択肢を準備する。 挨拶、カードの持ち方、カードを渡す向きを3点を指導する。 	<p>【主①】行動観察</p>
15 ・ 16	<p>○よろしくねカードを配る。</p> <p>○学習を振り返り、分かったことについて確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 活動中に会った人に「こんにちは。」と挨拶をする練習を行う。 完成した地図を確認しながら、学習を振り返り、生徒それぞれが調べたことに自信をもち、達成感を味わえるようにする。 	<p>【主①】行動観察</p> <p>【主②】行動観察</p>

7 単元に関する生徒の実態と手だて

生徒	実 態			手だて
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的学習・取り組む態度	
A (1年)	<ul style="list-style-type: none"> 「〇〇はどれ？」のように聞くと、指差して答えることができる。 選択肢から選んだり、「はい」や「いや」と話したりして質問に答えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名を読んだり、教師の後に続いて一文字ずつ話したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 明確な課題であれば、教師と一緒に取り組むことができる。 教師の言葉がけを聞いて、挨拶をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題は、写真と言葉の両方で提示する。 指示は短い言葉で行う。 選択肢から選ぶことで質問に答えられるように、質問に対する選択肢を準備する。
B (2年)	<ul style="list-style-type: none"> 地図を見て、どの方向に何があるのかをおおよそ把握することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校2年生程度の漢字の読み書きができる。 教師の支援があれば友達と相談しながら物事を進めることができる。 経験がある内容については、自分の言葉で表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 慣れている人には教師の促しがなくても、自ら挨拶をすることができる。 分からないことを自分から教師に聞くことができるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題は、写真と言葉の両方で提示する。 地図上で操作できるような生徒のミニチュア模型を準備する。 困っている時は、教師が質問をすることで、何に困っているのかを明確にする。

8 使用教材について (使用プリント、カードは別紙)

学習シート

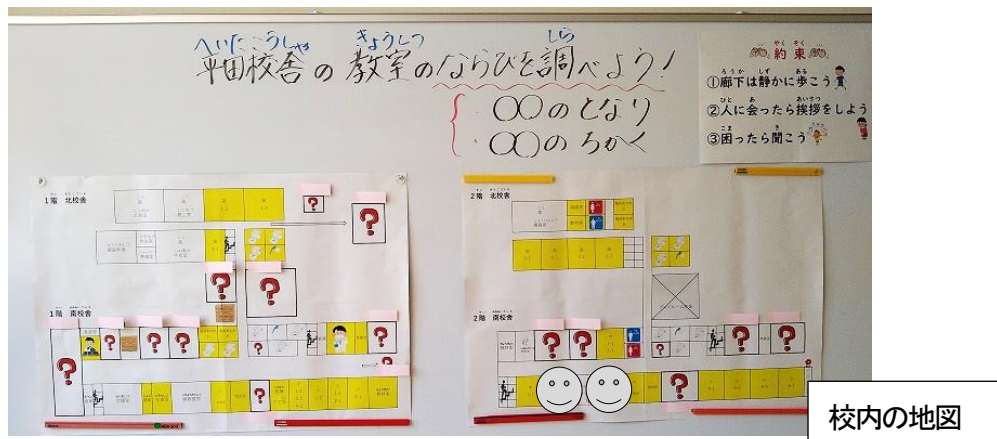
グループ表



学習の約束



iPad



校内の地図

9 実践報告

(1) 授業者から

○ 単元を終えての感想

単元の導入で行った「〇〇の隣」が、予想していた以上に生徒にとって難しいことに驚いた。日常生活で「隣の人」や「右手左手」等が分かっているが、自分と切り離して考えることの難しさ、またそれを教える難しさに気付くことができた。普段から、「あっち」や「そっち」のように言ってしまうがちだが、明確な言葉で伝えることの大切さを感じた。

生徒が楽しそうに学習に取り組んでくれたことは良かったが、生徒にとって、授業が「楽しかった！」だけで終わっていないかを不安に思った。新校舎の教室配置や、防災設備についての学びが授業だけで完結させず、普段の生活にいかしていくことが今後の課題だと感じた。教師が「前に勉強したよね。」と話さなくても、例えば避難訓練の時に生徒自身が「聞いたことがある!」「前に勉強した!」と思い出せるような、生徒の記憶に残る授業づくりを考えたい。

○ 生徒の様子

生徒A：目元がかゆいので、目元に意識が向いているが、ストレスを感じている様子はなく、いつも通りに活動に取り組んだ。提起されたものを探そうとするので、その日やることを理解していたようだ。校舎を歩くことはいやではなく、「歩いて探す」様子がある。「前の時間は別のものを探して貼ったよね」という言葉に笑っていた（前の時間を思い出していたのではないかと思う）。

生徒B：学習活動の場である教室に同じチームの友達と早めに入り、席についてほかのチームを待つ姿勢が見られた。探検をすること・防災に関することを事前に確認することができた。国語で防災の言葉について調べて、今回の生単で学んだことと関連付けることができている。



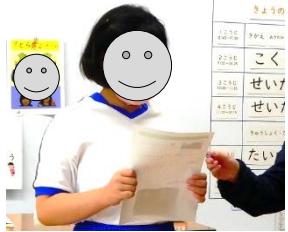




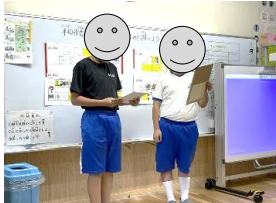


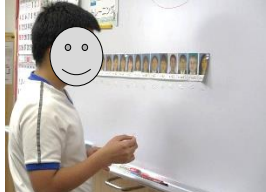


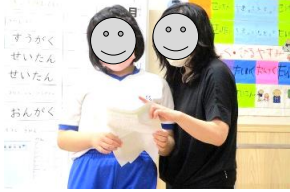


○ 成果として

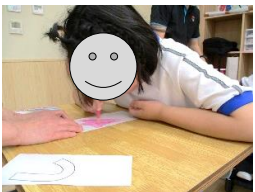

- ・校舎内探検の1時間目を自由探検にしたことで、生徒の「あっちに何があるのかな?」「高等部の方にも行ってみたい!」等の気持ちを大切にできた。
- ・「探検→調査」という基本の流れを繰り返す学習計画にしたことで、生徒が徐々に次に何をするのか見通しを持っていた。

○ 課題として

- ・1時間当たりの課題が多かった。
 - 1時間内の課題の焦点化が大切だと思った。
- ・「～を探そう!」→「～の役割は◇◇です」の流れで学習したが、役割を知ってからそれを探するという流れの方が生徒には分かりやすかったか?
 - 例 消火栓は、初期消火に使います
学校に何本あるかな?

指導の経過（動画の紹介含む）

時	その単元時間の時系列→ →		
1・2	<p>○簡単な地図を読み取る練習</p> 	<p>○チームごとに校舎内探検</p> 	<p>○発表</p> 
3・4	<p>○チームごとに調べもの</p> 	<p>○調べて分かったことの発表</p> 	<p>○何の授業を行うか確認</p> 
5・6 (本時)	<p>○校内設備調べ</p> 	<p>○発表</p> 	<p>○各設備の役割確認</p> 
7・8	<p>○よろしくねカード作り</p> 	<p>○よろしくねカードの配付練習</p> 	<p>○カードの配付</p> 
9・10	<p>○チームごとに校舎周辺探検</p> 	<p>○発表</p> 	
11・12	<p>○校舎周辺施設調べ</p> 	<p>○発表</p> 	<p>○各施設等の役割確認 「津波避難」の看板等の説明を聞き、意味を知ることができた。</p>

13 ・ 14	<p>○よろしくねカード作り</p> 	<p>○よろしくねカードの配付練習</p> <p>一部の生徒がはしゃいだ様子や、緊張した様子であった</p>	
15 ・ 16	<p>○よろしくねカードの配付</p> 	<p>○学習の振り返り等</p> <p>どこに配布してきたかシールを貼って確認することができた。</p> <p>※7・8時間目では校内、15・16時間目では周辺住民に配布した。</p>	

10 評価について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A (1年)	<p>① 簡単な地図と言葉掛けにより、目的物を探すことができた(随時ではない)。</p> <p>② トイレやプレイルーム、紙工室などの場所を知ることができた。</p>	<p>① 「ここだよ」という言葉掛けに、「あった!」と声を出し、あきらめないで取り組む様子が見られた。</p>	<p>① 課題に対して、校内を歩いて探す様子が見られた。</p> <p>② 挨拶を返すように促されて、挨拶を返すことがあった。</p>
B (2年)	<p>① 簡単な地図を手掛かりにして、目的の場所を探し、地図に調べたことを示すことができた。</p> <p>② iPadで調べたり職員の説明を聞いて、校内のピクトグラムや地域の看板などの役割を知ることができた。</p>	<p>① 発表するときに少し伝わりにくいことがあった。友達と交互に相手の反応を見ながら「隣」を説明する活動ができた。</p>	<p>① 活動内容が分かり、不安な様子がなく落ち着いていた。同じチームの友達にまかせっきりの時があった。</p> <p>② 校内では職員に「こんにちは」と挨拶することができた。</p>

11 協議したいこと(協議の柱)

- ① 地域住民との交流の継続や発展、関係づくりについて(「地域を知る」という目標に対して地域(外)での活動時間が少ないように感じた)
- ・平田の地域の方との交流については、こちらについて知っていただく働きかけがあると良い。毎年、発表会の前に手作りのおみこしを担いでご近所を練り歩くとか、継続してできることで、発表会への案内もかねてできると楽しく交流できるのではないかな。
 - ・地域で行われるお祭りや行事に参加する。
 - ・通学路へ出て、清掃や看板を作り、設置する。その際、地域の方に声をかけてみる。
 - ・コロナ禍で案内の難しさはあるが、運動会や学習発表会などのポスターを届けたり、地区の掲示板に貼ったりする。
 - ・町内会報や牛乳パックの回収はどうか。昔のみたけ支援学校奥中山校は牛乳パックを回収した周辺地域に、紙すきで作ったカレンダーを配付した。

【定内地域との交流について】

- ・常に交流する必要はないと思うが、生徒が定内の地域について興味関心、何かしらの思いをもったとき、年1回程度は定内について取り上げてほしいと思った。
- ・定内地区にも、子どもたちが好きだった場所があるが、そこに行っても今の生活に結び付けていくことが難しい
- ・直接の交流は難しいが、以前関わった子どもたちを気にかけてくださっている近隣の方に、現在の学習の様子をまとめたものを掲示板に掲示する等、子どもたちの様子を伝えられるといいのではないかな。

- ② 生徒の理解度の評価について（対象生徒以外の生徒も含めて）
- ・生徒の表情や言動による評価、次時の導入時の反応から評価してはどうか。中学部数学Bグループでは「〇〇がわかったようだ」と判断したら、逆パターンの課題を出して理解度を確認している。長期記憶としての定着は困難だが…（例 複数の硬貨を見せて、「いくらありますか？」→「〇〇円を取ってください」）。
 - ・目的物を探す活動を繰り返し行うことで、学校を歩く際の目印を見つけられたのではないかな。
 - ・発表でまとめたワークシート、準備のためのワークシートで生徒の理解度が読み取れると思った。位置関係を表すことばについても、段階的に指導できたのではと思った。
 - ・校舎で迷ったときに、自分たちで作った地図のことを思い出し、頼りにして見返す姿が見られれば素敵だと思う。
- ③ その他
- ・「～の隣」等の場所の位置関係を表す言葉について、事前にどのくらい理解できているか把握すべきだった（この生単の学習内容が分かるように、普段の学習とリンクさせることが大切だと感じた）。
 - ・今回の学習で生徒には「マークに意味がある」ということを知識として持っていてほしい。修学旅行や万が一の際には、この知識が生きてくる（例 「トイレ」「津波の避難先」）。

1.2 助言

「左右」や「隣」という概念について、どれくらいの理解をしているのか実態把握が大切である。この概念は教科横断的視点とサイクルをもって、意識付けが必要。

「地域住民との交流」については、今年度、校舎移転があつて設定された本単元。チラシのポスティングや公民館祭りへの出品などで、少しずつ、「岩手の復興教育」にもつながるので充実していったほしい。

「理解度の評価」については、理解度というのはペーパーテストでは測れない。「活用に結び付けているか」「活用した動きをしているか」を評価したい。どういった姿がみられるか、という評価基準である。

また、授業を参観した者・検討した者は、「次、自分だったらこうしてみよう」と考えることが重要である。

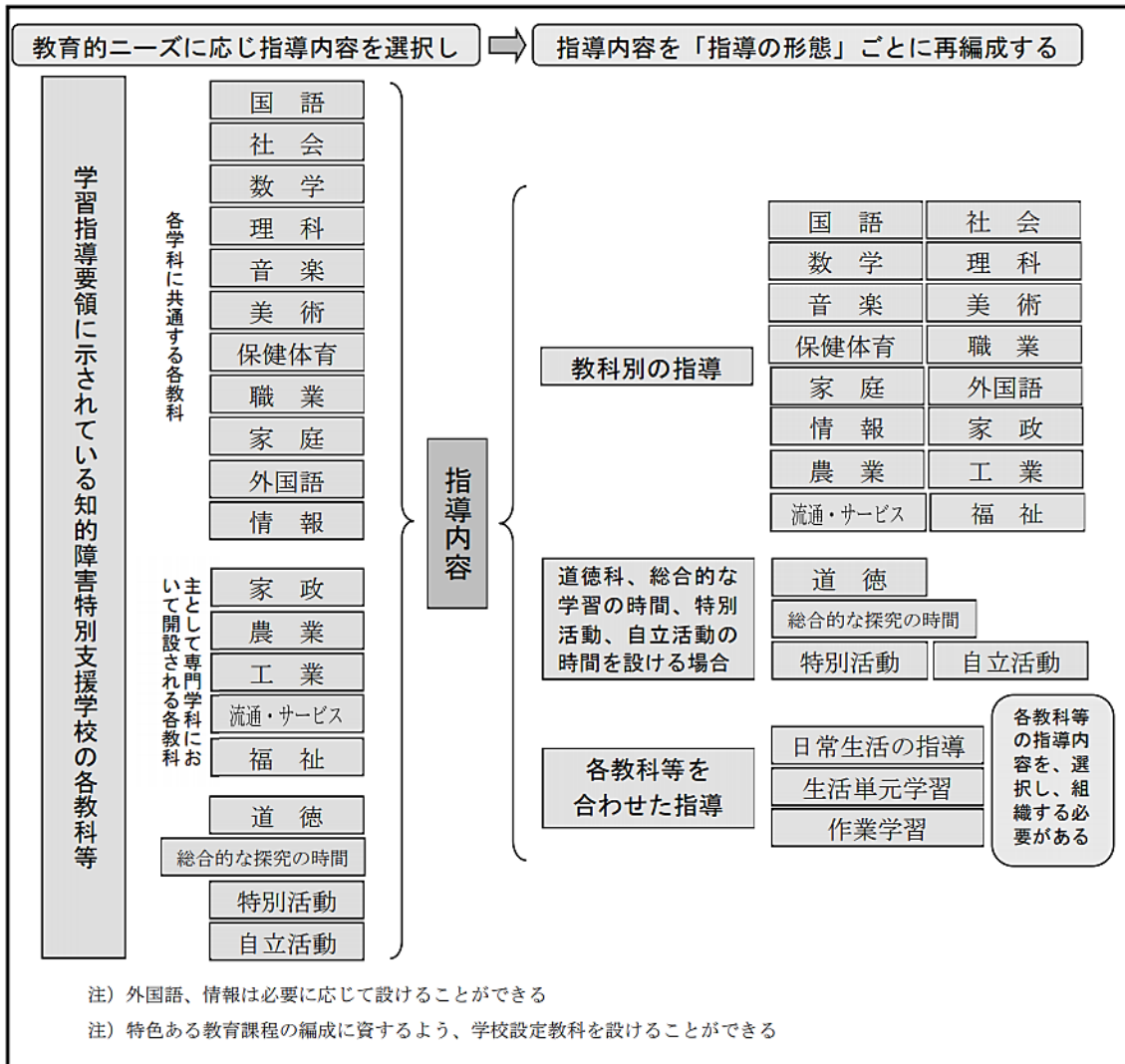
1.3 まとめ

昨年度、各教科についてその他の教科との関連をチェックしたところ、主に社会、理科、職業・家庭の家庭分野、外国語について実施が少ない、または触れていなかったことが明らかになった。そこでその内容を生活単元学習に盛り込んだ単元案を考えた。

今年度は新校舎への移転ということもあり、地理や歴史など改めて地域社会とのつながりを考える良いきっかけとなった。地域の方々や高等部の職員など、挨拶カードを渡す活動も計画に入れることによって新しい出会いのきっかけになった。環境が変わったことによって、地域の安全についても考えることができた。

職業・家庭の家庭分野についても「B衣食住の生活」については日常の生活と関係して取り組みやすいが、「A家族、家庭生活」や「C消費生活・環境」への取り組みについては十分とは言えない。今後も、特に合わせた指導では、教科を意識した授業づくりを行っていきたい。

ウ 高等部



図：教育課程の構造図（高等部）

高	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	職業	家庭	外国語活動・外国語	情報
内容のまとめり（大項目）	聞くこと・話すこと 書くこと 読むこと	ア 社会参加とときまり イ 公共施設の役割と制度 ウ 我が国の国土の自然環境と国民生活 エ 産業と生活 オ 我が国の国土の様子と国民生活、歴史	カ 外国の様子 A 数と計算 B 図形 C 変化と関係 D データの活用	A 生命 B 地球・自然 C 物質・エネルギー	A 表現 B 鑑賞 共通事項	A 表現 B 鑑賞 共通事項	A 体づくり運動 B 器械運動 C 陸上運動 D 水泳運動 E 球技 F 武道 G ダンス H 体育理論 I 保健	A 職業生活 B 情報機器の活用 C 産業現場における実習	A 家族・家庭生活 B 衣食住の生活 C 消費生活・環境	話すこと（「やりとり」） 書くこと 読むこと	A 情報社会の問題解決 B コミュニケーションと情報デザイン C 情報通信ネットワークとデータの活用

図：高等部 各教科の内容のまとめり（大項目）

*知的障がい

(ア) 高等部における「指導形態」の整理と確認 * 知的通常学級

- a 【教科別の指導】で行っている教科
国語、数学、音楽、保健体育
- b 【各教科等を合わせた指導】で行っている主な教科
生活単元学習：社会、理科、美術、職業、家庭、外国語、情報
日常生活の指導：小学部生活、保健体育、特別活動（中学校）
作業学習：職業、家庭（手芸）、美術（紙工、工芸）
- c 【道徳科、総合的な探求の時間、特別活動、自立活動】について
「道徳」 教育活動全体をとおして実施
「総合的な探求の時間」 1単位設定
「特別活動」 HR、委員会活動
「自立活動」 教育活動全体をとおして実施

(イ) R3年度のまとめと課題

- a R3年度の高等部 考察・まとめ

令和3年度 高等部 各教科の内容関連表（高等部段階の内容できているかどうか）

教科・領域名	国語			社会					数学				理科			音楽					美術			保健体育									職業			家庭			外国語			情報			その他		
	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	小学部生活	中学校特別活動					
国語A	○	○	○																																												
国語B	○	○	○																																												
国語C	○	○	△																																												
国語D	○	x	x																																												
数学A										○	○	○	○																																		
数学B										△	△	△	△																																		
数学C										x	x	x	x																																		
数学D										x	x	x	x																																		
音楽																	○	○	○	○	○	○	○	○																							
保健体育																																															
日常生活の指導	○		○																																												
生活単元学習	△	○	△	○	○	○	△	x	x					△	△	△																															
作業学習				○	○	○	△	x	x																																						
特別活動																																															
総合的な学習の時間																																															

- (a) R3年度改善に取り組んだ教科等
 - ・国語、家庭、保健体育、音楽、社会、情報
- (b) 実施できていないまたは弱いと思われる内容（大項目）
 - ・社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、家庭、外国語、情報
- (c) 高等部で求められる学習内容を確実にするための課題
 - ・各教科等の内容やねらいが高等部の学習指導要領に準拠しているか確認する。
 - ・大項目だけでなく小項目についても確認する（例：国語の古文や伝統文化は弱いと言える）
 - ・3年間のいつに（どの学年や時期）、どこで（どの題材で）、なにを（ねらい）するのかを整理する必要がある（国数は縦割りグループで指導している）。
 - ・生徒の実態や施設面で実施が難しい内容は何かを明らかにする。

(ウ) R4年度の年間指導計画の作成に向けて

合わせた指導の内容の整理を進め、生活単元学習の時間の充実を図る。また、特別活動、総合的な学習の時間で行うことも明確にする。作業学習では、知識的な部分や社会との関連についても考える機会を作るようにする。

高等部 生活単元学習 授業検討資料

対 象 高等部 3年2組 8名
主な学習場所 高等部3年2組教室
指導者 及川慧子(T1) 中條広一(T2)

1 単元名

「新校舎を飾って小・中学部を喜ばせよう」

2 内容のまとめ

高等部 社会 ア 社会参加ときまり 1段階(ア)㊦
高等部 国語 A 聞くこと・話すこと 1段階エ
高等部 美術 A 表現 1段階ア(ア)

3 単元の目標

- (1) 年の離れた児童生徒にアンケートを取る活動を通して、相手に伝わるような話し方を考え、実践することができる。(知識・技能)
- (2) 他学部の児童生徒と関わる活動を通して、相手が喜ぶものが何か考えることができる。(思考力・判断力・表現力等)
- (3) 最上級生としての自覚をもち、学校でより良い関係を築きながら生活していくことの大切さについての自覚を養う。(学びに向かう力、人間性)

4 単元について

(1) 生徒について

高等部3年2組は発達段階に大きな差があるが、お互いの良さを理解しており、困っている仲間がいると自分から進んで教えたり、話しかけたりすることができるようになってきている。絵を描くことや、折り紙が得意で、休み時間や生単の時間で楽しみながら取り組んでいる。

生徒Aは、初めての場所や初対面の人と接するとき、緊張で話し始めることが難しいことがある。事前に話す言葉を決め、練習するなど、せりふカードを用いた支援が必要である。新校舎での生活が始まり、小・中学部の児童生徒に会う機会が増え、少しずつ興味をもつようになってきている。

(2) 単元(教材)について

釜石高校内での生活は、自分たちと同じ高校生と廊下ですれ違ったり、釜高祭での製品販売に参加したり、定時制の生徒と作業学習を通して交流したりするものがあり、小学生や中学生と関わる機会はほとんど無かった。学校の最上級生として、自分の好きなことだけではなく、小・中学部の児童生徒のことを考え、どんなことが好きで喜んでくれるのかを自分なりに考え、仲間と意見を出し合いながら、身近な人々と関わっていく態度を養いたいと考える。

(3) 支援について

(知識・技能)

- ・「せりふカード」を用いて、アンケートを取る際に必要なせりふ練習を行う。
- ・集計表を準備し、アンケートの結果を自分たちでまとめられるようにする。
- ・折り紙手順表を準備し、仲間と協力しながら装飾品を作成する手掛かりになるようにする。

(思考・判断・表現)

- ・小・中学部の児童生徒へどうすれば分かりやすくアンケートをとれるか考えられるように「せりふカード」を準備し、仲間と意見を出し合いながら考えられるようにする。
- ・どうすれば相手に分かりやすく説明できるか、教師のヒントのもとに話し合えるようにする。
- ・小・中学部の児童生徒が取り組みやすいアンケート用紙を作るために、教師のヒントのもと話し合えるようにする。(主体的に学習に取り組む態度)

(その他)

- ・校舎が一緒になり、今まで接することが無かった小・中学部の児童生徒の印象について質問し、最上級生として何かできることはないか考えるきっかけとし、活動のイメージをもてるようにする。
- ・活動全体の流れが分かるように、授業の終わりごとに学習内容の確認をする。
- ・実態に応じて、数学で数を数える学習に取り組む。
- ・実態に応じて、国語で簡単なせりふをはっきり話す練習を行う。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①相手に伝わりやすい話し方や声の大きさをアンケートの説明ができる。 ②年齢が離れた相手との適切な関わり方について知ることができる。	①仲間の意見を参考に、相手が喜ぶものが何か考えることができる。 ②相手に分かりやすく説明するためにどうすればよいか、自分の考えを発表する。	①仲間の意見を参考にし、自分の活動に取り入れようとしている。 ②自分から小・中学部の児童生徒に関わろうとしている。

6 指導と評価の計画(18時間)

時	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1 ・ 2 ・ 3	○これまでの制作物について振り返る。 ○アンケートを体験する。 ○小学部の児童が好きなものについて予想し、グループごとに調べて発表する。 ○アンケート用紙を作成する。	・実習の掲示物を例に出し、高等部の生徒が「喜んでいた」ことを伝え、これからの取り組みへの意欲付けをする。 ・教師が主体となって行い、好きなお菓子等について楽しみながら集計結果を知る活動を行い、アンケートへの期待感をもてるようにする。 ・好きなキャラクターや飾り等について考える時間を設定し、iPadで調べるなどして仲間にイラストを用いて発表できるようにする。 ・小学部が使いやすいアンケート用紙にするにはどうすればよいか、例を示す。 ・実態別にグループ編成を行い、アンケート用紙を作成できるようにする。	【知技②】行動観察 【表①】様子観察 【主①】行動観察
4	○せりふカードを作成する。	・相手に分かりやすく伝えるためにどうすればよいか話し合う時間を設定する。 ・せりふの例を示し、イメージしやすいようにする。 ・話し合ったことをせりふカードにまとめられるよう、実態に応じたカードを用意する。	【知技②】行動観察 【表②】行動観察

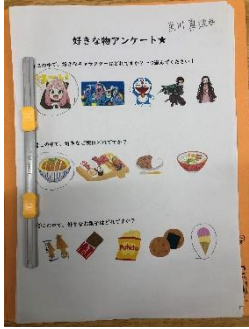

5 ・ 6	○アンケートを行う。 ○アンケートを集計し、結果を発表する。 ○集計結果をもとに、作成するものを決める。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに小学部の教室に行き、せりふカードを手掛かりにしながアンケートの説明ができるようにする。 ・相手に伝わる話し方を意識できるように、必要に応じて言葉がけを行う。 ・アンケート結果が視覚的に理解できるように集計表を使用する。 ・グループごとに、多い順から結果を発表する。 ・アンケート結果をもとに、飾りの作り方や、使う材料を話し合う時間を設定する。 	【知技①】行動観察 【表①】発表
7 ・ 8	○飾りを作成する。 ○パネルに飾り付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・「絵を描く担当」「色塗り担当」など実態に応じた活動内容にする。 ・仲間と協力しながら制作できるように、グループ活動にする。 ・必要に応じて、作り方等のアドバイスをを行う。 ・どのように飾り付ければ喜んでもらえるかを考えられるように言葉がけを行う。 	【表①】行動観察 【主①】行動観察
9	○パネルを南校舎に設置する。 ○学習を振り返り、分かったことや感じたことについて発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・活動中に小学部の児童とすれ違った時には、学習した関わり方を意識して挨拶できるようにする。 ・完成したパネルや、見てくれた人の様子、これまでの学習を振り返り、達成感を味わえるようにする。 	【表②】発表 【主①】行動観察
10 ・ 11 ・ 12	○中学部の生徒が好きな物について予想し、グループごとに調べて発表する。 ○アンケート用紙を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・好きなキャラクターや飾り等について考える時間を設定し、iPadで調べるなどして仲間にイラストを用いて発表できるようにする。 ・進行は生徒が行い、必要に応じて支援を行う。 ・前回作成したアンケート用紙を提示し、これまでの学習を参考にできるようにする。 ・実態別にグループ編成を行い、アンケート用紙を作成できるようにする。 	【知技②】行動観察 【表①】様子観察 【主①】行動観察
13	○せりふカードを作成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・中学部に分かりやすく伝えるためにはどうすればいいか話し合う時間を設定する。 ・進行は生徒が行い、必要に応じてアドバイスする。 ・選択肢をいくつか設け、言葉を自分で考えられるようにする。 	【知技②】行動観察 【表②】行動観察
14 ・ 15	○アンケートを行う。 ○アンケートを集計し、結果を発表する。 ○集計結果をもとに、作成するものを決める。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに中学部の教室に行き、せりふカードを手掛かりにしながアンケートの説明ができるようにする。 ・相手に伝わる話し方を意識できるように、必要に応じて言葉がけを行う。 ・アンケート結果が視覚的に理解できるように集計表を使用する。 ・グループごとに、多い順から結果を発表する。 ・アンケート結果をもとに、飾りの作り方や、使う材料を話し合う時間を設定する。 	【知技①】行動観察 【表①】発表

16 ・ 17	○飾りを作成する。 ○パネルに飾り付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・「絵を描く担当」「色塗り担当」など実態に応じた活動内容にする。 ・仲間と協力しながら制作できるように、グループ活動にする。 ・必要に応じて、作り方等のアドバイスをを行う。 ・どのように飾り付ければ喜んでもらえるかを考えられるように言葉がけを行う。 	【表①】 行動観察 【主①】 行動観察
18	○パネルを南校舎に設置する。 ○学習を振り返り、分かったことや感じたことについて発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・活動中に小学部の児童とすれ違った時には、学習した関わり方を意識して挨拶できるようにする。 ・完成したパネルや、見てくれた人の様子、これまでの学習を振り返り、達成感を味わえるようにする。 	【表②】 発表 【主①】 行動観察

7 題材に関する児童（生徒）の実態と手だて

生徒	実 態			手だて
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的学習取組態度	
A の 生	<ul style="list-style-type: none"> ・決められたせりふであれば、一人で話すことができる。 ・選択肢があれば、一人で文章を作成できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考する時間や、選択肢があれば、自分の考えを発表することができる。 ・経験したことがある内容について、自分の言葉で表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの友達の発言内容を聞いたり、行動をよく見たりして、自分の活動に生かすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選択肢を提示しながら、せりふを考えたり、自分の考えを発表したりする場面を設定する。 ・小中学部と関わることができるように、友達と一緒にせりふ練習を行う。

8 使用教材について

アンケート体験用紙	アンケート用紙（小学部用）	アンケート用紙（中学部用）
		
進行表	せりふカード（小学部用）	せりふカード（中学部用）
		

9 実践報告

(1) 授業者から

生徒自身から「こんなことをしてみたらどうか?」「こうやって話せば分かりやすいんじゃないか?」など、意見がたくさん出た。年の離れた小学部の児童がどのようなものが好きなのかを考えると、iPadでランキングを検索したり、自分の好きなものと照らし合わせ、仲間の意見を参考にしたりしてグループワークに取り組んでいた。

小学部へのアンケートや作品作りを行い、その後同様の流れで中学部への取り組みを行ったことで、見通しをもつとともに、自分たちで工夫しながら活動していた。また、年の離れた相手とどのように話せばよいか、それぞれが考える姿も見られ、最上級生として優しく笑顔で接しようとする様子が見られた。





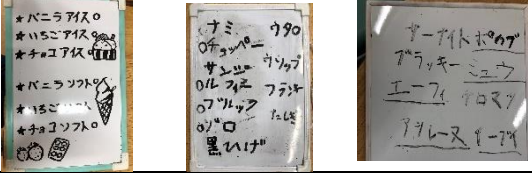




Aは、普段の活動では見ることができないほど積極的に発言しており、小学部や中学部の児童生徒を「喜ばせたい」という姿勢が見られた。せりふカードを準備し、仲間と一緒に考えたことで、アンケートの場面や、飾り設置のお知らせ場面で、緊張しながらも自信をもって話することができていた。

飾りを設置したのはいいが、実際に児童の反応を見ることができなかった。小学部職員に写真を撮影してもらい、振り返りで使用したが、実際の様子を見ることができればさらに良かったと感じた。

今回は、校舎移転で普段関わりのなかった児童生徒への接し方について学んだが、地域とのつながりとしてどのようなことができるのか、考えていきたい。

(2) 指導の経過

時	学習内容	学習の様子
1	○これまでの制作物について振り返る	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが作った掲示物で、高等部の生徒や職員がとても喜んでいてことを知り、「嬉しい」や「作ってよかった」などと話し、もっと誰かを喜ばせたいという気持ちが芽生えた。 誰を喜ばせるか話し合い、「先生」や「同じ校舎になったから、小学部とか?」「中学部もいいね!」など生徒からたくさん意見が出された。
2 3	○アンケートを体験する ○小学部の児童が好きなものについて予想し、グループごとに調べて発表する  ○アンケート用紙を作成する	<ul style="list-style-type: none"> 体験の中で自分の好きな絵や、興味が湧くような写真を見て、楽しそうに取り組んでいた。 初めは自分の好きな物ばかり調べ、楽しんでいる生徒もいたが、「小学部の子どもだったら何が好きか」ということを考えるように伝えると、少しずつグループ内で話し合いが始まり、小学部の児童を意識したキャラクターや食べ物の候補を選ぶことができていた。 「絵を丸で囲むアンケートがいい」という意見にまとまり、グループごと協力してアンケートを作成した。 
4	○せりふカードを作成する。	<ul style="list-style-type: none"> せりふの例や小学部指導の写真を示したことで、相手のことを想像しながらせりふを考えることができた。 「笑顔」「優しく」「大きな声」など児童と接する上で気を付けることの意味も出された。
5 6	○アンケートを行う。  ○アンケートを集計し、結果を発表する。 ○集計結果をもとに、作成するものを決める。	<ul style="list-style-type: none"> 緊張しながらも初対面の児童に対して、指を差してイラストと一緒に確認してアンケートを行っていた。 アンケート用紙をグループごとに集計し、合計を発表することができた。 

<p>7 8</p>	<p>○飾りを作成する。</p>  <p>○パネルに飾り付ける。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・「絵を描く」「折り紙」「色塗り」などそれぞれの得意なことを生かして作成できるように、グループで話し合い分担しながら飾り作りをすることができていた。 ・作り方は iPad で検索し、難しい部分はグループで教え合いながら作成していた。 
<p>9</p>	<p>○パネルを南校舎に設置する。 ○学習を振り返り、分かったことや感じたことについて発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昼休み中で、児童と一緒にパネルを見ることができなかった。後日、小学部職員が撮影した児童がパネルを見ている写真を、エピソードを交えながら生徒に見せた。「喜んでくれるね」など作って良かったという感想が多数あった。
<p>10 11 12</p>	<p>○中学部の生徒が好きな物について予想し、グループごとに調べて発表する。</p>  <p>○アンケート用紙を作成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの流れを確認し、生徒が進行役となりアンケートの内容を話し合った。進行表にせりふを示しておくことで、楽しみながら安心して取り組むことができていた。 ・前回の活動を生かして、「こんなの見つけたけどどう？」などグループで意見を出し合いながら決めることができていた。 
<p>13</p>	<p>○せりふカードを作成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・用件や終わりの挨拶など簡単な例を示しながら、どのようなせりふだと分かりやすいか話し合って作成した。
<p>14 15</p>	<p>○アンケートを行う。 ○アンケートを集計し、結果を発表する。 ○集計結果をもとに、作成するものを決める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の関係で直接アンケートを行うことができなかったが、中学部の各教室に配布し、高等部へ提出しに来てもらうことで交流を図りながらアンケートを行うことができた。
<p>16 17</p>	<p>○飾りを作成する。 ○パネルに飾り付ける。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・集計結果をもとに、飾りを作成した。 ・前回の学習を生かして、作成方法を iPad を使って調べたり、教え合いながら活動していた。 
<p>18</p>	<p>○パネルを南校舎に設置する。</p>  <p>○学習を振り返り、分かったことや感じたことについて発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教室を回り、パネルを設置したことを知らせた。 ・中学部の生徒をパネルまで案内し、一緒に鑑賞した。好きな物を指さして教えてくれる生徒がおり、「私が作りました」と話し、自分から関わろうとしていた。  <ul style="list-style-type: none"> ・実際に中学部の生徒が喜んでくれている様子を見ることができ、「喜んでくれた」「作って良かった」など達成感を味わうことができた。

10 評価について

生徒	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A の 生	①決められたせりふを話すことで、自分で話し方を工夫して説明できた。 ②優しい言葉で話したり、笑顔で接したりすることをみんなで話し合い、知ることができた。	①「〇〇さんは、何がいいと思う？」と仲間の意見を参考にしながら、相手が喜ぶものを考えることができた。 ②「小学部へのアンケートは平仮名で書いた方がいい」と意見を話すことができた。	①飾りの作成方法について、仲間の意見を聞き、「私はこれを折り紙で作ります」など、意見を取り入れることができた。 ②「こんにちは」の挨拶と、決められたせりふのみだったが、用紙を分かりやすく提示したり、大きな声で読み上げたりして相手のことを考えて取り組むことができた。

11 協議したいこと(協議の柱)

○地域の社会生活に関わる活動について (各学部の発達段階での学習のアイデア)

小学部段階では地域の施設を知り、中学部段階では地域の施設や人との関わりを広げ、高等部段階では奉仕活動等目的を理解して地域との関りをもってはどうかという意見が出された。学校全体の活動としては、地域の施設(老人ホーム等)の方と一緒に遊んだり、何かを作ったりする機会を設けてはどうかという意見が出された。また、校内の活動として、新年度に学部を越えて楽しみながら名刺交換をすることや、地域のごみ拾い等のボランティア活動をするのもいいのではないかとする意見も出された。

○助言

- ・地域との関わりは、人を喜ばせたいという気持ちになる。
- ・地域との関わりは各学部でそれぞれ異なる。小学部では、地域探検などを通して自分たちが暮らしている地域を知り、住民に自分たちのことも知ってもらう。その活動が、本校の事を知ってもらうきっかけになる。中学部では、交流会などを通して人との関わりを伸ばす。高等部では、通学途中に地域の人やバスの運転手に自分から挨拶をしたり、ごみ拾い等のボランティア活動で地域に貢献することで、自己肯定感へとつながるのではないかと。
- ・授業は笑顔があり落ち着いた表情で楽しそうに取り組んでいた。いい雰囲気であり、一人一人が意見を出して活動することができていた。
- ・一時間ごとに生徒に身についたことをフィードバックすると良い。身についたことが今後の生活に生かすことができるような指導を今後も続けてほしい。

○まとめと考察

高等部の生活単元学習は週3単位時間の設定であるが、行事の事前事後の学習も多くあり、生徒の生活に結びついた学習の単元を設定できる機会があまり取れていないのが現状である。そのため、単元は単発になりがちで、まとまった単元として授業を計画するのが難しいという課題があった。

今回の研究で、題材配列表を作成したり、合わせた指導の教科との一覧表を作成したりする中で、行事や他の教科との関連について改めて職員全員で確認を行った。すると、生活単元学習で社会科や理科と関連付けられているものが少ないことが明らかになった。そのため、今年度は社会科との関連性を意識した題材を、約1か月の長期での授業として計画を立てて実践を行った。長い設定にしたことで生徒は見通しをもって学習に取り組むことができた。また、授業検討会では多くの意見や助言をいただき、今後の取り組みとして公民館の窓ふきなどで地域と関わり、地域貢献できる可能性を感じることができた。

高等部は国語・数学や、作業でそれぞれのグループに分かれて学習しており、そのグループごとに取り扱う内容が異なっているが、行事や他の教科との関連性を確認したことで、今後は教科とのつながりを意識しながら単元の計画を立てられるのではないかと考えている。そのように教科横断的な視点をもちながら計画をたてて指導していくことで、社会へ巣立っていく生徒に必要な学びをこれからの生活に繋がるよう指導していきたい。

エ 分教室（自立活動を主とした教育課程）

【自立活動の目標】

個々の児童又は生徒が自立*1を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達^{＊2}の基盤^{＊2}を培う。

*1 ここでの「自立」とは、児童生徒がそれぞれの障がいの状態や発達の段階などに応じて、主体的に自己の力を可能な限り発揮し、より良く生きようとする事

*2 「調和的発達の基盤を培う」とは、一人一人の子どもの発達の遅れや不均衡を改善したり、発達の進んでいる側面を更に伸ばすことによって遅れている側面の発達を促すようにしたりして、全人的な発達を促進すること

【内容】 6区分 27項目（人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素と、障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な要素で構成）

1 健康の保持	2 心理的な安定
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。 (2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事。 (3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事。 (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事。 (5) 健康状態の維持・改善に関する事	(1) 情緒の安定に関する事。 (2) 状況の理解と変化への対応に関する事。 (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。
3 人間関係の形成	4 環境の把握
(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事。 (2) 他者の意図や感情の理解に関する事。 (3) 自己の理解と行動の調整に関する事。 (4) 集団への参加の基礎に関する事。	(1) 保有する感覚の活用に関する事。 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事。 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事。 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。
5 身体の動き	6 コミュニケーション
(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。 (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事。 (3) 日常生活に必要な基本動作に関する事。 (4) 身体の移動能力に関する事。 (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事。 (2) 言語の受容と表出に関する事。 (3) 言語の形成と活用に関する事。 (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。 (5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事。

【自立活動を主とした教育課程】

重複障害者のうち、障害の状態により特に必要がある場合には、各教科、道徳科、外国語活動若しくは特別活動の目標及び内容に関する事項の一部又は各教科、外国語活動若しくは総合的な学習の時間に替えて、自立活動を主として指導を行うことができるものとする。（学習指導要領より）

*道徳科及び特別活動については、その目標及び内容の全部を替えることができないことに留意。

*総則編に「第8節重複障害者等に関する教育課程の取扱い」を適用する際の基本的な考え方が示されている。本規定を適用する場合、障害が重複している、あるいはそれらの障害が重度であるという理由だけで、各教科等の目標や内容を取り扱うことを全く検討しないまま、安易に自立活動を主として指導を行うことのないように留意しなければならない」と明記されている。

【自立活動として授業を行う場合の留意点】

- ・全人的な発達を促すために必要な基本的な指導内容を、個々の児童又は生徒の実態に応じて設定し、系統的な指導が展開できるようにするものとする。
 - 調和のとれた育成を目指すように努める。
 - 一人一人に応じた題材や目標が必要。（年間指導計画も一人一人違う）
 - 教科の下支えとしての役割がある。（教科学習につながっていくもの、教科学習のもと）
 - 27項目全て行うのではなく、その児童生徒に必要な項目をピックアップして行う。
 - 基本的には複数の項目を関連づけて行う。また、教科等との関連も考慮する。
 - 指導案を作成する際は、教科の内容だけにならないようにする。
 - 生活に密接した児童生徒の生活を豊かにするための題材、目標になるようにする。
 - 生活年齢やライフステージも意識した題材や内容にする。
 - 生活への意欲や前向きな気持ち、人やものと関わろうとする態度を育成することで生活を豊かにすることにつなげる。
 - 教科的な内容を取り扱う場合には、知識・技能を身につけるというよりは、主体的に学習に取り組もうとする態度を育成することの方に力点を置く。
 - 児童生徒の今まで経験してきた内容や興味・関心のあることを生かした題材を設定する。
 - 3年間の成長を見とおして、系統的・発展的な内容になるよう工夫する。

【R3年度のまとめ】

題材配列表を作成し、分教室の集団学習（自立活動）において、教科等との関連についての実施状況について確認した。

その結果、自立活動の6領域を中心とした学習ではあるが、教科との関連がないわけではなく、国語や音楽などの教科も関連した学習を少なからず行っていることが明らかになった。一方、障がいの状況やコロナ対策などの状況もあり、体育的な内容や家庭科的な内容など取り組むことが難しい内容も明確になった。

分教室「自立活動」授業検討資料

対 象 高等部 1年 1名
 主な学習場所 分教室学習室1・2
 指導者 (T1)野田泰弘(T2)太田綾
 (T3)松本彩織(T4)真壁吾郎

1 単元名

「様々な刺激を楽しもう」

2 内容のまとめ

心理的な安定 (1) 情緒の安定に関すること
 人間関係の形成 (1) 他者とのかかわりの基礎に関すること
 環境の把握 (1) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること

3 単元の目標

- (1) 様々な刺激に対して、不安なく学習活動を行い、心地よい感覚を味わうことができる。
- (2) 教師や仲間と関わりながら、同じ感覚を共有することができる。
- (3) 好きな活動を選んだり、興味のある活動に参加したりすることができる。

4 単元について

(1) 生徒について

本生徒は知的障害、小脳萎縮による両上下肢機能障害を持ち、車いすで生活している。病棟ではチラシを見たり、音楽を聞いたりして過ごしている。

初めての活動や見通しがもてない活動に不安感や拒否感を示すが、楽しさを体感すると自分から活動に取り組む。

集団学習に参加することができるが、周りの大きな声や音が苦手で、不快感を示すことがある。

絵や写真を見ることが好きで「これは？」と教師に聞いたり、「〇〇さんお願いします」と仲間に声を掛けたりすることができる。

好きな歌手の名前や曲名を話したり、歌ったりすることができ、興味のある分野の知識がある。

(2) 単元について

この単元は、様々な刺激を受けることができ、自分が好む感覚を見つけたり、落ち着いた空間の中でリラックスしたりすることができる。

様々な刺激を仲間と一緒に体験することができ、楽しさや心地よさを共有することができる。

本単元の学習をとおして、好きな感覚を見つけたり、選んだりすることで日常生活の幅を広げたり、充実させたりすることができると思う。

(3) 支援について (指導上の留意点)

(情緒の安定に関すること)

- ・見通しがもてるように学習内容を実際に示し、仲間が取り組む様子が見られるようにする。
- ・楽しさや期待感がもてるように教材や教具を工夫する。
- ・学習に不安がある場合は参加方法を本人に確認し、無理なく学習を行えるように配慮する。

(他者との関わりの基礎に関すること)

- ・活動中に仲間との関わりがもてるように教師から働きかけをする。
- ・「楽しいですね」「心地よいですね」等の言葉掛けをして教師や仲間と感覚を共有する。
(感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること)
- ・体験した刺激の快、不快を質問したり、体験した刺激の中から好きな刺激が選べるような場を設定したりする。
- ・抵抗感のある刺激や活動に対して少しずつ受け入れたり、慣れたりすることができるように、参加の方法を工夫する。

5 単元の評価規準

情緒の安定に関すること	他者との関わりに関する基礎に関する	感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること
①様々な刺激を体験し、心地よい感覚を味わうことができている。 ②不安のある活動には、参加方法を自分で選択して、参加することができる。	①教師や仲間と一緒に楽しさや心地よさ感じ、表情や言葉で伝えることができる。	①快、不快を教師に伝えることができている。 ②好きな刺激を選択して活動することができる。

6 指導と評価の計画（6時間）

時	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1	○様々な光と音、揺れを体験する。 ○様々な香りを嗅ぐ。	・暗くなることや音が鳴ることを事前に伝える。 ・見通しがもてるように、香りの種類を写真で紹介する。	【情①②】行動の観察 【感①】発言や行動の確認
2	○足湯やホットタオルを使って温かさを感じる。 ○動物や自然等の映像を鑑賞する。	・安心して活動できるように、お湯の温度を手などで感じさせ、徐々にお湯に浸かる。 ・温泉に関する曲を流し、楽しい雰囲気で行う。 ・興味のある映像を用意する。	【情①②】行動の観察 【感①】発言や行動の確認
3	○パラバルーンを体験する。	・パラバルーンのやり方を実際に示す。 ・好きな曲を流し、楽しい雰囲気で行う。	【情①②】行動の観察 【他①】発言や行動の観察 【感①】発言や行動の確認
4	○アフタヌーンティーを体験する。	・アフタヌーンティーについて写真やイラストを使って説明する。 ・ティーカップやお菓子を用意し、優雅な雰囲気で行う。	【情①②】行動の観察 【感①】発言や行動の確認
5	○体験した刺激の中から選んで活動する ①	・もう一度体験したい刺激を選べるように、写真や実物を提示する。	【情①】行動の観察 【感②】行動の確認
6	○体験した刺激の中から選んで活動する ②	・もう一度体験したい刺激を選べるように、写真や実物を提示する。	【情①】行動の観察 【感②】行動の確認

7 単元に関する生徒の実態と手だて

生徒	実態			手だて
	情緒の安寧に関すること	他者との関わり基礎に関すること	感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること	
A	<ul style="list-style-type: none"> 好きな歌手の歌を聴いたり歌ったりすることで満足感を感じることができる。 好きなものを取り入れた活動や興味のある活動は参加しようとする。 映像や展示物等をじっくりと鑑賞したり、教師の話真剣に聞いたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 仲間の名前を覚えたり、「〇〇さんお願いします」と話したりすることができる。 仲間を心配したり、気遣ったりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 不安や不快を感じると「嫌だ」と言ったり、首を横に振ったりする。 不安や見通しがもてない活動に対して、「やらない」と言うことがあるが、仲間が楽しむ様子を見たり、活動の方法を理解したりすると参加することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 期待感をもって学習に臨むことができるように、事前学習で興味を喚起する工夫をする。 見通しがもてるように、活動内容を実際に提示し、仲間が取り組む様子を見られるようにする。 楽しさや心地よさを教師から言葉掛けしたり、仲間話す場を設定したりする。 不安感や不快感があるときは、参加の方法を確認する。

8 使用教材について



光：イルミネーショングッズ、ジュピター、ミルキーウェイ、ミラーボール、MaBee等



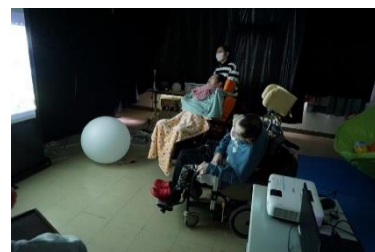
香り：アロマオイル、カーフレグランス、コーヒー豆等



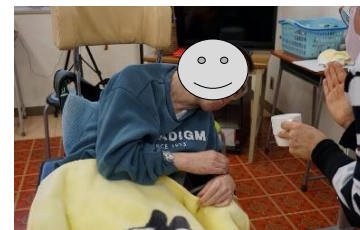
足湯



パラバレーン



映像鑑賞



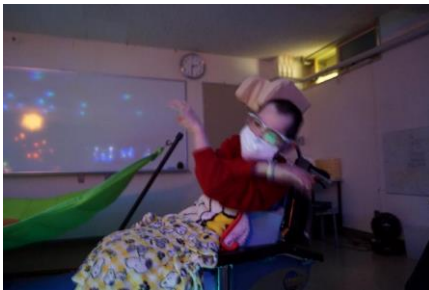
アフタヌーンティー：紅茶、スイーツ等

9 実践報告

(1) 授業者から（生徒の様子）

以前は気に入らないことがあれば「いやだ」「やらない」「バッテン」と怒鳴ることが多かったが、最近は愚痴を話してくれたり、好きなお菓子の話題にのってくれたりして、一緒に活動ができるようになってきている。しかし、普段の学習の流れと異なったために不安になったのか、本単元が始まると腕でバッテンを作ることが多くなった。特に上から落ちてくるように見えるバルーンやホットタオルなど自分に直接触れるようなものを拒否する様子が見られた。一方で、香りを受け入れたり、動画を観て「海だ」と言ったりして、自分に直接触れない刺激は受け入れ、観客となって参加しているようだった。様々な活動を通して、彼との信頼関係が少し深まり、良いところがいろいろと見えてきている。

(2) 指導の経過



①光・音・揺れ

授業の様子：抵抗感なく、参加することができた。クリスマスツリーのトップスターのライトを「タイヤみたい」と話した。光にあまり興味を示さなかった。揺れは実施しなかった。



②香り

授業の様子：抵抗感なく、意欲的に参加することができた。アロマの瓶を「薬」と話した。何の香りかわかると、ココナッツの香りは「おいしいにおい」、バニラの香りは「クリームパン」と話した。



③足湯

授業の様子：本人が好きなドリフターズの「いい湯だな」の音楽を聴きながら取り組んだ。他の生徒の活動の様子を見る機会を設けたが、不安感が強く、足湯には取り組まなかった。ホットタオルも拒否した。



④映像鑑賞

授業の様子：真剣な表情で集中して鑑賞していた。日本の野鳥や風景の映像を見て、「山、海を見た」と話した。



⑤パラバレーン

授業の様子：初めての活動だった。やり方を実際に見てから取り組んだ。1回目に好きな曲を聴きながら取り組んでいたが、途中から「嫌だ」と話した。2回目は外から仲間が活動している様子を見学した。3回目に参加するか尋ねると「やる」と答え、3回目は参加することができた。



⑥アフタヌーンティー

授業の様子：事前学習では、カップを見て「コーヒー」「お茶」と話した。真剣に話を聞く様子があり、期待感をもっているようだった。紅茶が注がれる様子を注目して見ていたが、「いい」と話し、味見することはしなかった。



⑦選択(香り、光)

授業の様子：香りでは、コーヒーの香りを楽しんだ。コーヒー豆をミルで挽き、豆から粉になる様子を見たり、引きたての香りを嗅いだりした。最初は「えっ」という表情で顔を背けたが、二回目にじっくりと嗅いだ時は「いい匂いだ。」「これ持って帰る。」と話し、気に入った様子だった。

光では、タブレットを使って光を操作することを説明すると少し興味がある様子だった。教師と一緒に音声で光を操作することができた。

10 評価について

・情緒の安定に関すること

様々な刺激に対し、受け入れたものもあれば拒否したものもあった。「やらない」と言った活動も自分で選択して、見学することができた。

・他者との関わりの基礎に関すること

ツリーのトップスターのライトを見て「タイヤ」と表現したり、映像に出てきた景色を教師や仲間に話したりすることができた。

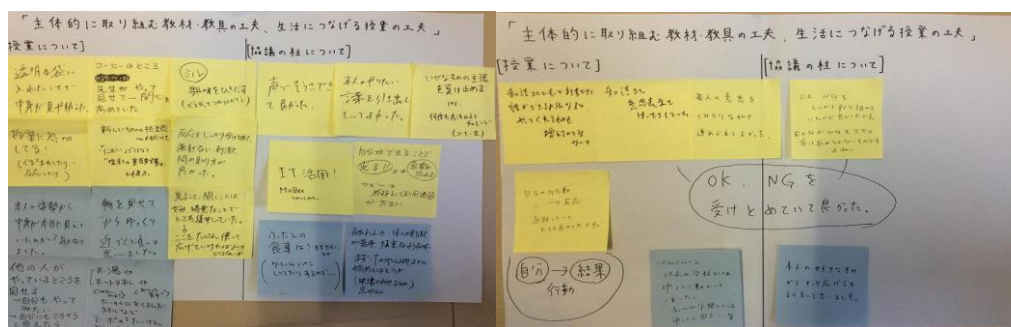
・感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること

様々な刺激に対して、快、不快を言葉や身振りで教師に伝えることができた。また好きな刺激を選択し、香りの活動をもう一度行った。その活動の中で「いい匂いだ」と教師に伝えることができた。

11 協議したいこと(協議の柱)

○主体的に取り組む教材・教具の工夫、生活につながる授業の工夫

- ・ コーヒーミルを使った学習場面では、教師が手本を見せたり、実際にハンドルを回したりと生徒の興味関心を引き出すことができていて良かった。
- ・ ITを活用することで、自分の行動による結果・反応が直結するので良かった。教材としての利用価値が大きい。
- ・ 生徒の得意なことを活動に取り組むことで、とても集中していた。
- ・ 新しいものへの拒否感や生徒本人の意思をしっかりと受け入れて学習を進めていて良かった。
- ・ 生徒本人が拒否感を示す活動については普段経験している生活行為から少しずつ変化させていたり、仲間の取り組む様子や教師が楽しむ様子を見せたりしながら自分もやってみたいと思えるような工夫もあると更に良いのではないかな。
- ・ 同時に行う刺激の数が多いと、どの刺激に反応しているのかわからなくなってしまいうので、刺激の数を絞って取り組んだ方がよい。



12 助言 (柿崎 園美教諭)

- ・ 自立活動の内容は以前よりも細分化されている。6区分27項目のそれぞれの内容が何を表しているのか(何が求められていて何をしなくてはいけないか)を知っておく必要がある。内容を理解することで授業の組み立てにつながる。自立活動の内容から、その生徒に何が必要なのかを選ぶことができるのは教師であるという理解を、指導にあたるのが大切である。
- ・ 生徒本人の「快」を見つけ、「不快」を受けとめる。不快を取り除くことで、安心感が生まれ、教師と生徒との信頼関係が結ばれていく。必要がある場合は、「不快」を全て排除するのではなく、「取り組む→不快感を示したらやめる→また取り組む→不快感を示したらやめる」を少しずつ、繰り返し、積み重ねていくことで、できるようになっていく。また「快」「不快」を理解することで、生活に生かすことができる。学校から病棟のスタッフにその情報を共有することで、生活の場である病棟でも生かすことができ、病棟スタッフと生徒間の信頼関係にも影響していく。生徒とじっくりと関わることができるのは学校の強みであるから、生徒理解を深め、取り組んでいくのが大切である。

13 考察

1年次目の研究では自立活動(集団学習)と各教科の関連について、実施状況の確認と改善を図った。関連している教科、関連していない教科が明らかになったが、全ての教科を関連づけることや教科を意識しすぎることで、自立活動の目標がかすんでしまう恐れがある。生徒一人一人の実態に応じた題材や目標設定が必要であるため、取り扱っていない教科を関連させることが難しい。2年次目は無理に関連づけるのではなく、生徒の課題や目標に合わせた授業作りを中心として考えた上で、関連する教科に触れていくこととした。

授業実践では、主体的に取り組むための教材、教具の工夫、生活につながる授業の工夫をテーマに取り組んだ。生徒の「快」「不快」を受け止めながら、生徒の興味関心を高める工夫をすることができた。生徒の学習状況等の情報を病棟スタッフと共有することで病棟での生活にも

生かしていくことができる。今後も情報共有を密に行なっていくことが重要である。自立活動の目標の達成を目指した授業を考えていく中で、関連する教科を取り入れていくことが、生徒の興味関心や知見を広げることにつながった。生徒の実態に応じて柔軟に題材や関連する教科を考えていくことが今後も必要である。

(4) 各研究グループ（学部）の実践のまとめ

- 教務部（各学部長）と連携して進めることで、本校の合わせた指導の内容の整理や理解を進めることができた。
- 教務部（各学部長）と連携して進めることで、「学習指導要領目標・段階内容表」を活用して年間指導計画を作成することができた。また、次年度に向けて、より整理した年間指導計画の様式案について検討することができた。
- 次年度から年間指導計画の作成にあたって、次年度からは題材配列表や合わせた指導の教科との関連一覧表を作成することによって、教科間や時系列のつながりを意識した計画を立てることができる見通しができた。
- 今回の研究では学部別の主題は設けなかったが、各学部でそれぞれの段階における「合わせた指導」の課題について整理することができ、新単元を考えて実施することができた。
- 自分が所属する学部以外の合わせた指導の様子や内容について理解を進めることができた。
- 小学部では、コロナで実施が完結はしなかったが、同じ「祭り」というテーマで小学部低学団と高学団での学びのつながりを意識した単元を行うことができた。
- 中学部では、校舎移転を機会に地域社会とのつながりも意識した単元を行うことができた。
- 高等部では、題材配列表で教科間や時系列のつながりを職員全員で確認したり、教科との関連について確認することができた。
- 分教室では、自立活動を主とした教育課程の特徴や留意点について整理し、授業検討会では活発な意見交換を行うことができてよかった。
- 該当学部の1段階の内容であっても実施が難しい児童生徒への単元や題材の工夫や授業作りをどのようにすればよいか。また実態差の大きい児童生徒の集団の授業の目標設定については課題が残る。
- 今回は学部ごとのグループで研究を行っていったが、知的障がいの教育課程に関しての研究が中心であった。自立活動中心の生徒の多い分教室グループのメンバーを中心として、自立活動中心の教育課程に関わる職員でグループを編成し、自立活動の年間計画や指導案の書き方、目標の設定や評価のことについて研究を進めれば良かった。
- 新様式の年間指導計画作成の時間の確保やチェック体制（教務部、学部長）
- 年間指導計画と個別の指導計画、評価のつながりを確実にするための体制づくり（教務）
- 各教科等の年間指導計画に特別活動、総合的な学習（探求）の時間、道徳をどの程度入れていくか。
- 各全体計画との関連や見直し（食育、安全、道徳、キャリアなど）をどのように進めるか。
- 新単元や新題材の授業への対応（教材作成、時間や場の確保、地域との連携）
- 学年間や学団の各教科等のつながりの確認をどうするか。
- 各学部間の各教科等のつながりの確認をどうするか。

4 授業見学期間の取り組み

(1) 実施概要

ア ねらい

- ・授業見学をとおして、お互いを知る。
- ・授業見学をとおして、相互の情報を共有し、連携を図る。

イ 実施期間

11月28日(月)～12月16日(金)

※実際はコロナ感染拡大防止のため12月5日(月)～12月16日(金)に変更。

ウ 実施方法

- (ア) 各学部に依頼し、週案を作成する。
- (イ) 週案を前の週の末日までにデスクネットネオに載せ、見学を呼びかける。
- (ウ) 職員は希望する授業を適宜見学する。
 - ※時間割、補充体制を組む必要がある場合は、各々が学部教務に調整を申し出る。
 - ※公開しない日・時間帯・学級については、各学部で検討する。
 - ※分教室の授業の様子は、映像(DISK1で共有)にて参観する。
- (エ) 参観した職員は「授業見学期間アンケート」「授業参観シート」を各職員室の提出袋に提出する。集計はデータ化し、後日、各学部に還元する。

(2) 授業見学期間アンケート結果

<令和3年度 授業見学期間アンケート結果>

回答人数36人

1 実施期間について

- ・ちょうどよかった (小14人) (中5人) (高8人) (分3人) 計30人
- ・長かった (小1人) (中0人) (高0人) (分0人) 計1人
- ・短かった (小0人) (中0人) (高0人) (分0人) 計0人
- ・別の時期が良かった (小0人) (中1人) (高0人) (分0人) 計1人
 <中高の実習期間>
- ・その他 (小0人) (中0人) (高1人) (分0人) 計1人
 <赴任したばかりでわからない、2週間はあってよい>

2 実施方法(実施計画、デスクネット呼びかけ等)について

- ・分かりやすかった (小15人) (中5人) (高7人) (分3人) 計30人
- ・分かりにくかった (小0人) (中0人) (高0人) (分0人) 計0人
- ・その他 (小1人) (中1人) (高0人) (分0人) 計0人
 <1階、2階の廊下に時間割が貼られているとよい。参観のハードルが低くなる。
 用紙がたくさんありどれを使うか悩んだ>

3 授業見学について

① 授業見学をしましたか？

- ・した (小 15 人) (中 3 人) (高 6 人) (分 3 人) 計 27 人
- ・しない (小 1 人) (中 3 人) (高 4 人) (分 0 人) 計 8 人

② どの学部を何回程度見学できましたか？

※①で「した」と答えた方のみ回答 のべ回数

(小学部を見学した：小 9 回、中 3 回、高 6 回、分 3 回)	計 20 回
(中学部を見学した：小 10 回、中 0 回、高 6 回、分 2 回)	計 18 回
(高等部を見学した：小 11 回、中 2 回、高 3 回、分 1 回)	計 17 回
(分教室を見学した：小 1 回、中 0 回、高 1 回、分 0 回)	計 2 回

③ 次回の実施にはどの学部を見学したいですか？(複数回答可)

- ・小学部を見学したい (小 2 人、中 1 人、高 6 人、分 0 人) 計 9 人
- ・中学部を見学したい (小 6 人、中 0 人、高 6 人、分 1 人) 計 13 人
- ・高等部を見学したい (小 8 人、中 4 人、高 1 人、分 2 人) 計 15 人
- ・分教室を見学したい (小 5 人、中 3 人、高 1 人、分 0 人) 計 9 人

4 次回に向けての要望、その他何かありましたら記述をお願いします。

- ・集団での授業は、教室にお邪魔しやすく見学しやすかったです(小)。
- ・高等部の時間割にも小中と同様に場所が書いてあるとありがたいです(小)。
- ・普段、他学部の授業を見る機会はなかなかないので、勉強になりました。ありがとうございました(小)。
- ・続けてほしいです！(小)
- ・紙の掲示がすぐ見れて良かったです(中)。
- ・授業一覧が職員室に貼ってあり、その場に参観シートがあったので、いちいちデータや紙を探さなくてよく、パッと確認し見学できました(中)。
- ・次の学部を見学して目指す姿を確認できる良い機会となりました(中)。
- ・同じ学部の見学も可能だと、あとで気が付きました(中)。
- ・時間を作る努力をし、ぜひ授業を見学したいです(高)。
- ・せっかくの計画でしたが、空き時間があっても優先すべき業務が重なり、見学しませんでした。画像で授業の様子を確認しようと思います(高)。
- ・また、このような機会を設定していただきたい。授業で空き時間を作ってもらえると、じっくり見学できたと思う(高)。
- ・なかなか補充が多くて時間が取れなかった(高)。
- ・期間としての設定は取り組みとしてステキでした。見に行くハードルが低くてありがたい取り組みです(高)。

(3) 授業参観シートの意見や感想(一部)

<小学部への意見や感想>

- ・フルーツビンゴ、みんな集中してカードを見ている。日本語で児童に言わせる→得意になって言う(良い)。あえて児童に司会をさせないで教師が司会する→NS 授業に全員が集中できる(良い)。《分教室》

- ・先生との会話のやり取りや、字の書き方などに成長を感じました。《小学部》
- ・そうじ→自分の役割をきちんと教えこんでいて、こなしていたことが良かった。2名なので、各自役割を理解して動いていた。《中学部》
- ・そうじやきがえなど日常のことがきちんと身につけていて良かったです。《中学部》
- ・たくさん遊具があり、子どもたちが飽きることなく活動できていたと思います。この子には、この遊具で遊んでほしいという先生方の思いが伝わってきました。遊具を通して人とのかかわりが生まれていました。素晴らしいですね。《高等部》
- ・ボールあそびをしていたが、「ボール」の特性を感じることができる遊びを多く設定にあって良かった。子どもたちも楽しそうに遊んでいる姿が見られた。「夢中になって」遊ぶことは良いと思った。強いて言えば「転がして」ぶつけるボーリングのようなもの、又は、的にぶつけるようなものもあって良いのかなと思った。《小学部》
- ・児童が出来なかったことが先生のアイデアで出来たことが参考になった。個別に教材を考えて使用していたことが参考になった。《高等部》
- ・ていねいに確認したり、子どものペースに合わせて進めたりと、子どもに寄り添った授業が良いなと感じました。《分教室》
- ・児童の自発的なアイデアを称賛している場面が多くあり、意欲や自信につながっていると感じました。ダンスの披露や振り付けを考える活動の時にも近くに先生がいるので安心して取り組むことができ、その積み重ねが児童の力につながっているのだと改めて感じました。《高等部》
- ・「泣く」以外の訴え方は、どのように指導していますか？
 - 泣いている理由は様々だが…★予想と違って泣く場面→予め知らせておく
 - ★やりたくない→「嫌です」と伝えるようにさせる。
 - ★動きたくない→泣いていてもさせる。

< 中学部への意見や感想 >

- ・作業室が落ち着いて整理されている印象で良かった。落ち着いて作業に取り組んでいた。積み重ねの大切さを感じた。《高等部》
- ・小学部では、ちぎった新聞紙を床にまいて掃除している所が多いが、シュレッダーのゴミを活用して勉強になった。新聞よりも細かいゴミで、小学部よりもステップアップしていると思った。自分で進められることに気づかせる言葉かけが参考になった。《小学部》
- ・教室環境、教材・教具が適切で、スムーズな作業ができている。そのため、生徒が集中し、安心して学習に取り組んでいる。言葉かけも少なく、できるだけ生徒が自ら動けるように指導されている。《分教室》
- ・他の友達が今何をしているのか把握していて、話して伝えられてすごいと思った。流し掃除で、水滴が残らないように、丁寧にふき取っていて立派だった。連絡帳の、今日がんばった教科にシールを貼り、自分でファイルにしまっていた。《小学部》
- ・(釜中交流で)名札やビブスを生徒が配るなど、自分たちで進めている感じと、自然と関りが生まれるのが小の交流でも参考にできそうと思った。(両校の生徒同士が笑顔で話しているのが見られました)。交流を積み重ねていることで、生徒同士だけでなく、両校の生徒・先生で関係なく関りをもっているのがすごく良かった。いい交流を見させていただきました。《小学部》
- ・教師との関わりを楽しみ、安心して授業へ取り組んでいると思いました。《高等部》

- ・ひらがなと写真のマッチングで自分の興味があるものから教室の名前などの生活に関係するものを取り扱っていて良かった。《高等部》
- ・年賀状の学習でちょっと難しそうなマナーについて学んでいたりと、住所などの書く場所も教えていましたが、難しそうに感じました。頑張っって前に学んだことを思い出そうとして一生懸命に取り組んでいました。《高等部》
- ・書く時間と話す・聞く時間が明確に分けられていて、生徒が考える時間が保障されていると感じました。要所で押さえないポイントを、生徒との対話を通して確認しており、勉強になりました。《小学部》
- ・聴覚・視覚優位や手先の器用さ等、生徒個人の実態を踏まえた活動内容や配慮を教えてくださいたいです。《小学部》
 - 座位姿勢と机までの距離の調節に留意。
 - ・プリントの文字を12フォント以上にしている。
 - ・あえて文字を小さく書いたものを提示して、本人に話をさせ、学習の定着を図ったり、定着度を測ったりする。
- ・安全面について今回の作業の場合、生徒の力としてどのようなことができているのでしょうか？《小学部》
 - 針を操作するので、糸の長さや隣の人の距離に気を付けられると良いと思う。アイロンを操作している職員の傍に行かない、危険を予測する力。ルールを守る力。針やはさみなどを元に戻す、自分の持ち物を管理する力。

＜高等部への意見や感想＞

- ・「できました」「休憩してください」「うしろ通ります」など生徒同士が敬語で話し、共に仕事する人として意識しているのが良いと思った。
- ・自分で楽譜をめくりながら、太鼓をたたき、全員で合わせた演奏が、迫力があってよかったです。このような演奏が、できることに驚きました。《小学部》
- ・高等部になると、こんなに素敵な合奏ができるのかと驚きました。遠くにある楽譜を見て演奏ができるのは凄いなと思いました。一人一人に合わせた楽器や楽譜の配置等の配慮が勉強になりました。ありがとうございました。《小学部》
- ・組み紐・ミシン・アイロンがけ・値札など、作業内容によって取り組む場が違うので、生徒にとって作業内容や立ち位置などが分かりやすいと思った。立ち仕事の経験の積み重ねになるので、組み紐の取り組み、良いと思った。《中学部》
- ・しっかりとお金の使い方等の学習をされていてすごいと思いました。また、あの子達(小学部)が、数年後、こういう内容がわかるのか！？と少し心配になりました。少しずつ積み上げて行かないといけないなと思いました。・指示が的確(必要なことのみ分かりやすく伝えているので、生徒もしっかりと動いていた)。《小学部》
- ・生徒が集中できるように、教材の提示や言葉掛けをされていていいなと思いました。《分教室》
- ・自己紹介文を英語表記で行い、自己紹介している点で小学部との違いを感じました。また、話すだけでなく目にする英単語の数も多く、その点でも感じました。生徒だけの時間、教師が介入する時間が分けられていると感じ、生徒主体で活動するための手立てとして勉強になりました。《小学部》
- ・販売練習で、買う役と売る役を両方経験することで、買う人の立場になって、接客することができるのが良いと思いました。商品の説明がしっかりできており、立派だと思いました。《高等部》

- ・教員が、生徒が主体的に考えて動けるようなつづやきをしていることが勉強になりました。生徒が自分の作業について紹介したり、「これまで2年半がんばっています」と自分の状況を認識しており、これまでの経験の積み重ねと自分のことを理解して表現するための指導が行われてきたのだと感じ勉強になりました。《高等部》
- ・このレベルの演奏ができるようになるためにどのくらいの時数掛けているのかや、練習の過程を知りたいなと思いました。《小学部》
 - 部分練習を積み重ね、8時間で発表会ができました。T1が聴いていて苦手そうな部分を抜きだしてリズム練習したり、生徒に直接どこが苦手か聞いて練習することもありました。初回に楽器の運搬、取扱方、準備の役割分担を生徒一人一人にしっかり理解してもらうことでその後の授業がスムーズにできました。
- ・班内の仕事の分担は日替わりなのか、生徒の特性に合わせて固定なのか知りたいと思いました。
 - 班によって異なりますが、特性に合わせて作業を固定している生徒もいます。また、作る製品に応じて作業内容を臨機応変に変更しながら取り組んでいる生徒もいます。
- ・作業班はどのように決めているのでしょうか。
 - 4月に作業体験を行い、希望調査を取ったうえで、職員で協議し決定している。

<分教室への意見や感想>

- ・綱引き→にぎって引っ張る動きで、無理なく参加でき、かつ、楽しんでいるのが伝わってきて良かったです。玉入れ→ビー玉、ピンポン玉、カラーボールなど様々なボールが用意されていて、実態に応じて参加できるのが良いと思いました。
- ・職員の明るく分かりやすい指示、声かけが心地良く、とても良い雰囲気であった。
- ・重複学級で楽しめるレクやゲームについて色々参考になりました。

(4) 授業見学期間の実践のまとめ

- 授業づくりの参考だけではなく、学部間のつながりを確認するためのとても良い機会になっている。
- 新校舎になり、3学部同じ学部になったことで、行き来がしやすくなり、お互いに授業を見合うことで教育内容や児童生徒についての理解を深めることができた。
- 分教室はコロナ禍で直接参観できる機会がないので、ビデオ（間接的参観方式）で参観することができて良かった。
- 他学部や他の人の授業を見ることで、お互いの刺激になっている。
- 忙しい時期の設定になってしまったが、参観できた職員のアンケートでは好評だった。次年度以降も継続したい。
- 授業提供をしつつ、授業もしなければならぬために参観に行きにくい状況があった。次年度は公開する時期を学部ごとにずらして実施する。
- 授業チェックシートがあまり活用されなかった。授業の一部のみの参観では書きにくい項目もあり使いにくい面もあった。
- 分教室のビデオは共有ファイル上で観られるようにしていたが、参観者が少なかった。放課後に上映日を設けるなど検討が必要。

5 全校授業検討会

(1) 実施概要

ア ねらい

学部別研究で提供された授業実践を検討することで、各部の実践を共有するとともに意見を深める。

イ 日時

令和4年12月13日（火） 15：40～16：40

ウ 実施形式

グループ毎5つの分科会で行い、発表者以外は所属するグループ以外に参加する。

エ 分科会と授業提供者、協議のポイント

分科会	指導者	対象	教科・領域 単元名	助言者	協議のポイント
Aグループ 小学部 低学団	安部千恵子	知的通常 1～3年	遊びの指導 「まつりだ！ わっしょい！」	総括教務 及川高生	・遊びとしてのお祭りの題材の展開の工夫
Bグループ 小学部 高学団	柏葉真紀 (菅原桃子)	知的通常 4～6年	生活単元学習 「秋祭りをしよう」	副校長 千葉武徳	・小学部高学団の段階で付けさせたい力について
Cグループ 中学部	熊谷美早紀	知的通常 1～2年	生活単元学習 「新しい学校・新しい地域 について知ろう」	校長 外館悌	・地域住民との交流の継続や発展、関係づくりについて ・生徒の理解度の評価について
Dグループ 高等部	及川慧子	知的通常 3年	生活単元学習 「新校舎を飾って小中学部 を喜ばせよう」	副校長 佐藤康伸	・地域の社会生活に関わる活動について
Eグループ 分教室	野田泰弘	高等部 1年	自立活動 「様々な刺激を楽しもう」	教務主任 柿崎園美	・主体的に取り組む教材・教具の工夫、生活につなげる授業の工夫

オ 各分科会のメンバー構成と進め方

(ア) 各分科会のメンバー構成案 …… 1分科会10名程度 5名×2グループ

担当グループより授業者（T1）、担当研究部員（全体司会・記録）、助言者5名

T1以外の職員は、所属以外の学部の分科会への参加とする。

(イ) 進め方（60分）

① ビデオ等視聴と授業の説明（ねらいや対象生徒の様子（評価））（14分）

② グループワーク（4～5名×2G）（35分） *司会や発表者で1G

③ まとめ（6分）

④ 助言（5分）

(2) まとめ

今年度は全校授業検討会として、1時間の授業を参観しての授業研究会ではなく、一つの単元の内容のまとめや評価規準、単元の計画から実践での児童生徒の変化など、単元全体についての検討を行った。話し合う焦点が絞られたことで、少人数のグループながら、どのグループも活発な意見交換をすることができた。（詳細は各グループの実践報告を参照）

また、敢えて自分の所属していない学部のグループに参加することで、違う学部の単元設定や計画のたてかた、実践の様子について知ることができた。合わせた指導は具体的な指導内容が決まっておらず、指導者がどう考えるかが求められるので、授業検討会で授業づくりについて話し合うことができたことは有意義であったと考える。

VIII 研究のまとめ

1 研究の目標について

- (1) 各教科との関連を意識した学習指導案の作成と授業研究会を行い、各教科等の内容に関する理解を深める。

本研究を通して、学部（各グループ）ごとに合わせた指導を中心に教科間の関連について見直しを行った。そのうえで、これまであまり取り組まれていなかった学習内容に注目し、そのことをメインとして単元について実践を行った。また、その指導案をグループ内で検討したり、授業検討会を行ったりすることで一つの単元のまとまりとしての改善案が出された。これまで、学校の伝統として継承してきた内容を改めて教科との関連という観点で見直すことができたのではないかと思う。

- (2) 「主体的・対話的で深い学び」を推進するためにチェックシート等の実施により、意識の改善をさらに図る。

3年に渡って職員を対象に同じ質問のチェックシートを実施した。その結果、年度替わりで職員の入れ替わりがあっても、そのあとの職員間での意識の統一が速やかになっていることが結果から読み取ることができた。1年に2回の調査ではあったが、チェック項目を意識することで、学校の職員全体で授業や児童生徒に向かう基本姿勢が確かなものになっていると思われる。そのような職員の意識が、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」を育むことに繋がっていくと考える。

しかし、児童生徒側の「主体的な姿」「対話的な姿」「深い学びの姿」をみとめるための観察チェックシートの活用については研究部側からの提案が十分でなく、活用は一部にとどまった。次年度は教師側が自己の授業の振り返りにも活用できるようにしたい。

- (3) 「合わせた指導」と各教科等の内容に関する理解を推進し、新学習指導要領に示された内容やねらいを実現できるような授業づくりを行う。

教務部（学部長）と連携して、研究推進の手立てである「学習指導要領 目標・段階内容表」を作成し、それを活用した年間指導計画を作成した。また、年間指導計画の目標を学習指導要領の目標とリンクできるように様式を改定したことによって、より学習指導要領の内容を意識した指導計画をたて、授業づくりを行うことができるようにした。

- (4) 現在の学習内容の確認と年間指導計画の改善に向けた方向性を探る（課題や改善点の確認）。

本研究でこれまでの学習内容の確認と整理を行った。そのことで新学習指導要領の内容を確認することもでき、また教科との関連を意識した年間指導計画を作成することもできた。今後はその指導計画をもとに効果的な「主体的・対話的で深い学び」を行えるよう実践を行っていきたい。

- (5) 学習の教科間のつながりと系統性をあきらかにし、児童生徒の学習の深い学びを推進する。（カリキュラム・マネジメント）

教務部（学部長）と連携して、「年間指導計画」の様式を改定した。また、題材配列表を作成することで、教科間のつながりや時系列での系統性なども一瞥で確認できるようにした。今年度は試作に留まったが、次年度以降これらを活用して児童生徒の学習を深められるよう期待したい。

2 研究の成果

- 令和3年度に提案した年間指導計画を職員の意見を集約してさらに改善を図った。また、題材配列表を作成し、全教科の年間計画を一覧で確認しながら各教科・領域の計画を立てることができるようにしたことは、一人一人の児童生徒の深い学びを支えることになると思われる。
- 新学習指導要領の理解や各教科の内容について、手立てを作成したり、研修会を実施したりすることで、教職員の意識の向上を図ることができた。
- 「主体的・対話的で深い学び」の推進に関しては、それぞれの発達段階における「主体的な姿」「対話的な姿」「深い学びの姿」の児童生徒の具体的なイメージが職員間で共有できるようになり、授業研究会等でもより具体的に深い討議がされるようになった。
- 「学習指導要領 目標・段階内容表」「年間指導計画の新様式」の作成により、本校の系統的な学習への見通しがもてるようになった。

3 おわりに

2年に渡って行ってきた本研究は、本校の系統的な学習の実現と教科等横断的な視点による指導を進めるために様々な側面から行ってきた。学習指導要領のさらなる理解、合わせた指導を中心とする知的障がいを対象とした児童生徒の教育課程の特色の理解、自立活動や道徳教育についての理解など、児童生徒の育ちを支える礎となる内容について研修や実践を行いながら共通理解を図ってきた。また「学習指導要領 目標・段階内容表」「年間指導計画の新様式」を作成し、題材配列表を用いてのカリキュラム・マネジメントなど、視覚化して表すことでより計画を具体化することができた。

令和4年度には校舎移転も行われ、児童生徒も職員も新たな校舎、新たな地域社会、新たな環境の中で、新しい学びに夢や希望をもって様々な可能性を感じている。授業検討会の際にも新たな授業のアイデアや提案が活発になされた。また、これからの授業についての意見やアイデアが出される中で、小学部の「祭り」単元では地域の公民館とのつながりへの提案、中学部では平田地域の住民との交流や関係づくりだけでなく、これまで交流していた定内地域との交流が話題になった。さらにこれから地域社会で生きていく生徒の課題として地域の社会へどう関わっていくかということテーマとして協議された。どのグループでも自然に地域社会とどのように繋がりについて話題になっており、新しい環境のなか、地域社会と繋がりながら共に児童生徒の育ちを育みたいという意識を感じることができた。

本研究が釜石祥雲支援学校のこれまで培ってきた教育を、校舎移転と共にさらなる飛躍へのきっかけになることを願っている。本研究は今年度で一区切りとなるが、引き続き児童生徒の学びを深めるための研究に取り組んでいきたいと思っている。